

平成31年度入学生用
2年次（令和2年度）開講

履 修 要 項
(syllabus)

生活科学科

生活福祉専攻
食物栄養学専攻

鹿児島女子短期大学
Kagoshima Women's College

平成31年度入学生 教育課程 (2年次:令和2年度開講)

別表 第2 生活科学科 生活福祉専攻教育課程表 授業科目名の前の数字はページ番号

区分	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考		
			卒業履修単位数	選択	1前	1後	2前	2後			
										必修	選択
一般 教 養 科 目	わたしを知る・わたしを創る										
	心と思想の探求(人間の心に迫り人間を知る)										
		日本語表現の基礎	講義	2	2	2					
		倫理学★	講義	2	2	2			介護福祉士選択必修(人間と社会領域)		
		文学	講義	2	2	2					
		心理学	講義	2	2	2					
	健康の探求(健康な心と体をつくる)										
	13	体育講義	講義	1					1		
	17	体育実技	実技	1					1		
	社会を知る・社会につながる										
	社会の探求(社会に目を向ける)										
		社会学	講義	2	2	2					
		国際化と経済	講義	2	2	2					
		日本国憲法★	講義	2	2	2			介護福祉士選択必修(人間と社会領域)		
		歴史学	講義	2	2	2					
	21	WE LOVE 鹿児島!	演習	1					1		
	キャリアの探求(職業を考え人生を設計する)										
		インターンシップ	演習	2	2						
		キャリアガイダンスⅠ	演習	1		1					
	25	キャリアガイダンスⅡ	演習	1				1			
	世界を知る・世界を広げる										
	異文化の探求(海外に目を向ける)										
		海外事情	演習	2		2			海外研修		
		英語演習Ⅰ	演習		2				英語・フランス語・中国語・韓国語・日本語演習のいずれかのⅠ・Ⅱを連続選択履修 *日本語演習は留学生対象科目		
		フランス語演習Ⅰ	演習		2						
		中国語演習Ⅰ	演習	2		2					
		韓国語演習Ⅰ	演習		2						
		日本語演習Ⅰ	演習		2						
		英語演習Ⅱ	演習			2					
		フランス語演習Ⅱ	演習			2					
	中国語演習Ⅱ	演習	2		2						
	韓国語演習Ⅱ	演習			2						
	日本語演習Ⅱ	演習			2						
自然界の探求(いろいろな世界に目を向ける)											
	数学基礎★	講義	2	2	2			介護福祉士選択必修(人間と社会領域)			
	理科基礎	講義	2	2	2						
	分子からみた生物	講義	2	2	2						
	人間と環境★	講義	2	2	2			介護福祉士選択必修(人間と社会領域)			
最低修得単位数			7	7							
卒業最低修得単位数			14								

注: ★の科目から6単位以上選択必修「人間と社会領域」

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法				開講学期単位数				備考	
				卒業履修単位数		介護福祉士履修単位数		1前	1後	2前	2後		
				必修	選択	必修	選択						
専 門 科 目		【人間と社会】										医療実務士選択必修	
	31	人間の尊厳と自立◆	講義	2		2			2				
		人間関係とコミュニケーション▲	講義		2	2					2		
		社会学概論	講義		2	2		2					
		社会と制度の理解◆	講義	2		2		2					
		社会保障論	講義	2		2			2				
	33	住環境と福祉★	講義		2		2			2			
		レクリエーション概論★	講義		1		1	1					
		【介護】											介護福祉士選択必修(人間と社会領域) レクリエーションインストラクター資格必修
		介護の基本Ⅰ◆	講義	2		2		2					
		介護の基本Ⅱ◆	演習	1		1		1					
		介護の基本Ⅲ◆	講義	2		2			2				
	35	介護の基本Ⅳ	講義	2		2					2		
	37	社会福祉援助技術▲	講義		2	2				2			
	39	リハビリテーション論	講義		2	2				2			
		コミュニケーションの基礎▲◆	講義	2		2			2				
	41	コミュニケーション演習	演習		1	1					1		
		生活支援技術A◆	演習	2		2		2					
		生活支援技術B	演習		2	2			2				
	43	生活支援技術C	演習		2	2				2			
	45	生活支援技術D	演習		1	1					1		
		生活支援技術(住)	講義		2	2		2					
	47	生活支援技術(食・衣)	演習		2	2					2		
		介護過程Ⅰ	講義		2	2		2					
		介護過程Ⅱ	講義		2	2			2				
	49	介護過程Ⅲ	演習		1	1				1			
	51	介護過程Ⅳ	演習		1	1					1		
	53	ケアマネジメント	演習		1	1					1		
		介護総合演習Ⅰ・Ⅱ	演習		1	1		1					
	55	介護総合演習Ⅲ	演習		1	1				1			
	57	介護総合演習Ⅳ	演習		1	1					1		
	59	事例研究(ゼミナール)	演習		1	1					1		
		介護実習Ⅰ	実習		3	3			3				
	介護実習Ⅱ	実習		2	2			2					
61	介護実習Ⅲ	実習		2	2				2				
63	介護実習Ⅳ	実習		3	3					3			

注: ★の科目から6単位以上選択必修「人間と社会領域」
▲印=ピアヘルパー認定試験受験資格2科目4単位選択必修
◆印は介護職員初任者研修読み替え可能科目

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法				開講学期単位数				備考	
				卒業履修単位数		介護福祉士履修単位数		1前	1後	2前	2後		
				必修	選択	必修	選択						
専 門 科 目		【こころとからだのしくみ】											
		発達と老化の理解 ▲◆	講義	2		2		2					
		高齢者の介護 ◆	演習	1		1			1				
		認知症の理解	講義	2		2			2				
	65	認知症者の介護	演習		1	1				1			
		障害の理解Ⅰ◆	講義	2		2			2				
	67	障害の理解Ⅱ	講義		2	2				2			
		こころとからだのしくみⅠ(医学一般)◆	講義	2		2			2				医療秘書実務士選択科目
	69	こころとからだのしくみⅡ(精神)▲	講義		2	2						2	介護保険実務士1科目選択必修
		介護技術の基礎◆	講義	2		2			2				
	71	ターミナルケア	講義		2	2						2	
		【医療的ケア】											
		医療的ケア	講義		2	2			2				
		経管栄養	講義		2	2			2				
	73	喀痰吸引	講義		2	2				2			
	75	経管栄養演習	演習		2	2				2			
	77	喀痰吸引演習	演習		2	2						2	
		医療秘書実務士											
		基礎医学関連科目											
		解剖生理学	講義		2	2			2				
		薬理の基礎	講義		2	2			2				医療秘書実務士必修
	79	人類学	講義		2	2						2	
		医療秘書・実務関係科目											
		秘書実務	演習		2	2	2						
	81	医療秘書実務実習	実習		1	1				1			医療秘書実務士必修
		医療事務総論(医療秘書実務含む)	講義		2	2			2				
		医療事務演習	演習		2	2			2				
		介護保険実務士											
83	介護事務総論	講義		2	2				2			介護保険実務士必修	
85	介護事務演習	演習		1	1						1		
	関連科目												
	情報処理	演習		1	1		1					医療秘書/介護保険実務士必修	
	レクリエーション活動援助法Ⅰ	演習		1	1	1						レクリエーションインストラクター資格必修	
	レクリエーション活動援助法Ⅱ	演習		1	1		1						
87	レクリエーションワーク	演習		1	1					1			
89	聴覚障害者の生活支援	演習		1	1						1		
	最低修得単位数			28	20	84							
卒業最低修得単位数			必修 28	選択 20	合計 48								
最低修得単位数総計			卒業 62	[介護福祉士 98]									

注: ▲印=ピアヘルパー認定試験受験資格2科目4単位選択必修

◆印は介護職員初任者研修読み替え可能科目

別表 第2の2 [介護保険実務士]養成科目

(○印は専門科目と重なる)

ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考
			履修単位数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択					
(35)	○社会と制度の理解	講義	2		2				2科目 選択必修
	○介護の基本Ⅰ	講義	2		2				
	○介護の基本Ⅱ	演習			1				
	○介護の基本Ⅲ	講義				2			
○介護の基本Ⅳ	講義						2		
(69)	○こころとからだのしくみⅠ(医学一般)	講義	2			2			
	○こころとからだのしくみⅡ(精神)	講義						2	
(43)	○発達と老化の理解	講義	2		2				
	○生活支援技術A	演習	1		2				
	○生活支援技術B	演習				2			
	○生活支援技術C	演習					2		
(45) ○生活支援技術D	演習						1		
(53)	○情報処理	演習	1			1			
	○介護実習Ⅰ	実習	2			3			
	○ケアマネジメント	演習						1	
	○介護総合演習Ⅰ・Ⅱ	演習			1				
(83) ○介護事務総論	講義	2					2		
(85) ○介護事務演習	演習	1					1		
最低単位修得数総計 [15]			13	2					

別表 第2の3 [医療秘書実務士]養成科目

(○印は専門科目と重なる)

ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考	
			履修単位数		1前	1後	2前	2後		
			必修	選択						
基礎医学関係科目										
(79)	○解剖生理学	講義	2			2			学外実習	
	○薬理の基礎	講義	2			2				
	○人類学	講義	2					2		
医療秘書・実務関係科目										
(81)	○秘書実務	演習	2		2					
	○医療秘書実務実習	実習	1				1			
	○医療事務総論(医療秘書実務含む)	講義	2			2				
	○医療事務演習	演習	2			2				
	○情報処理	演習	1			1				
福祉関係科目										
	○社会と制度の理解	講義	2		2					
その他関連選択科目										
(31)	○人間関係とコミュニケーション	講義	4					2		
	○こころとからだのしくみⅠ(医学一般)	講義				2				
	○介護の基本Ⅰ	講義			2					
	○介護の基本Ⅱ	講義			1					
	○介護の基本Ⅲ	講義				2				
(35) ○介護の基本Ⅳ	講義						2			
最低修得単位数 [20]			20							

別表 第2の4 レクリエーション・インストラクター養成科目

(○印は専門科目と重なる)

ページ 番号	授業科目	授業 形態	履修方法		開講学期 単位数				備考
			履修 単位数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択					
	○レクリエーション概論	講義	1		1				
	○レクリエーション活動援助法Ⅰ	演習	1		1				
	○レクリエーション活動援助法Ⅱ	演習	1			1			
	現場実習(学外)	実習	(1)			(1)			2日間(9時間以上)
	最低単位修得数総計 [3 + (1)]								

別表 第2の5 [福祉メイクセラピスト]養成科目

(○印は専門科目と重なる)

ページ 番号	授業科目	授業 形態	履修方法		開講学期 単位数				備考
			履修 単位数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択					
	福祉メイクセラピー	演習	1		1				※集中講義
	最低修得単位数総計 [1]		1		/	/	/	/	

※介護職員初任者研修の修得方法については、学生便覧にて別に定める。
(春季・夏季集中講義計画:130時間以上)

平成31年度入学生 教育課程 (2年次:令和2年度開講)

別表 第3 生活科学科 食物栄養学専攻教育課程表 授業科目名の前の数字はページ番号

区分	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期 単位数				備考	
			卒業履修 単位数	必修	選択	1前	1後	2前		2後
一 般 教 養 科 目	わたしを知る・わたしを創る									
	心と思想の探求(人間の心に迫り人間を知る)									
		日本語表現の基礎	講義		2	2	2			
		倫理学	講義		2	2	2			
		文学	講義		2	2	2			
		心理学	講義		2	2	2			
	健康の探求(健康な心と体をつくる)									
	15	体育講義	講義		1			1		栄教免必修
	19	体育実技	実技		1			1		
	社会を知る・社会につながる									
	社会の探求(社会に目を向ける)									
		社会学	講義		2	2	2			栄教免必修
		国際化と経済	講義		2	2	2			
		日本国憲法	講義		2	2	2			
		歴史学	講義		2	2	2			
	23	WE LOVE 鹿児島!	演習	1					1	
	キャリアの探求(職業を考え人生を設計する)									
		インターンシップ	演習		2	2				
		キャリアガイダンス I	演習	1		1				
	27	キャリアガイダンス II	演習	1					1	
	世界を知る・世界を広げる									
	異文化の探求(海外に目を向ける)									
		海外事情	演習		2		2			海外研修 英語・フランス語・中国語・韓国語・日本語 演習のいずれかの I・II を連続選択履修 *日本語演習は留学生対象科目
		英語演習 I	演習			2				
		フランス語演習 I	演習			2				
		中国語演習 I	演習	2		2				
		韓国語演習 I	演習			2				
		日本語演習 I	演習			2				
		英語演習 II	演習				2			
		フランス語演習 II	演習				2			
	中国語演習 II	演習	2			2				
	韓国語演習 II	演習				2				
	日本語演習 II	演習				2				
自然界の探求(いろいろな世界に目を向ける)										
	数学基礎	講義		2	2	2				
	理科基礎	講義		2	2	2				
	分子からみた生物	講義		2	2	2				
	人間と環境	講義		2	2	2				
最低修得単位数				7	7					
卒業最低修得単位数				14						

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法				開講学期単位数				備考		
				卒業履修単位数		栄養士履修単位数		栄養免修得単位数		1前	1後		2前	2後
				必修	選択	必修	選択	必修	選択					
専門科目		社会生活と健康										児童福祉を含む		
		公衆衛生学Ⅰ	講義	1	1	1		1						
	93	公衆衛生学Ⅱ	講義	1	1	1			1					
	95	社会福祉概論	講義	2		2					2			
		人体の構造と機能												
		解剖生理学Ⅰ	講義	1	1		1							
		解剖生理学Ⅱ	講義	2	2		2		2					
	97	解剖生理学実験	実験	1	1		1			1				
	99	運動生理学	講義	1	1		1				1			
		栄養生化学Ⅰ	講義	2		2		2						
		栄養生化学Ⅱ	講義	2		2		2						
	101	病態生化学 ☆	講義	1		1		1			1			
	103	生化学実験A	実験	1						1				
	105	生化学実験B	実験	1	1		1			1				
		食品と衛生											食品加工学を含む	
		食品学総論	講義	2		2		2						
		食品学各論	講義	2		2			2					
		食品学実験	実験	1	1		1							
		食品衛生学	講義	2	2		2		2					
		食品衛生学実験	実験	1	1		1			1				
		栄養と健康											栄養士・栄養免選択必修(☆) 選択必修	
		栄養学総論	講義	2		2			2					
		応用栄養学	講義	2		2			2					
		応用栄養学実習	実習	1	1		1		1					
		臨床栄養学総論	講義	2	2		2		2					
	107	臨床栄養学各論	講義	2	2		2			2				
	109	臨床栄養学実習	実習	1	1		1			1				
		栄養の指導												
		栄養指導論Ⅰ	講義	2		2		2						
		栄養指導論Ⅱ	講義		2	2			2					
111	栄養指導実習Ⅰ	実習	1	1		1			1					
113	栄養指導実習Ⅱ	実習	1	1		1				1				
	公衆栄養学	講義	2		2			2						

区分	ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法						開講学期単位数				備考
				卒業履修単位数		栄養士履修単位数		栄教免修得単位数		1前	1後	2前	2後	
				必修	選択	必修	選択	必修	選択					
専 門 科 目	給食の運営													*学外実習(保育所、施設、給食センター) 栄養士・栄教免選択必修 *学外実習(保育所、施設、病院)
		給食管理	講義	2		2		2			2			
	115	給食実務演習Ⅰ	演習		1	1		1				1		
	117	給食実務演習Ⅱ	演習		1	1		1					1	
	119	給食管理実習Ⅰ	実習		1	1		1				1		
	121	給食管理実習Ⅱ・Ⅲ指導	演習		1	1		1				1		
	123	給食管理実習Ⅱ	実習		2		2					2		
	125	給食管理実習Ⅲ	実習		2							2		
	127	給食管理実習Ⅳ	実習		1	1		1					1	
		調理学	講義	2		2		2	2					
		調理学実習基礎	実験・実習		1	1		1	1					
		調理学実習Ⅰ	実習		1	1		1		1				
	129	調理学実習Ⅱ	実習		1	1		1				1		
	131	調理学実習Ⅲ	実習		1	1		1					1	
	関連科目													
		化学	講義		2		2		2	2				
		学校栄養教育論	講義		2		2	2		2				
	133	食品評価・鑑別実験	実験		1		1						1	
	135	食品加工学実習☆	実習		1		1					1		
	137	食料経済☆	講義		1		1		1				1	
	139	消費経済論	講義		1		1						1	
	141	フードスペシャリスト論	講義		2		2						2	
	143	フードコーディネーター論	講義		2		2						2	
	145	フードコーディネーター演習	演習		1		1						1	
	147	くらしとお茶A	講義		2		2			2				
		くらしとお茶B	講義		2		2					2		
	149	教育心理学▲	講義		2		2	2			2			
		教職概論	講義		2		2	2		2				
教育相談▲		講義		2		2	2					2		
情報機器演習		演習		2		2	2		2					
最低修得単位数				20	28	55	1	65	1					
卒業最低修得単位数		必修	20	選択	28	合計		48						
最低修得単位数総計		卒業	62	[栄養士		70]								

注: ▲印=ピアヘルパー認定試験受験資格2科目4単位必修

☆の科目から1単位以上選択必修(栄養士・栄教免)

別表 第3の2 栄養教諭関連科目（栄養に係る教育に関する科目及び教職に関する科目）
 (○印は専門科目と重なる)

ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考
			履修単位数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択					
	○学校栄養教育論	講義	2		2				学外実習
	教育原理	講義	2		2				
	○教職概論	講義	2		2				
	教育制度論	講義	2		2				
	○教育心理学▲	講義	2			2			
	特別支援教育	講義	2			2			
151	教育課程	講義	1				1		
153	道徳教育の指導法	講義	1					1	
155	総合的な学習の時間の指導法	講義	2					2	
157	特別活動の指導法	講義	1					1	
	教育の方法・技術	講義	1			1			
	生徒指導	講義	1			1			
	○情報機器演習	演習	2		2				
(149)	○教育相談▲	講義	2					2	
159	栄養教育実習指導	講義	1				1		
161	栄養教育実習	実習	1				1		
163	教職実践演習(栄養教諭)	演習	2					2	
	最低修得単位数		27						
	最低修得単位数総計 [栄教免 97]								

注：▲印＝ピアヘルパー認定試験受験資格2科目4単位必修

別表 第3の3 フードスペシャリスト養成科目（○印は専門科目と重なる）

ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法		開講学期単位数				備考
			履修単位数		1前	1後	2前	2後	
			必修	選択					
	○食品学総論	講義	2		2				食品加工学を含む 講義15時間を含む
	○食品学各論	講義	2			2			
	○食品学実験	実験	1		1				
	○食品衛生学	講義	2		2				
	○栄養学総論	講義	2			2			
	○調理学	講義	2		2				
	○調理学実習Ⅰ	実習	1			1			
(129)	○調理学実習Ⅱ	実習	1				1		
(133)	○食品評価・鑑別実験	実験	1					1	
(135)	○食品加工学実習	実習	1				1		
(137)	○食料経済	講義	1					1	
(139)	○消費経済論	講義	1					1	
(141)	○フードスペシャリスト論	講義	2					2	
(143)	○フードコーディネータ論	講義	2					2	
(145)	○フードコーディネータ演習	演習	1					1	
	最低修得単位数		22						
	最低修得単位数総計 [フードスペシャリスト 22単位 (+専26+一般14=卒業)]								

一般教養科目

生活福祉専攻
食物栄養学専攻

科目名	体育講義(生活福祉専攻)	科目ナンバー	
担当者	金浦 美咲		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	短大生活において充実した生活を送り、さらに生涯に渡って豊かな人生を送るために、心身の健全な育成と健康の増進が不可欠である。本講義ではスポーツ及び健康についての意義や役割を多角的な視点から概説し、現代社会における健康増進やスポーツの社会的発展に寄与・貢献できる基礎的な理解を深める。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツについての基礎的な理解を深めることができる 2. 健康についての基礎的な理解を深めることができる 3. スポーツと健康における相互関係の理解を深めることができる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(スポーツ及び健康についての概念)	金浦
第2回	スポーツと国際理解	金浦
第3回	運動と健康を考える①(有酸素運動と筋力トレーニング)	金浦
第4回	運動と健康を考える②(運動処方と生活習慣病)	金浦
第5回	運動と栄養を考える①(運動習慣と効果的なダイエット法)	金浦
第6回	運動と栄養を考える②(運動種目とスポーツ栄養学)	金浦
第7回	スポーツをめぐる現状と今日的課題	金浦
第8回	総括・まとめ	金浦
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	参考資料等を熟読する			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	講義内容を振り返る			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応
オフィスアワー	水曜日 10:35~12:55 研究室(体育館202号室)

テキスト	適宜資料を配布する
参考文献等	『これからの健康とスポーツ科学第4版』KSスポーツ医科学書
成績評価基準	健康に関する理解と積極的に健康管理に関われるようにする
成績評価の方法	定期試験(70%)、受講態度(30%)
GPA基準	
備考	

科目名	体育講義(食物栄養学専攻)	科目ナンバー	
担当者	大村 一光		
授業形式	講義	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養教諭		

授業の概要	からだを動かすことの少なくなった現代社会においては、各自が意図的に日常生活のなかに運動を取り入れ、それを積極的に実践していく必要がある。本講義では、各ライフステージ別にみられる今日的課題について解説し、選考に関係する栄養との視点にも着目しながら、その考え方など理解を深める
授業の到達目標	1. 健康に関する理解 2. 積極的に健康管理に関われるようにする

授業計画		担当者
第1回	各ライフステージの理解	大村
第2回	乳幼児期の課題と運動	大村
第3回	乳幼児期の発達と栄養	大村
第4回	青年期の課題と運動	大村
第5回	高齢期の課題(本県の特徴)	大村
第6回	高齢期の身体的特徴と運動	大村
第7回	高齢期の栄養	大村
第8回	スポーツの運動と栄養	大村
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				○

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	日常生活において、身体運動やスポーツを実施できるようにする	学習合計時間(h)	15時間
------	-------------------------------	-----------	------

事後学習	理論に基づく、身体活動やスポーツが実施できるようにする	学習合計時間(h)	15時間
------	-----------------------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	授業終了時などにおいて対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する
オフィスアワー	水曜日～金曜日 12:10～12:55 研究室(体育館101号室)

テキスト	特になし
参考文献等	授業計画に示す用語についてWEB上で検索し、理解を深める
成績評価基準	健康に関する理解と積極的に健康管理に関われるようにする
成績評価の方法	定期試験(70%)、受講態度(30%)
GPA基準	
備考	

科目名	体育実技(生活福祉専攻)	科目ナンバー	
担当者	大村 一光		
授業形式	実技	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報			

授業の概要	身体を動かす機会の少なくなった今日、余暇時間等におけるスポーツ・レクリエーション活動の必要性が高まってきている。そこで、生涯スポーツとして人気の高い種目を履修することにより各自が生涯にわたり、積極的にスポーツ・レクリエーション活動に参加(関わり)し、健康・体力の保持・増進ができるようにする。
授業の到達目標	1. スポーツ活動の楽しさを理解する 2. 積極的に健康管理に関われるようにする

授業計画		担当者
第1回	前半活動オリエンテーション、活動種目(パドミントン、バレーボール、卓球)の決定	大村
第2回	種目別活動I ルール説明、簡易ゲーム	大村
第3回	種目別活動II ルール説明、基礎練習、ゲーム	大村
第4回	種目別活動III ダブルス戦等(チーム内ゲーム)	大村
第5回	種目別活動IV ダブルス戦等(対抗戦)	大村
第6回	種目別活動V ダブルス戦等(対抗戦 2回戦)	大村
第7回	種目別活動VI シングル戦等(チーム内ゲーム)	大村
第8回	種目別活動VII 団体戦等	大村
第9回	後半活動オリエンテーション、活動種目(パドミントン、バレーボール、卓球)の決定、活動	大村
第10回	種目別活動II ルール説明、基礎練習、ゲーム	大村
第11回	種目別活動III ダブルス戦等(チーム内ゲーム)	大村
第12回	種目別活動IV ダブルス戦等(対抗戦)	大村
第13回	種目別活動V シングル戦等(チーム内ゲーム)	大村
第14回	種目別活動VI シングル戦等(入れ替え戦)	大村
第15回	種目別活動VII 団体戦等	大村

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	日常生活において、身体運動やスポーツを実施できるようにする			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	ルール等を理解して身体運動やスポーツを実施できるようにする			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	授業時などにおいて適宜対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する
オフィスアワー	水曜日～金曜日 12:10～12:55 研究室(体育館101号室)
テキスト	特になし
参考文献等	実施する種目についてWeb上で検索し、ルール等の事前事後学習として利用すること
成績評価基準	スポーツ活動の楽しさを理解するとともに、積極的に健康管理に関われるようにする
成績評価の方法	受講態度等(60%) 技術・技能点(40%)
GPA基準	
備考	

科目名	体育実技(食物栄養学専攻)	科目ナンバー	
担当者	金浦 美咲		
授業形式	実技	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養教諭		

授業の概要	身体を動かす機会の少なくなった今日、余暇時間等におけるスポーツ・レクリエーション活動の必要性が高まっている。本授業では、生涯スポーツとして人気の高い種目を履修することにより各自が生涯にわたり、積極的にスポーツ・レクリエーション活動に参加(関わり)し、健康・体力の保持・増進ができるようにする。
授業の到達目標	1. スポーツ活動の楽しさを理解することができる 2. 積極的に健康管理に関われることができる

授業計画		担当者
第1回	前半活動オリエンテーション、活動種目(バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球)の決定	金浦
第2回	種目別活動Ⅰ ルール説明、簡易ゲーム	金浦
第3回	種目別活動Ⅱ ルール説明、基本練習、ゲーム	金浦
第4回	種目別活動Ⅲ ダブルス戦等(チーム内ゲーム)	金浦
第5回	種目別活動Ⅳ ダブルス戦等(対抗戦)	金浦
第6回	種目別活動Ⅴ ダブルス戦等(対抗戦、2回戦)	金浦
第7回	種目別活動Ⅵ シングルス戦等(チーム内ゲーム)	金浦
第8回	種目別活動Ⅶ 団体戦等	金浦
第9回	後半活動オリエンテーション、活動種目(バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球)の決定、活動Ⅰ	金浦
第10回	種目別活動Ⅱ ルール説明、基礎練習、ゲーム	金浦
第11回	種目活動Ⅲ ダブルス戦等(チーム内ゲーム)	金浦
第12回	種目別活動Ⅳ ダブルス戦等(対抗戦)	金浦
第13回	種目別活動Ⅴ ダブルス戦等(対抗戦、2回戦)	金浦
第14回	種目別活動Ⅵ シングルス戦等(チーム内ゲーム)	金浦
第15回	種目別活動Ⅶ 団体戦等	金浦

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	実施する種目について、ルール等の事前事後学習を行う。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	参考文献等をもとにスポーツについての理解を深める。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	授業時などにおいて適宜対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応
オフィスアワー	水曜日 10:35~12:55 研究室(体育館202号室)
テキスト	適宜資料を配布する
参考文献等	観るまえに読む 大修館 スポーツルール2019(大修館書店)
成績評価基準	スポーツ活動の楽しさを理解するとともに、積極的に健康管理に関われるようにする
成績評価の方法	受講態度等(60%) 技術・技能点(40%)
GPA基準	
備考	

科目名	WE LOVE 鹿児島！（生活福祉）	科目ナンバー	
担当者	浜崎 眞美		
授業形式	演習	関連するDPの番号	④
配当年次	2	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	1	担当形態	
免許・資格情報			

授業の概要	地域の中で自分自身を位置づける「ローカルアイデンティティ」を「生きる力」とし、「地域活性化の担い手」となることを目指す。鹿児島は、過去の歴史を振り返っても、多くの様々な自然災害に見舞われている一方、たくさんの自然の恩恵にもあずかっている。そこで、防災や食を主とした地域の課題を探り、その内容の理解を深める。意欲的な地域課題への取り組みを通して、地域の担い手としての意識を高め、地域に貢献するための実践的な能力を身につけさせる。
授業の到達目標	1. 鹿児島における地域の課題や問題点を理解できる 2. 地域課題への取り組みを通して実践する力を身につける 3. 地域の担い手としての意識を高める

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	A
第2回	地域防災と災害時の対応について	A・B
第3回	災害時の介護	C
第4回	災害時の対応について(炊き出し)	A・B
第5回	災害時の対応について(包帯法)	A・B
第6回	災害時の食について	A・B
第7回	災害時の心のケア	D
第8回	鹿児島の地域福祉を体験する(介護の日活動)①	A
第9回	鹿児島の地域福祉を体験する(介護の日活動)②	A
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	関連する身の回りの地域課題を考える			学習合計時間(h)	10時間
事後学習	レポートをまとめ提出する			学習合計時間(h)	20時間

課題に対するフィードバックの方法	オフィスアワーを活用し対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	金曜日 17:55～18:15（講義室）

テキスト	特になし
参考文献等	植村健一著『桜島大噴火』春苑堂出版 石川秀雄著『桜島：噴火と災害の歴史』共立出版 かごしま文庫編集部編『手記'93風水害の中で』春苑堂出版 雑誌論文、新聞の活用など
成績評価基準	鹿児島における地域の課題や問題点を理解し、地域の担い手としての意識を高め実践する力が身についたものを合格とする。
成績評価の方法	レポートの内容と提出状況(100%)
GPA基準	
備考	COC科目 A: 谷川・竹中・福永・浜崎 B: 外部講師 C: 福永 D: 松元

科目名	WE LOVE 鹿児島!(食物栄養学)	科目ナンバー	
担当者	山崎 歌織		
授業形式	演習	関連するDPの番号	④
配当年次	2	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	1	担当形態	
免許・資格情報			

授業の概要	地域の中で自分自身を位置づける「ローカルアイデンティティ」を「生きる力」とし、「地域活性化の担い手」となることを目指す。鹿児島は、過去の歴史を振り返っても、多くの様々な自然災害に見舞われている一方、たくさんの自然の恩恵にもあずかっている。そこで、防災や食を主とした地域の課題を探り、その内容の理解を深める。意欲的な地域課題への取り組みを通して、地域の担い手としての意識を高め、地域に貢献するための実践的な能力を身につけさせる。
授業の到達目標	1. 鹿児島における地域の課題や問題点を理解できる 2. 地域課題への取り組みを通して実践する力を身につける 3. 地域の担い手としての意識を高める

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	A
第2回	地域防災と災害時の対応について	A・B・C
第3回	災害時の栄養について	D
第4回	災害時の対応について(炊き出し)	A・B・C
第5回	災害時の対応について(包帯法)	A・B・C
第6回	災害時の食について	A・B・C
第7回	テーブルマナー講座	A
第8回	鹿児島の食を学ぶ①	A・C
第9回	鹿児島の食を学ぶ②	A・C
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	関連する身の回りの地域課題を考える	学習合計時間(h)	10時間
------	-------------------	-----------	------

事後学習	レポートをまとめ提出する	学習合計時間(h)	20時間
------	--------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	オフィスアワーを活用し対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等で対応する。
オフィスアワー	金曜日 17:55～18:15（講義室）

テキスト	特になし
参考文献等	植村健一著『桜島大噴火』春苑堂出版 石川秀雄著『桜島：噴火と災害の歴史』共立出版 かごしま文庫編集部編『手記'93風水害の中で』春苑堂出版 雑誌論文、新聞の活用など
成績評価基準	鹿児島における地域の課題や問題点を理解し、地域の担い手としての意識を高め実践する力が身についたものを合格とする。
成績評価の方法	レポートの内容と提出状況(100%)
GPA基準	
備考	COC科目 A: 山崎・住澤・山元・寺師・改元・児玉・高本・木戸 B: 谷川・竹中・浜崎・福永 C: 外部講師 D: 改元

科目名	キャリアガイダンスⅡ(生活福祉専攻)	科目ナンバー	
担当者	浜崎 眞美		
授業形式	演習	関連するDPの番号	④
配当年次	2	科目群	一般教養科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	必修
単位数	1	担当形態	複数
免許・資格情報			

授業の概要	1年次のキャリアガイダンスを基に、働くことの社会的意義及び個人的意義を考える。また、卒業生を始めとした外部講師の講和等も参考に、進路のイメージを具体化し、実際の就職活動につなげる。
授業の到達目標	1. 働くことの意義を考える 2. 社会に関心を持ち、自己実現を目指し、行動する

授業計画		担当者
第1回	到達目標を設定し、自己啓発を行う	A
第2回	キャリアデザインの構築(進路を具体化する)	A
第3回	就職活動の実践的な進め方を学ぶ	B
第4回	職場の基本ルールを学ぶ	B
第5回	キャリアデザインに応じた働き方を理解する	C
第6回	就職活動の方法を深く理解する	B
第7回	将来設計ができるよう、労働法規などから仕事の取組み方を学ぶ	C
第8回	お礼状の書き方等を学ぶ	B
第9回	レポート等の提出	
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	キャリアセンター等で求人情報等を収集しておく	学習合計時間(h)	15時間
------	------------------------	-----------	------

事後学習	他施設で開催されるキャリアガイダンス等に参加する	学習合計時間(h)	15時間
------	--------------------------	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	履歴書などの記入方法を身に付け、実際に書いてみる。
質問・相談方法	授業の前後に質問の時間を設定する。
オフィスアワー	第1・第3水曜日 14:40～17:55 谷川研究室(西館316号室)
テキスト	特になし
参考文献等	『ビジネスマナーの基本講座』 ANA ラーニング 成美堂出版 2011年 1,000円(税抜き) (ISBN-13: 978-4415035734)
成績評価基準	到達目標に掲げた項目をおおよそ理解すること。
成績評価の方法	授業への参加態度(60%)とレポート等(40%)で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	COC科目 A:生活福祉専攻教員(谷川・竹中・浜崎・福永) B:就職ガイダンス(学生支援課職員) C:外部講師等(福祉施設関係者や生活福祉の卒業生等)

科目名	キャリアガイダンスⅡ(食物栄養学専攻)	科目ナンバー	
担当者	山崎 歌織		
授業形式	演習	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	一般教養科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	1	担当形態	複数
免許・資格情報			

授業の概要	講話や研修等の活動を通して自分の生き方を考え、人生の目標を掲げることを目的とする。同時に、地域が抱える様々な課題に積極的に取り組むことで地域の中で働くことの社会的および個人的意義を考えさせる。また、社会人としての仕事への取り組みや必要なマナーなど外部講師の講話等も参考に将来のキャリア形成につなげる。
授業の到達目標	1. 課題に取り組み、解決できる能力を身につける 2. 社会に関心を持ち、自己実現を目指し行動する実践力を身につける

授業計画	担当者
第1回 自分自身をみつめ将来を考える(自己分析・業界・職種分析)	A
第2回 社会人としての身だしなみについて、模擬面接をしてみよう	A・C
第3回 キャリアガイダンス(就職活動全般の指導)	A・B
第4回 就職活動の基本について(DVDから学ぶ)	A
第5回 キャリアガイダンス(就職活動指導:内定後の諸注意など)	A・B
第6回 実際に働く事について知る:企業説明会・卒業生の話し	A・C
第7回 キャリアガイダンス:労働法について(働く際の法律・制度)	A・C
第8回 志望動機の書き方	A・B
第9回 1・2年生の交流、就職体験報告会	A
第10回	
第11回	
第12回	
第13回	
第14回	
第15回	

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	地域が抱える課題について考える			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	課題に対し何が出来るか考える 授業後にレポート等にまとめる			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	レポート等の課題に対する質問があった場合、オフィスアワーを活用し個別に対応する
質問・相談方法	オフィスアワーを活用し、個別に対応する
オフィスアワー	木曜日 14:40～16:20（各講義室）
テキスト	特になし
参考文献等	『ビジネスマナーの基本講座』 ANA ラーニング 成美堂出版 2011年 1,000円(税抜き) (ISBN-13: 978-4415035734)
成績評価基準	各講義または活動に出席し、地域が抱える課題に向き合いその課題に対し改善策を考え、レポート等にまとめ提出した者を合格とする。
成績評価の方法	レポート等の提出状況と内容(100%)により評価する。
GPA基準	
備考	A: 専攻教員(山崎、住澤、山元、寺師、改元、児玉、高本) B: キャリアセンター C: 外部講師

專 門 科 目

生 活 福 祉 專 攻

科目名	人間関係とコミュニケーション	科目ナンバー	S13401
担当者	園田 美保		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	専門科目[人間と社会]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士 選択必修:医療秘書実務士 選択必修(▲4単位):ピアヘルパー		

授業の概要	主には社会心理学や発達心理学などでの知見をもとに、対人関係を様々な視点から見ていく。その中には、親子やきょうだい、仲間関係といった関係性から見る視点、関係づくりの中で働く心理的作用という視点、コミュニケーションをスキルでとらえる視点などが含まれる。また、人間関係が幸福感やストレスと関係することについても紹介し、よりよい人生を受講者自身で切り開くため、それらを元に改めて考える材料としてもらう。受講者には、これまでの自身のコミュニケーションや人間関係について授業に沿って考えてもらい、今後の対人関係に役立つ内容として考えたことを、授業内での小レポートで表現することを求める。
授業の到達目標	1. 他者と関わり生きている自分、自分と関わる他者・社会について主に心理学の視点から理解する 2. 日常生活での自身の行動や、これからの行動を見直す

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション インTRODクション, 授業計画と内容、人間関係を心理学すると?	園田
第2回	人間関係の始まり(親子関係、愛着)	園田
第3回	きょうだいや仲間関係 きょうだいの性格、きょうだいへの親の対応、仲間関係の発展	園田
第4回	対人認知 他者のパーソナリティ認知, 認知の歪み, 偏見	園田
第5回	印象形成 情報間の影響、印象形成の原理、自己呈示	園田
第6回	対人魅力 好意を高める条件	園田
第7回	非言語コミュニケーション 非言語コミュニケーションの機能や種類、社会的知能	園田
第8回	社会的スキル 人間関係のスキル, 社会的スキルの訓練法	園田
第9回	主張性 問題解決のためのアサーション	園田
第10回	友情と愛情 友人関係の意義と成立要因, 恋愛関係の類型化、恋愛のプロセスに関連する要因	園田
第11回	社会的自己 自己概念, 自己の形成プロセス, 自己評価、自己開示	園田
第12回	共感性 思いやりと共感性、共感の発達、共感的理解、共感的な接し方	園田
第13回	ストレスと人間関係 対人ストレス、ストレス緩和要因、ストレスとつきあう方法	園田
第14回	幸福感と人間関係 主観的幸福感、幸せ感と関連する要因、心理的well-being	園田
第15回	総括・振り返り 「人間関係とコミュニケーション」全体を振り返って	園田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
					○

担当教員の実務経験と授業の関連			
-----------------	--	--	--

事前学習	各回テーマに関して考えたり、指定された内容のインタビューを行う	学習合計時間(h)	15時間
------	---------------------------------	-----------	------

事後学習	・各回のキーワードを5語程ピックアップし説明できる程度に理解する ・コミュニケーション法において、自分の得意と苦手な分野をキーワードを使用し説明する ・今後の対人関係に役立てられる方法を考える	学習合計時間(h)	45時間
------	--	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業の最初に、前回の小レポートから複数例紹介し、解説を加える。また、Moodleを使ったフィードバック機能も用いる予定。
質問・相談方法	各回の授業後、もしくは小レポートで受け付ける。授業後やメールで時間調整できた場合も対応可能。
オフィスアワー	水曜日 16:30～17:30 研究室(西館310号室) 金曜以外で事前調整できた日時にも対応可能。
テキスト	特定のテキストは使用しない。毎回、資料を配布する。
参考文献等	各回のテーマにより異なるため、配布資料で提示。下記は一部例。『大学生のためのソーシャルスキル』橋本剛 サイエンス社 2008年 1650円(税抜き)ISBN-10: 4781911838 『人間関係づくりトレーニング』星野欣生 金子書房 2002年 1800円(税抜き) ISBN-10: 4760830251
成績評価基準	各回のキーワードと内容を理解し、自分や他者、日常生活と関連させ考えられるものを合格とする。
成績評価の方法	毎回の小レポートと受講態度(70%)と最終レポート(30%)で評価する。
GPA基準	
備考	15回目の授業にはそれまでの配布資料・自筆ノートを全て持参すること。2回目以降は少なくとも前回の資料は持参すること。

科目名	住環境と福祉	科目ナンバー	S12302
担当者	福田 真樹子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[人間と社会]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択必修:介護福祉士(★6単位)		

授業の概要	介護予防・在宅介護が施策で進められる中、「住宅」の重要性は増す一方である。生活支援技術(住)をふまえ、従来の住宅の問題点を理解し、住環境への幅広い考察力を養うことを目的に講義する。介護業務において介護保険を利用した住宅改修計画に有効な福祉住環境コーディネーターの資格に関する科目でもある。国家試験対策についても講義する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 室内環境調整の重要性や方法を学び、住宅や施設での介護に活かせるようになる。 2. 介護保険での住宅改修事例について学び、具体的要点を理解する。 3. 観光施設におけるバリアフリーの現状と課題を、グループディスカッションを通じてまとめる。

授業計画		担当者
第1回	介護実習Ⅲの目標の理解－実習記録より	福田
第2回	空間寸法の把握－記録用紙の提出	福田
第3回	鹿児島市の都市計画－用途地域と住宅改修	福田
第4回	観光施設におけるバリアフリー(学外研修)	福田
第5回	観光施設におけるバリアフリー(学外研修)	福田
第6回	観光施設とバリアフリーについてグループディスカッションし、まとめる	福田
第7回	環境調整－採光・照明・温湿度	福田
第8回	環境調整－通風・換気・遮音・吸音	福田
第9回	省エネ住宅	福田
第10回	木造住宅の構造・各部の名称と住宅改修	福田
第11回	アレルギー、シックハウス症候群	福田
第12回	介護保険下の住宅改修事例	福田
第13回	介護福祉士国家試験問題から－住宅改修の要点	福田
第14回	介護福祉士国家試験問題から－建築基準法との関係	福田
第15回	住宅困窮者とセーフティネット	福田

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○			○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	意味のわからない用語を調べておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	レポートを課す			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	個別指導を行う。講義で課題の要点を解説する。
質問・相談方法	授業の前後で対応する。
オフィスアワー	火曜日 10:20～10:35 講義室(本館309号室)
テキスト	『生活支援技術 I』 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2019年 2200円 (ISBN: 978-4-8058-5766-3)
参考文献等	『自宅でない在宅－高齢者の生活空間論』 外山義 医学書院 2003年 (ISBN:978-4-260-33291-0)
成績評価基準	観光施設におけるバリアフリーの現状と課題を理解し、室内環境調整の方法を理解すること。
成績評価の方法	レポートを2回課す。「観光施設とバリアフリーについて」「環境調整について」(いずれもA4で3枚以上)。結果で(100%)総合評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	介護の基本Ⅳ	科目ナンバー	S11401
担当者	福永 宏子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目〔介護〕
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士 選択必修:介護保険実務士・医療秘書実務士		

授業の概要	・介護福祉におけるチームケアの重要性を理解するために、様々な場面での事例を基に多職種協働や地域連携の重要性について説明やロールプレイなどの演習を取り入れて講義を行う。・「尊厳」を支える介護について、実習の体験や事例をもとに、介護福祉士としてどのような態度、視点が必要かを理解できるように講義する。
授業の到達目標	1. 介護福祉の現場におけるチームケアの重要性が理解できる。 2. 尊厳を支える介護とは何が具体的に理解できる。

授業計画		担当者
第1回	本科目の意義と目的	福永
第2回	多職種連携の意義と目的	福永
第3回	協働する職種の理解 専門職としてのそれぞれの役割	福永
第4回	利用者を取り巻く多職種連携の実際 グループワーク	福永
第5回	施設における多職種連携の実際	福永
第6回	在宅における多職種連携の実際	福永
第7回	地域連携の意義と目的	福永
第8回	地域連携にかかわる機関の理解 機関の役割	福永
第9回	地域で生活する利用者を取り巻く地域連携の実際	福永
第10回	地域で生活を開始する場合の地域連携の実際	福永
第11回	尊厳を支える介護とは	福永
第12回	尊厳を支える介護 関連法令の理解	福永
第13回	尊厳を支える介護 QOLとノーマライゼーションの実現	福永
第14回	尊厳を支える介護 介護実習の体験から考える	福永
第15回	介護の基本とは 科目まとめ	福永

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉の実務経験を活かし、介護福祉士としての基本的態度について教授する。		
事前学習	授業の予習(テキストを読む。わからない語句を調べておく)	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	内容の復習、学習内容と介護実習での体験に基づいたレポート作成の課題を課す	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	・内容に関連した小テストの実施。・課題については、個別に対応する。
質問・相談方法	授業中、オフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	水曜日 10:20～12:40 研究室(西館315号室)
テキスト	『最新介護福祉士養成講座3「介護の基本Ⅰ」』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2019年 (ISBN 978-4-8058-5763-2) 2,200円 『最新介護福祉士養成講座4「介護の基本Ⅱ」』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2019年 (ISBN 978-4-8058-5764-9) 2,200円
参考文献等	『七訂 介護福祉用語辞典』中央法規出版編集部編集 中央法規 2015年 2,600円(税別き) (ISBN: 978-4-8058-5094-7)
成績評価基準	・チームケアの重要性と多職種連携について理解している。・尊厳を支える介護とは何か説明できる。・関連する法律や施策について理解している。
成績評価の方法	定期試験(70%)、小テストと課題(30%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	単位互換[KRICE]提供科目

科目名	社会福祉援助技術	科目ナンバー	S11301
担当者	谷川 知士		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[介護]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士 選択必修(▲4単位):ピアヘルパー		

授業の概要	社会福祉援助技術とは、現代社会における生活上に課題を抱えている人々(疾病、障害、高齢、ひとり親家庭、貧困等)のよりよく生きたいと願う個々のニーズを把握し、それぞれに合った生活スタイルを的確に選択でき、社会生活の場で解決し自立を促す福祉の専門家による援助方法のことである。この援助技術を習得し、実践に役立つ福祉の専門家を目指す。
授業の到達目標	1. 相談援助の歴史的展開と意義を理解する 2. 社会福祉援助技術の原則を理解し、実践できる 3. 個別及び集団援助技術の基本原則を理解し実践できる

授業計画		担当者
第1回	社会福祉援助技術の歴史的展開と概念について学ぶ	谷川
第2回	社会福祉援助技術の意義と基本的枠組みについて学ぶ	谷川
第3回	社会福祉サービスとの関係について学ぶ	谷川
第4回	社会福祉援助技術の原則について学ぶ	谷川
第5回	社会福祉援助技術と介護福祉士の役割について学ぶ	谷川
第6回	直接援助技術の概要について学ぶ	谷川
第7回	間接援助技術の概要について学ぶ	谷川
第8回	個別援助技術の意義と原則について学ぶ	谷川
第9回	個別援助技術の過程と方法について学ぶ	谷川
第10回	集団援助技術の意義と原則について学ぶ	谷川
第11回	集団援助技術の過程と方法について学ぶ	谷川
第12回	関連援助技術の概要と方法について学ぶ	谷川
第13回	地域援助技術の概要と方法について学ぶ	谷川
第14回	スーパービジョンの意義と方法について学ぶ	谷川
第15回	介護現場における事例を通じた援助技術を学ぶ	谷川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連	相談支援コーディネーターの実務経験を活かし、具体的な社会福祉援助技術について教授する。				
事前学習	事前に配布された資料の、分からない用語は辞書等で調べておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	毎回の小まとめ用紙を半期(7回)終了後に持ち帰らせ、振り返りの時間を持たせ、最終日には全まとめを持ち帰らせて定期試験に臨む			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	授業終了時に毎回提出する授業のまとめ用紙に課題等の回答を促し、次回の授業で回答する。
質問・相談方法	授業中での質問時間を設定する。また気軽に質問し易いように、毎回提出する授業のまとめ用紙に質問事項を自由に記入させ、コメントを添えて次回の授業始めに返却する。
オフィスアワー	第1・第3水曜日 14:40～17:55 研究室(西館316号室)
テキスト	特になし
参考文献等	社会福祉援助技術論 大島 侑 ミネルヴァ書房 2016年 2,600円(税別)
成績評価基準	到達目標に掲げた項目をおおよそ理解すること。
成績評価の方法	授業への参加態度(20%)と期末試験(80%)で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	リハビリテーション論	科目ナンバー	S11302
担当者	丸野 里美		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[介護]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	リハビリテーションの理念、障害の構造、分類、さらに様々な障害の特徴を学ぶ。また発達と老化の観点を通して、予防医学を含めたリハビリテーションの重要性を考える。特に加齢と障害に主眼を置き、「介護を必要とする人」を生活の視点からとらえることについて内容を深める。講義は主にPowerPointを用いて進める。また実技を行い、身体機能についてや障害の理解を深める。理解の確認を行うために授業ごとの小テストを行う。
授業の到達目標	1. 身体機能の基本要素や老化、疾病、障害を理解する。 2. 障害が生活に及ぼす影響を理解する。 3. 自立支援について考察できる。

授業計画		担当者
第1回	リハビリテーションの歴史や理念、障害の概念について学ぶ	丸野
第2回	チームワークとしてのリハビリテーションについて学ぶ	丸野
第3回	ひとの身体機能、加齢と障害の基礎知識について学ぶ	丸野
第4回	廃用症候群のリハビリテーションについて学ぶ	丸野
第5回	脳血管疾患のリハビリテーションについて学ぶ	丸野
第6回	神経疾患、骨関節疾患のリハビリテーションについて学ぶ	丸野
第7回	高次脳機能障害、認知症について学ぶ	丸野
第8回	日常生活動作について学ぶ	丸野
第9回	実技1(身体機能について学ぶ)	丸野
第10回	実技2(リハビリテーション介護について学ぶ)	丸野
第11回	言語発達、失語症について学ぶ	丸野
第12回	構音障害、摂食嚥下のメカニズムについて学ぶ	丸野
第13回	介護予防、リハビリテーション専門職との連携について理解する	丸野
第14回	日常生活動作について学ぶ(グループワーク)	丸野
第15回	リスク管理について学び、発表してまとめる	丸野

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連	病院、在宅、高齢者、障害者施設での実務経験を活かして、リハビリテーション概論について教授する。				
事前学習	「日常生活の中で障害を持った方とのかかわりがあるとしたら」を意識し、疑問や、わからない用語等は辞書等で調べておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	毎回前項目の小テストを行うため、復習をその都度行う			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、課題の提出方法やフィードバックは求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	火曜日 12:50~16:20 講義室(南館301・西館203号室)
テキスト	『介護の基本 I』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2200円 (ISBN:978-4-8053-5763-2)
参考文献等	『福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト』 東京商工会議所
成績評価基準	到達目標にあげた項目を理解すること
成績評価の方法	定期試験(80%) 小テスト(10%) 受講態度(10%)
GPA基準	
備考	

科目名	コミュニケーション演習	科目ナンバー	S13301
担当者	谷川 知士、宮里 新之介		
授業形式	演習	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	専門科目[介護]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	介護を必要とする人の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは他職種協働におけるコミュニケーション能力を演習を通して身につける。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 利用者との様々なコミュニケーション技法を学び、障害特性に応じたコミュニケーション方法を考えることが出来る 2. 介護におけるチームのコミュニケーションの意義を理解する 3. 介護現場での様々なコミュニケーション方法を自ら考えられる

授業計画		担当者
第1回	介護におけるコミュニケーションの基本(オリエンテーション)	宮里
第2回	質問の技法	宮里
第3回	相談・助言・指導の技法	宮里
第4回	利用者の意欲を引き出す技法	宮里
第5回	利用者や家族の意向を調整する技法	宮里
第6回	複数の利用者がある場面でのコミュニケーション技法	宮里
第7回	コミュニケーション障害の理解	宮里
第8回	コミュニケーション障害のある利用者への対応	宮里
第9回	利用者の特性に応じたコミュニケーション(高次脳機能障害、失語症、構音障害)	宮里
第10回	利用者の特性に応じたコミュニケーション(認知症、視力・聴力障害、知的障害、精神障害)	宮里
第11回	チームのコミュニケーションとは	谷川
第12回	報告・連絡・相談の技術	谷川
第13回	記録の技術	谷川
第14回	会議・議事進行・説明の技術	谷川
第15回	総括	谷川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連	福祉施設等での実務経験を活かし、高齢者や障害者へのコミュニケーション方法やチームでのコミュニケーションについて教授する。				
事前学習	教科書の指定されたページまでを熟読し、分からない用語は辞書等で調べておく			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	毎回振り返りの時間を持たせる			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	授業終了時に毎回提出する授業のまとめ用紙に課題等の回答を促し、次回の授業で回答する。
質問・相談方法	授業中での質問時間を設定する。また気軽に質問し易いように、毎回提出する授業のまとめ用紙に質問事項を自由に記入させ、コメントを添えて次回の授業始めに返却する。
オフィスアワー	谷川:第1・3水曜日 14:40~17:55 研究室(西館316号室) 宮里:金曜日 10:35~12:05 研究室(本館312号室)
テキスト	「最新・介護福祉士養成講座5 コミュニケーション技術」 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2019年 2,200円
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に掲げた項目をおおよそ理解すること。
成績評価の方法	授業への参加態度(20%)と期末試験(80%)で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	生活支援技術C	科目ナンバー	S11303
担当者	浜崎 眞美、福永 宏子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[介護]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修:介護福祉士 選択必修:介護保険実務士		

授業の概要	<p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について明らかにする。生活支援技術Cでは、排泄の介護、移動・移乗の介護が主な内容となる。効果的な演習となるために、お互いに介護者役、利用者役を担いながら進める。心身の状況に応じた介護が実践できるために、介護技術の基礎で学んだことを深めることができるようにする。</p>
授業の到達目標	<p>1. 排泄の介護について具体的援助を実践できる。 2. 移乗・移動の介護について具体的援助を実践できる。</p>

授業計画		担当者
第1回	排泄の意義・目的、利用者の状況に応じたトイレ介助の留意点	福永
第2回	安全・的確な排泄介助技法(トイレ)	福永
第3回	安全・的確な排泄介助技法(ポータブルトイレ)	福永
第4回	利用者の状況に応じた介助(失禁時の介護・留意点)	福永
第5回	安全・的確な移動・移乗介助技法(歩行・補助具等)	福永
第6回	安全・的確な移動・移乗介助技法(移乗の一部介助)	福永
第7回	安全・的確な移動・移乗介助技法(移乗の全介助)	福永
第8回	安全・的確な排泄介助技法(まとめ)	福永
第9回	排泄の意義・目的(復習)、排泄におけるアセスメントについて	浜崎
第10回	安全・的確な排泄介助技法(おむつ交換)基本	浜崎
第11回	安全・的確な排泄介助技法(おむつ交換)実践	浜崎
第12回	安全・的確な排泄介助技法(尿器・差込便器)基本	浜崎
第13回	安全・的確な排泄介助技法(尿器・差込便器)実践	浜崎
第14回	安全・的確な排泄介助技法(実技試験)	浜崎
第15回	利用者の状態・状況に応じた排泄介助(導尿・浣腸等)	浜崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	「介護技術の基礎」「生活支援技術A」で学んだことを復習し、不明な点は質問する			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	実施した演習内容について、繰り返し練習を行う			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	福永:金曜日 12:10~14:00 研究室(西館315号室) 浜崎:金曜日 12:10~16:00 研究室(西館314号室)
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2200円 (ISBN:978-4-8058-5766-3) 『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2200円 (ISBN:978-4-8058-5767-0) 『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅲ』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2200円 (ISBN:978-4-8058-5768-7)
参考文献等	『最新・介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2600円 (ISBN:978-4-8058-5771-7) 『七訂 介護福祉用語辞典』 中央法規出版編集部編 中央法規 2015年 2600円 (ISBN:978-4-8058-5094-7)
成績評価基準	排泄の介護について、利用者の心身の状況に応じた具体的援助内容を理解すること。
成績評価の方法	実技試験とレポート(30%)、期末試験(70%)で総合的に判定する
GPA基準	
備考	

科目名	生活支援技術D	科目ナンバー	S11604
担当者	浜崎 眞美		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[介護]
開講期	通年	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士 選択必修:介護保険実務士		

授業の概要	<p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について明らかにする。生活支援技術Dでは、睡眠の介護と終末期の介護が主な内容となる。前期に睡眠の介護、後期に終末期の介護を進める。1年次で学んだ「介護技術の基礎」や「生活支援技術A」の復習ができるようにする。</p>
授業の到達目標	<p>1. 睡眠及び終末期の介護について具体的援助を実践できる。</p>

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション／睡眠の意義・目的	浜崎
第2回	睡眠における利用者のアセスメントについて	浜崎
第3回	利用者のさまざまな状況に応じた睡眠への介護とは、不眠時の対応	浜崎
第4回	安眠のための環境整備、ベッドメイキング(復習)	浜崎
第5回	ベッドメイキング(実技試験)	浜崎
第6回	睡眠の介護における多職種の役割と協働	浜崎
第7回	終末期とは、終末期ケアの意味	浜崎
第8回	終末期ケアにおける介護の役割	浜崎
第9回	終末期におけるアセスメントの視点、死に対する心理の理解	浜崎
第10回	家族・遺族へのケア	浜崎
第11回	危篤時の観察ポイントと介護の実際	浜崎
第12回	臨終期の介護	浜崎
第13回	死後のケア(確認)	浜崎
第14回	死後のケア(演習)	浜崎
第15回	週末期ケアにおける多職種の役割と協働	浜崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	介護技術の基礎及び生活支援技術Aで学んだ内容について、事前に復習をする			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	実施した演習内容について、繰り返し練習をする			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	前期:木曜日 10:30～13:00 研究室(西館314号室) 後期:金曜日 10:30～13:00 研究室(西館314号室)
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅱ』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2200円 (ISBN:978-4-8058-5767-0)
参考文献等	『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2200円 (ISBN:978-4-8058-5766-3) 『最新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅲ』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2200円 (ISBN:978-4-8058-5768-7) 『最新・介護福祉士養成講座 ころとからだのしくみ』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2600円 (ISBN:978-4-8058-5771-7)
成績評価基準	睡眠の介護及び終末期の介護について、利用者の心身の状況に応じた具体的援助内容を理解すること。
成績評価の方法	小テスト(10%)と実技試験(20%)、期末試験(70%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	

科目名	生活支援技術(食・衣)	科目ナンバー	S11605
担当者	鶴東 章子、今村 純子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[介護]
開講期	通年	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	<p>尊厳の保持の観点からどのような状態であってもその人の人格を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について伝授する。</p>
授業の到達目標	<p>(食) 1. 適切な生活支援ができる基本的な食事介護の知識・技術を習得する。 2. 学習した知識・技能を生かし具体的な食事サービス提供に繋げる。 (衣) 1. 被服のもつ多様な機能を理解しそれに応じた被服選択ができる。 2. 被服の管理に必要な知識・技術を身につける</p>

授業計画		担当者
第1回	食事の意義、食生活の基本知識、衛生管理(食中毒予防)	今村
第2回	調理操作の基本理論(実習)	今村
第3回	高齢者の身体機能と栄養(口腔支援と水分管理)(実習)	今村
第4回	障害のある人の栄養と食生活(安全で的確な介護食)(実習)	今村
第5回	家事支援における調理支援(自立を支え楽しい食を支える)	今村
第6回	家事支援における調理支援(自立を支え楽しい食を支える)	今村
第7回	施設での調理介助(実習)	今村
第8回	治療食、生活習慣病の配慮	今村
第9回	ひとり暮らしに便利な調理法、災害時の支援食(実習)	今村
第10回	調理上の様々な工夫や活用(有り合わせの食材を用いての献立作成・実技)(個人実習)	今村
第11回	被服生活の基礎知識(被服の機能/素材の性能/安全性)	鶴東
第12回	被服生活の基礎知識(被服と皮膚の衛生保持/布の吸水性)	鶴東
第13回	家事の介助の技法(被服の種類 素材別洗濯/しみ抜き)	鶴東
第14回	裁縫実習(衣服の補修)	鶴東
第15回	裁縫実習(高齢者、障害のある人の被服の工夫)	鶴東

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
			(食・衣)○		(食)○
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	(食)テキストによる予習。実習時にはレポート作成。日々調理に携わり、技術等の向上に努め、自身の食生活の改善にも繋げる (衣)テキストによる予習			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	(食)テキストによる復習。実習時にはレポート作成。日々調理に携わり、技術等の向上に努め、自身の食生活の改善にも繋げる (衣)毎回の講義前に実施する小テストに向けての学習実験・実習のレポート作成・裁縫作品の製作			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、授業内で課題の要点に触れるとともに、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	鶴東:金曜日 12:55~16:10 講義室(西館107号室) 今村:金曜日 12:55~16:10 講義室(西館203号室及び調理室)
テキスト	(食)『生活支援技術Ⅰ』介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版 2019 2,200円(税抜き) 『新版 基礎から学ぶビジュアルクッキング』改訂第9版 教育図書(株) 720円(税抜き) (衣)『新・介護福祉士養成講座〈6〉生活支援技術』介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2019 2,376円(ISBN:9784805854372)
参考文献等	文部科学省「日本食品標準成分表2015年版(七訂)」
成績評価基準	(食) 基本的な食事介護の知識・技術を理解すること。
成績評価の方法	(食) レポート(30%) 調理実習(30%) 定期試験(30%) 受講態度(10%)の総合評価 (衣) 小テスト(40%) レポート及び作品(30%) 受講態度(30%)
GPA基準	
備考	

科目名	介護過程Ⅲ	科目ナンバー	S11306
担当者	福永 宏子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[介護]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 他の科目で学習した知識や技術を統合して、適切な介護サービスが提供できるように介護過程の展開を、介護実習や事例課題を個人およびグループで演習を行い作成ができるように講義を進める。 介護実習要項で定められた書式について、正確に理解し使用できるように講義する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 一連の介護過程の展開ができる。 利用者の「尊厳の保持」「自立支援」を理解した、介護計画を作成することができる。 定められた書式を正しく理解し、記入することができる。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション 介護過程の展開とは(復習)	福永
第2回	アセスメント表1 情報の整理(個人指導)	福永
第3回	アセスメントの実際(情報の収集から課題の明確化まで)	福永
第4回	アセスメント表2 課題の明確化 (個人指導)	福永
第5回	計画の立案 目標の設定	福永
第6回	計画の立案 望む生活に向けた目標の設定(個人指導)	福永
第7回	計画の立案 介護内容と方法	福永
第8回	計画の立案 計画書の作成(個人指導)	福永
第9回	利用者の状態に応じた介護過程(高齢者)	福永
第10回	利用者の状態に応じた介護過程(障がい者)	福永
第11回	演習 介護過程の展開①(グループワーク)	福永
第12回	演習 介護過程の展開②(グループワークとまとめ)	福永
第13回	実習Ⅲでの介護過程の展開の方法と留意点 事前準備	福永
第14回	実習Ⅲでの事例での振り返り	福永
第15回	介護過程の展開 評価 科目まとめ	福永

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			○

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉の実務経験を活かして、介護支援の専門的展開について教授する。		
事前学習	授業の予習(テキストを読む。概論について理解する。プリントを整理する)	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	講義内容の部分のプリントの整理。加筆・修正をする	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	・学習した内容については、必ずプリントを仕上げておく。求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業中、オフィスアワーに対応する。
オフィスアワー	水曜日 10:20～12:40 研究室(西館315号室)
テキスト	『最新介護福祉士養成講座9「介護過程」』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2019年(ISBN 978-4-8058-5769-4) 2,200円
参考文献等	介護実習要項
成績評価基準	1.一連の介護過程の展開を利用者主体で作成できる。 2.介護過程の意義を理解できる。
成績評価の方法	定期試験(70%)、事例課題(30%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	

科目名	介護過程Ⅳ	科目ナンバー	S11402
担当者	福永 宏子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目〔介護〕
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・他の科目で学習した知識や技術を統合して、より専門的な介護過程を展開を介護実習Ⅳで取り組むことができるように、具体的な事例で繰り返し演習を中心に講義を進める。 ・介護実習において介護過程を展開し実践した結果についてまとめ、相互に発表をすることで、自分の視点の把握と知識および技術が身につくことができるように講義する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 計画した介護を利用者の状況に応じて適切に実施できる 2. 介護過程において評価とは何か理解し、自身で実施した介護を適切に評価することができる

授業計画		担当者
第1回	本科目の意義と目的 介護実習Ⅲの事例の整理	福永
第2回	事例のまとめ、完成(個人指導)	福永
第3回	事例のまとめ、完成(個人指導) 担当希望利用者の状態像の把握	福永
第4回	利用者の状態に応じた介護過程の展開 課題の明確化	福永
第5回	事例演習(課題の明確化から計画作成)	福永
第6回	事例演習 個人指導	福永
第7回	介護過程の実際 介護実習Ⅳで取り組む事例の整理 書式の準備	福永
第8回	介護過程の実際 チームケアと専門職種との役割、連携の方法	福永
第9回	介護過程の展開の実際 総復習	福永
第10回	介護過程の展開における チームカンファレンスの役割	福永
第11回	介護実習Ⅳでの介護過程の整理	福永
第12回	介護実習Ⅳで取り組んだ介護過程のまとめ(発表準備)	福永
第13回	介護過程の展開の実際 発表会	福永
第14回	介護過程の展開とチームアプローチの重要性	福永
第15回	科目まとめ 介護過程と介護福祉士の役割	福永

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○		○

担当教員の実務経験と授業の関連	介護福祉の実務経験を活かし、介護の実践的展開について教授する。		
事前学習	授業の予習(テキストを読む。概論について理解する。作成しているプリントを整理する。)	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	講義内容の部分のプリントの整理。加筆・修正をする	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	授業中の個別指導で対応する。必要に応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業中、オフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	金曜日 10:20～12:40 研究室(西館315号室)
テキスト	『最新介護福祉士養成講座9「介護過程」』介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規出版 2019年 (ISBN 978-4-8058-5769-4) 2,200円
参考文献等	介護実習要項
成績評価基準	1.利用者の状況に応じて介護計画を作成している。 2. 介護過程について理解している。
成績評価の方法	定期試験の成績(70%)、発表と課題(30%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	

科目名	ケアマネジメント	科目ナンバー	S12402
担当者	谷川 知士		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[介護]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士 選択:介護保険実務士		

授業の概要	日常生活において、何らかの生活困難に陥っている利用者(個人やその家族)は、複数の課題を抱えている場合が多い。加齢に伴う認知症や疾病及びその後の後遺症、また様々な障壁により、色々な不自由さを強いられ、経済的にも不利益を被ることが考えられる。こうした複合的な課題を抱えた方々に対し、そのニーズを包括的に把握し、公的な社会福祉サービスや地域の社会資源を利用者のニーズに合わせて的確に結びつけられる能力を養う。
授業の到達目標	1. ケアマネジメントの意義と実践に関する基礎知識を身につける。 2. 施設サービス計画書の意義を理解し、作成方法を身につける。 3. 居宅サービス計画書の意義を理解し、作成方法を身につける。

授業計画		担当者
第1回	ケアマネジメントの意義と必要性について学ぶ	谷川
第2回	ケアマネジメントの機能と体制について学ぶ	谷川
第3回	介護支援専門員の役割について学ぶ	谷川
第4回	ケアプランの意義と介護過程との関連について学ぶ	谷川
第5回	施設サービス計画の構成及び作成の手順について学ぶ	谷川
第6回	施設サービス計画の目標の設定について学ぶ	谷川
第7回	施設サービス計画の構成及び作成の手順について学ぶ	谷川
第8回	居宅サービス計画の構成及び作成の手順について学ぶ	谷川
第9回	居宅サービス計画の目標設定について学ぶ	谷川
第10回	居宅サービス計画の総合的な援助方針を作成する	谷川
第11回	生活全般の解決すべき課題の設定について学ぶ	谷川
第12回	具体的な援助内容の作成について学ぶ	谷川
第13回	サービス担当者会議の意義とその方法について学ぶ	谷川
第14回	関係機関との連携と必要性について学ぶ	谷川
第15回	ケアプランのプレゼンテーションについて学ぶ	谷川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連	相談支援コーディネーターの実務経験を活かし、多様な事例を示し、ケアマネジメントについて教授する。				
事前学習	事前に出された事例を熟読し、分からない用語は辞書等で調べておく			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	毎回の小まとめ用紙を半期(7回)終了後に持ち帰らせ、振り返りの時間を持たせ、最終日には全まとめを持ち帰らせて定期試験に臨む			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	授業において、ほぼ毎回提出するサービス計画書を添削し、次回の授業始めに返却する。
質問・相談方法	授業中での質問時間を設定する。また気軽に質問し易いように、毎回提出する授業のまとめ用紙に質問事項を自由に記入させ、コメントを添えて次回の授業始めに返却する。
オフィスアワー	第1・第3水曜日 14:40～17:55 研究室(西館316号室)
テキスト	「最新 介護福祉士養成講座」9 介護過程 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2019年 2,200円(税別) ISBN 978-8058-5769-4
参考文献等	厚生労働省のホームページより、各介護サービス計画書の作成手引きを参考にする。 「初めて学ぶケアマネジメント」 熊本守康著 中央法規出版 2007年 2,500円(税別)
成績評価基準	到達目標に掲げた項目をおおよそ理解すること。
成績評価の方法	授業への参加態度(20%)と各サービス計画書の作成(80%)で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	介護総合演習Ⅲ	科目ナンバー	S12303
担当者	浜崎 眞美、谷川 知士、福永 宏子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目〔介護〕
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	複数
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	介護総合演習は、実習と組み合わせての学習とする。介護実習前の介護技術の確認や施設等の理解及びオリエンテーション、実習後の反省会等を通じて、介護福祉士に必要な知識や技術、介護過程の展開能力等を学内での学びと実習での学びとを総合することで深めることができるように授業を進める。また、学生個人の学習到達状況に応じた学習の機会であるように工夫する。
授業の到達目標	1. 実習の目的を理解し、実習に必要な事前準備ができる。 2. 実習後の振り返りを通じて実習での学びをまとめることができる。 3. 各種の福祉用具を知り、使用方法を理解できる。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション／プロセスレコードとは何か	浜崎
第2回	プロセスレコードの個人指導(展開について)	浜崎
第3回	プロセスレコードの個人指導(考察)	浜崎
第4回	施設における介護の理解と実習の心得・進め方	谷川
第5回	介護実習Ⅲの目標・方法について	谷川
第6回	実習先の概要(介護老人保健施設)、実習の心得と進め方	福永
第7回	実習先の概要(小規模多機能型・通所リハビリテーション)、実習の心得と進め方	福永
第8回	福祉用具について(福祉機器展示相談センター見学)	谷川・浜崎・福永
第9回	福祉用具について(福祉機器展示相談センター見学)	谷川・浜崎・福永
第10回	介護実習Ⅲの実習目標・方法(確認)、受け持ち利用者のこと(準備)	浜崎
第11回	介護実習Ⅲの目標・方法(確認)、事前訪問について	浜崎
第12回	介護実習Ⅲについて(自己の実習計画を立てる)	福永
第13回	介護実習Ⅲ事前準備(服装チェック、実習反省会等)	浜崎
第14回	実習反省会	谷川・浜崎・福永
第15回	介護実習Ⅲの振り返り	谷川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	テキストを用いた予習、これまでの事前訪問記録の確認をする	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	実習で学んだことを自身でまとめ、反省会に向けた準備をする テキストやこれまでの配布資料を基に復習をする	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	谷川:第1・第3水曜日 14:40~17:55 研究室(西館316号室) 浜崎:木曜日 12:10~15:00 研究室(西館314号室) 福永:木曜日 12:10~15:00 研究室(西館315号室)
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2200円 (ISBN:978-4-8058-5770-0)
参考文献等	・実習要項 ・『最新・介護福祉士養成講座 介護過程』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年 2200円 (ISBN:978-4-8058-5769-4)
成績評価基準	・介護実習の目的を理解し、実習に必要な事前準備の必要性が理解できること。 ・実習後の振り返りにより、実習での学びをまとめることができること。
成績評価の方法	介護過程の展開(アセスメント~計画の立案:80%)、レポート(福祉機器について学んだこと:20%)
GPA基準	
備考	

科目名	介護総合演習Ⅳ	科目ナンバー	S12401
担当者	浜崎 眞美、谷川 知士、福永 宏子、福留 弘、星隈 幸子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[介護]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	複数
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	介護総合演習は、実習と組み合わせての学習とする。介護実習前の介護技術の確認や施設等の理解及びオリエンテーション、実習後の反省会等を通じて、介護福祉士に必要な知識や技術、介護過程の展開能力等を学内での学びと実習での学びとを総合することで深めることができるように授業を進める。また、学生個人の学習到達状況に応じた学習の機会であるように工夫する。
授業の到達目標	1. 実習の目的を理解し、実習に必要な事前準備ができる。 2. 実習後の振り返りを通じて実習での学びをまとめることができる。 3. 専門職としての介護福祉士の役割についてまとめることができる。

授業計画		担当者
第1回	介護実習Ⅳへの自己課題の明確化、実習評価の個人指導	谷川・浜崎
第2回	介護実習Ⅳについて(目標・方法等)、実習事前検査説明、事前訪問について	浜崎
第3回	障害者支援施設の理解と実習の心得・進め方	福留
第4回	医療型障害児入所・療養介護施設の理解と実習の心得・進め方	福留
第5回	多職種協働について	星隈
第6回	家族との連携について	星隈
第7回	介護実習Ⅳについて(夜勤や会議等への参加等)	浜崎
第8回	介護施設見学(先駆的な取組みを理解する)	谷川・浜崎
第9回	介護施設見学(福祉機器や用具を理解する)	谷川・浜崎
第10回	介護実習Ⅳ事前準備(服装チェック、実習反省会等)	浜崎
第11回	介護実習Ⅳについて(自己の実習計画を立てる)	浜崎
第12回	実習反省会	谷川・福永・浜崎
第13回	介護実習Ⅳにおける情報交換	福永
第14回	介護福祉士の役割を考える(グループディスカッション)	福永
第15回	専門職能団体の理解	福永

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	テキストを用いた予習、これまでの事前訪問記録の確認をする			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	実習で学んだことを自身でまとめ、反省会に向けた準備をする テキストやこれまでの配布資料を基に復習をする			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	谷川:第1・第3水曜日 14:40~17:55 研究室(西館316号室) 浜崎:木曜日 12:10~15:00 研究室(西館314号室) 福永:木曜日 10:20~12:55 研究室(西館315号室) 福留・星隈(非常勤):木曜日 10:20~10:35 講義室
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2200円 (ISBN:978-4-8058-5770-0)
参考文献等	・介護実習要項 ・『最新 介護福祉士養成講座 介護過程』 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規 2019年 2200円 (ISBN:978-4-8058-5769-4)
成績評価基準	・介護実習の目的を理解し、実習に必要な事前準備の必要性が理解できること。・実習後の振り返りにより、実習での学びをまとめることができること。
成績評価の方法	谷川・浜崎・福永:介護過程の展開(アセスメント~実施・評価・考察)(80%) 福留・星隈:授業内容に関連したレポート(20%)
GPA基準	
備考	

科目名	事例研究(ゼミナール)	科目ナンバー	S12605
担当者	浜崎 眞美、竹中 正巳、谷川 知士、福永 宏子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[介護]
開講期	通年	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	複数
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	介護福祉士の実践をより科学的に高めることを目的とし、事例研究を行う。 1～4回までは全体的内容の講義を行い、5回目以降は決められたゼミの担当教員の下で取り組み、中間報告を経て事例研究をまとめさせる。
授業の到達目標	1. 事例研究の目的について理解できる 2. 事例研究の書き方を理解し、研究テーマを設定できる 3. 事例研究をまとめることができる

授業計画		担当者
第1回	事例研究に取り組む意義・目的・方法について	A
第2回	事例研究のテーマについて説明、テーマの希望調査	B
第3回	テーマの希望調査結果について、研究計画書作成について	A
第4回	研究計画書作成について、論文の書き方について	A
第5回	事例研究(先行研究の検索方法について)	B
第6回	事例研究(先行研究の読み合わせ)	B
第7回	事例研究(先行研究のまとめと研究テーマの設定)	B
第8回	事例研究(研究テーマの設定と研究デザインの作成)	B
第9回	事例研究(研究デザインの作成)	B
第10回	事例研究(中間報告)	B
第11回	事例研究(事例の概要のまとめ)	B
第12回	事例研究(介護の展開・結果のまとめ)	B
第13回	事例研究(介護の展開・結果のまとめと考察)	B
第14回	事例研究(考察)	B
第15回	事例研究(総括)	B

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連	介護や看護等の実務経験を活かし、事例研究を具体的に教授する。				
事前学習	テキストによる予習、論文検索を含む情報収集、資料の収集			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	他論文、書籍内藤との比較、考察			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	各担当教員による、添削指導
質問・相談方法	各担当教員による、オフィスアワー等を利用したの質問時間を設定
オフィスアワー	谷川:第1・第3水曜日 14:40～17:55 研究室(西館316号室) 浜崎:月、水～金曜日 8:30～17:00 研究室(西館314号室) ※火曜は除く 福永:火～金曜日 12:10～17:00 研究室(西館315号室)
テキスト	「ケーススタディをはじめよう! 介護事例研究の手引き」 和田要・大島美登子・江原勝幸 日総研出版 2014年 2,200円(税抜き) (ISBN: 4-89014-881-7)
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に達することで評価する
成績評価の方法	事例研究のまとめおよび発表(100%)
GPA基準	
備考	A: 浜崎 B: 谷川・竹中・浜崎・福永

科目名	介護実習Ⅲ	科目ナンバー	S12304
担当者	谷川 知士、浜崎 眞美、福永 宏子		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[介護]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、前回までの実習経験や他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。介護実習Ⅲでは、鹿児島県内の入所施設(介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設のいずれか)にて実習し、2週間をかけて学ぶ。
授業の到達目標	1. 一連の介護過程の展開を行うことができる 2. 各種の住設備機器や福祉用具を知り、その使用方法を理解し、活用できる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション1(自己紹介、施設の概要について)	実習指導者
第2回	オリエンテーション2(一日の流れ・週間予定・年間予定について)	実習指導者
第3回	オリエンテーション3(感染予防に関する事、その他について)	実習指導者
第4回	オリエンテーション4(オリエンテーションの情報を記録する)	実習指導者
第5回	日課表沿った業務の進め方・内容を把握する	実習指導者
第6回	利用者の特性を知る(受け持ちの利用者について特性と現在の情報を把握する)	実習指導者
第7回	利用者ごとの介護計画を作成する(情報の解釈・関連づけ・統合化及び課題の明確化、具体的な介護計画を立案する)	実習指導者
第8回	指導者の助言のもと生活支援技術を用いながらの実習する	実習指導者
第9回	実習記録1(実習目標及び計画を記録する)	実習指導者
第10回	実習記録2(一日の目標と計画を指導者に報告し助言を受ける)	実習指導者
第11回	実習記録3(実習内容及び評価・考察についてまとめ記録する)	実習指導者
第12回	実習記録4(施設の住設備機器や福祉用具の名称と使用方法についてまとめ記録する)	実習指導者
第13回	利用者の特性を知る「フェイスシート」	実習指導者
第14回	利用者の状況を理解する「アセスメント表(1)(2)」、自己の作成した計画をより具体的に「個別援助計画書」	実習指導者
第15回	総括(実習の振り返り)	実習指導者

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○			○	

担当教員の実務経験と授業の関連	介護や看護等の実務経験を活かし、実習先での対応等について教授する。		
事前学習	施設でのオリエンテーションを受ける前に、施設の概要を調査し、用紙にまとめる	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	実習後に全員で反省会を開催し、意見交換で出てきた内容を代表者がまとめて各自に配布する	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	実習で発見した課題については、次回の実習に行かせるよう全体の反省会時にフィードバックする。
質問・相談方法	実習期間中は施設職員に尋ね、教員の巡回指導時にも質問できるようにしている。
オフィスアワー	谷川:第1・第3水曜日 14:40～17:55 研究室(西館316号室) 浜崎:月、水～金曜日 8:30～17:00 研究室(西館315号室) ※火曜は除く 福永:木曜日 10:20～12:55 研究室(西館315号室)
テキスト	「最新・介護福祉士養成講座」10 介護総合演習・介護実習 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2019年 2,200円(税別) ISBN 978-4-8058-57770-0
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に掲げた項目に達すること。
成績評価の方法	実習中の提出物や実習態度及び施設からの実習評価(100%)により総合的に評価する。
GPA基準	
備考	COC関連科目

科目名	介護実習Ⅳ	科目ナンバー	S12403
担当者	谷川 知士、浜崎 眞美、福永 宏子		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目〔介護〕
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	3	担当形態	複数
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、前回までの実習経験や他科目で学習した知識や技術を統合して、より具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。介護実習Ⅳでは、鹿児島県内の入所施設(介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設のいずれか)にて実習し、3週間をかけて学ぶ。
授業の到達目標	1. 一連の介護過程の展開を継続的に実践することができる 2. チームの一員としての役割を自覚し、総合的判断力を身につける

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション1(自己紹介、施設の概要について)	実習指導者
第2回	オリエンテーション2(一日の流れ・週間予定・年間予定について)	実習指導者
第3回	オリエンテーション3(感染予防に関する事、その他について)	実習指導者
第4回	オリエンテーション4(オリエンテーションの情報を記録する)	実習指導者
第5回	日課表沿った業務の進め方・内容を把握する	実習指導者
第6回	利用者の特性を知る(受け持ちの利用者について特性と現在の情報を把握する)	実習指導者
第7回	利用者ごとの介護計画を作成する(情報の解釈・関連づけ・統合化及び課題の明確化)	実習指導者
第8回	介護計画の実施・評価(課題の明確化、新たな介護計画の作成)	実習指導者
第9回	介護計画の実施(利用者の変化や反応を観察)	実習指導者
第10回	実習記録1(実習目標及び計画を記録する)	実習指導者
第11回	実習記録2(一日の目標と計画を指導者に報告し助言を受ける)	実習指導者
第12回	実習記録3(利用者の変化、夜間と日中の状態変化や反応を観察・考察し記録する)	実習指導者
第13回	実習記録4(、施設内の記録や申し送りの情報を記録、理解する)	実習指導者
第14回	施設内で行われる職員会議やケースカンファレンス等、施設運営プログラムに参加する	実習指導者
第15回	総括(実習の振り返り)	実習指導者

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○			○	

実習先での対応等に	介護や看護等の実務経験を活かし、実習先での対応等について教授する。		
事前学習	施設でのオリエンテーションを受ける前に、施設の概要を調査し、用紙にまとめる	学習合計時間(h)	45時間
事後学習	実習後に全員で反省会を開催し、意見交換で出てきた内容を代表者がまとめて各自に配布する	学習合計時間(h)	45時間

課題に対するフィードバックの方法	実習で発見した課題については、次回の実習に行かせるよう全体の反省会時にフィードバックする。
質問・相談方法	実習期間中は施設職員に尋ね、教員が実習訪問したときにも質問できるようにしている。
オフィスアワー	谷川：第1・第3水曜日 14:40～17:55 研究室(西館316号室) 浜崎：月、水～金曜日 8:30～17:00 研究室(西館315号室) ※火曜は除く
テキスト	「最新・介護福祉士養成講座」10 介護総合演習・介護実習 介護福祉士養成講座編集委員会編 中央法規出版 2019年 2,200円(税別) ISBN 978-4-8058-57770-0
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に掲げた項目に達すること。
成績評価の方法	実習中の提出物や実習態度及び施設からの実習評価(100%)により総合的に評価する。
GPA基準	
備考	COC関連科目

科目名	認知症者の介護	科目ナンバー	S12306
担当者	永峯 登美子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[こころとからだのしくみ]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	認知症者の捉え方を講義する。とりまく環境や病態を説明し、認知症者の理解を深め介護支援を指導する。
授業の到達目標	1. 認知症者の理解を深め、その人らしさを生かした介護の基本を身につけることができる 2. 家族支援と地域サポートについて学び、認知症者が安心できる生活支援を考えることができる

授業計画		担当者
第1回	認知症とは	永峯
第2回	脳と心 (DVD)	永峯
第3回	認知症の人の心理	永峯
第4回	認知症の原因疾患の検査と診断・治療	永峯
第5回	アルツハイマー型認知症	永峯
第6回	疾患の進行に応じた介護支援(BPSDの背景にあるもの)	永峯
第7回	若年性認知症の介護支援(社会生活における自己決定の介護)	永峯
第8回	障害を抱えて生きることへの支援	永峯
第9回	認知症ケアの理念と視点	永峯
第10回	認知症ケアの実際(パーソン・センタード・ケア)	永峯
第11回	認知症の人へのさまざまなアプローチ	永峯
第12回	認知症の人の終末期医療とケア	永峯
第13回	介護者支援	永峯
第14回	認知症の人の地域生活支援	永峯
第15回	多職種連携と協働	永峯

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	○

担当教員の実務経験と授業の関連	
-----------------	--

事前学習	「明日の記憶」のDVDを視聴する 認知症の理解の復習	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	演習・実技をグループワークで発表	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題についてレポート提出
質問・相談方法	レポートにて質問を受ける
オフィスアワー	火曜日 12:05~12:15 講義室(西館203号室)
テキスト	『新介護福祉養成講座8生活支援技術Ⅲ』 中央法規 2019年 3200円 (ISBN:978-4-8058-3942-3) 『新介護福祉養成講座12認知症の理解』 中央法規 2019年 2200円 (ISBN:978-4-8058-3142-7)
参考文献等	『よくわかるパーソン・センタード・ケア』 鈴木みずえ 池田書店 1400円 (ISBN:978-4-262-14588-4)
成績評価基準	定期試験において、到達目標に掲げた項目について6割以上理解できたと確認できた場合を合格とする。
成績評価の方法	定期試験(45分・80%) 発表態度(10%) レポート(10%)
GPA基準	
備考	

科目名	障害の理解Ⅱ	科目ナンバー	S12307
担当者	福留 弘		
授業形式	講義	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[こころとからだのしくみ]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	身体的、知的、精神的な面に障害のある人および難病のある人の医学的・心理的特徴と生活支援(生活理解、介護上の留意点)について解説する。また、障害のある人のサポート環境について解説する。
授業の到達目標	1. 身体的、知的、精神的な面に障害のある人および難病のある人の特徴を理解し、適切な生活支援の在り方を考えることができる。 2. 障害のある人のサポート環境について理解する。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(科目の意義と目的・ねらい)	福留
第2回	重症心身障害のある人の生活:重症心身障害の特徴と生活支援	福留
第3回	内部障害のある人の生活:心臓機能障害の特徴と生活支援	福留
第4回	内部障害のある人の生活:呼吸器機能障害の特徴と生活支援	福留
第5回	内部障害のある人の生活:腎臓機能障害、膀胱・直腸機能障害の特徴と生活支援	福留
第6回	内部障害のある人の生活:HIV・免疫機能障害、肝臓機能障害の特徴と生活支援	福留
第7回	知的障害のある人の生活:知的障害の特徴と生活支援	福留
第8回	精神障害のある人の生活:精神障害の特徴と生活支援	福留
第9回	高次脳機能障害のある人の生活:高次脳機能障害の特徴と生活支援	福留
第10回	発達障害のある人の生活:発達障害の特徴と生活支援	福留
第11回	難病のある人の生活:難病の特徴と生活支援	福留
第12回	障害のある人に対する介護委:介護の基本的視点と基本的視点に基づいた個別支援、社会資源の開発	福留
第13回	家族への支援:家族への支援、家族の状態の把握と介護負担の軽減	福留
第14回	連携と協働:保健・医療・福祉・教育・労働サービスの連携、地域におけるサポート体制、総括	福留
第15回	授業のまとめ:身体的、知的、精神的な面の障害及び難病のある人の生活支援のあり方について考える	福留

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業の予習(教科書における該当ページの読み込みと整理)			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業の復習(教科書における該当ページの読み込みと整理) 講義で学んだ障害について、メディア等を用いて情報収集する。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	講義で用いた資料、教科書の該当ページの見込み
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に口頭・質問票(書式なし)により対応
オフィスアワー	月曜日 14:25~14:35 講義室(西館203号室)
テキスト	『障害の理解 新介護福祉士養成講座』中央法規 2015年 2200円 (ISBN:978-4-8058-5115-9) 『生活支援技術Ⅲ 新介護福祉士養成講座』中央法規 2014年 2200円 (ISBN:978-4-8058-3942-3)
参考文献等	特になし
成績評価基準	定期試験において、到達目標に掲げた項目について6割以上理解できたと確認できた場合を合格とする。
成績評価の方法	定期試験(80%) 受講態度(20%)
GPA基準	
備考	

科目名	こころとからだのしくみⅡ(精神)	科目ナンバー	S11403
担当者	宮里 新之介		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[こころとからだのしくみ]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士 選択必修:介護保険実務士 選択必修(▲4単位):ピアヘルパー		

授業の概要	この科目では、心身の両面から被介護者の状態をアセスメントし、如何に被介護者の自立を支援するための介護方法が提供できるのかを考える力を養うことを目的に、人の精神機能及び老化に伴う身体・精神機能や心理状態の変化について講義を行う。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神・身体機能の変化に伴う心理状態について理解する 2. 被介護者の心身状態の基本的なアセスメントができる 3. 残存能力や意欲を引き出す援助の方向性を考えることができる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション／健康とは何か	宮里
第2回	こころのしくみの理解①(基本的欲求と高齢者のための国連原則)	宮里
第3回	こころのしくみの理解②(脳のしくみ)	宮里
第4回	こころのしくみの理解③(学習・記憶・思考のしくみ)	宮里
第5回	こころのしくみの理解④(感情・認知のしくみ)	宮里
第6回	高齢者の自己概念について	宮里
第7回	自己概念の生涯発達	宮里
第8回	身体・生理・心理機能の加齢的变化	宮里
第9回	排泄に関連したこころのしくみ	宮里
第10回	睡眠に関連したこころのしくみ	宮里
第11回	死にゆく人に関連したこころのしくみ	宮里
第12回	高齢者虐待	宮里
第13回	養護者への精神的支援	宮里
第14回	高齢者の心理的サポート(回想法、心理劇、動作法)	宮里
第15回	全授業を通しての質疑・応答	宮里

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	意味のわからない用語は辞書等で調べておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	前授業の理解度を測るためのミニテストを実施することがあるので、復習を行って授業に臨むこと			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー、また毎授業で実施する質問・感想記入シートへの回答で対応する。
オフィスアワー	木曜日 10:35~12:05 研究室(本館312号室)
テキスト	『こころとからだのしくみ』 介護福祉士養成講座編集委員会(編集) 中央法規出版 2019年 2600円(税別) (ISBN978-4-8058-5771-7)
参考文献等	特になし
成績評価基準	精神・身体機能の変化に伴う心理について理解し、被介護者の心身状態の基本的なアセスメントに基づいて援助の方向性を考えることができる。
成績評価の方法	定期試験(80%)、講義時の受講態度及びミニテスト(20%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	単位互換[KRICE]提供科目

科目名	ターミナルケア	科目ナンバー	S13402
担当者	馬見塚 勝郎、長倉 伯博、楠本 信道		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	専門科目[こころとからだのしくみ]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	高齢化社会において加齢を背景とした慢性期疾患、その中でも癌患者の増加が想定される。今までは緩和ケアは医療の現場で癌患者に対して必要とされる知識であった。今後の日本が迎える超高齢者社会においては単に癌だけではなく、高齢者がかかえる治療困難な慢性呼吸不全、心不全、腎不全、さらにはアルツハイマー型認知症などの末期に対しても介護施設で行われる事が予想される。当科ではこれらの対応すべく介護の現場で役にたつ人材育成を目標にする。
授業の到達目標	1. 高齢者の身体変化を知る 2. 癌の病態変化を知る 3. 介護の現場に役に立つ緩和ケアの基本的態度を身に着ける

授業計画		担当者
第1回	緩和医療総論:ターミナルケアの概要	馬見塚
第2回	死にまつわる文化:医学的な死(死の三兆候)	馬見塚
第3回	介護施設におけるターミナルケア:多職種協働	馬見塚
第4回	死をめぐる倫理的課題:病状告知と自己決定	馬見塚
第5回	ターミナル期の身体的特徴:各症状のメカニズム	馬見塚
第6回	高齢者の身体的変化:加齢的な内臓機能低下	馬見塚
第7回	ターミナル期の全人的苦痛:身体、精神、社会、霊的	馬見塚
第8回	ターミナル期にある家族への配慮:大切な人を失う苦痛	馬見塚
第9回	意思決定を支える援助:治療から緩和ケアのギアチェンジ	馬見塚
第10回	エンゼルケアの実際:死後のケア	馬見塚
第11回	トータルペインについて1) 理論と意味	長倉
第12回	トータルペインについて2) 症例を通して学ぶ	長倉
第13回	トータルペインについて3) 演習	長倉
第14回	インドにおける死生観と看取り	楠本
第15回	日本における死生観と看取り	楠本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				

担当教員の実務経験と授業の関連	医療やトータルペイン等の経験から、ターミナルケアについて教授する。				
-----------------	-----------------------------------	--	--	--	--

事前学習	祖父母の死に立ち会った経験などの思いをまとめておく	学習合計時間(h)	30時間
事後学習	毎回の授業後にミニレポート等を持ち帰らせ自宅学習する	学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	毎回の授業後に課題を提示、回答を促し次回の授業で検討する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	木曜日 12:05～12:15 講義室(西館204号室)
テキスト	『成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論(第2版)』鈴木 志津枝/内布 敦子編 ヌーベルヒロカワ 2011年 2,200円 (ISBN:9784861740442)
参考文献等	特になし
成績評価基準	評価において、到達目標に掲げた項目について6割以理解できたと確認できた場合を合格とする。
成績評価の方法	試験(80%) 記述(20%) 講義中に触れた内容を元にした、各自が考える施設でのターミナルケアの実践に関して試験・レポートを 実施する。
GPA基準	
備考	

科目名	喀痰吸引	科目ナンバー	S11307
担当者	浜崎 眞美		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目〔医療的ケア〕
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得できるように講義する。この科目では、医療的ケアの中の喀痰吸引を中心とし、呼吸器の理解や喀痰吸引のしくみ、必要な援助方法、報告・記録の必要性等を説明できることを目指し進める。医療的ケアに関する科目は、「医療的ケア」「経管栄養」「喀痰吸引」を履修し単位を修得することで、「経管栄養演習」及び「喀痰吸引演習」を履修することを基本とし、進めていく。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器のしくみ、呼吸苦がもたらす障害について説明ができる 2. 喀痰吸引のしくみ、安全な実施に関する説明ができる 3. 説明と同意の必要性、報告・記録の重要性について説明ができる

授業計画		担当者
第1回	呼吸のしくみとはたらき	浜崎
第2回	いつもと違う呼吸状態とは	浜崎
第3回	喀痰吸引とは、人工呼吸器と吸引	浜崎
第4回	人工呼吸器と吸引	浜崎
第5回	子供の吸引について、吸引を受けることの説明と同意	浜崎
第6回	呼吸器系の感染と予防(吸引との関連)	浜崎
第7回	実施に伴う危険・安全確認、事故発生時の対応や対策	浜崎
第8回	事故発生時の対応と対策、連携体制の確認	浜崎
第9回	用いる器具器材としくみ、清潔の保持について	浜崎
第10回	必要物品の準備・設備と留意点	浜崎
第11回	実施前の利用者の状態観察、利用者の準備と留意点	浜崎
第12回	実施手順と留意点、実施に伴う身体変化の確認と報告	浜崎
第13回	実施後の吸引物の確認と報告、片付け方法と留意点	浜崎
第14回	喀痰吸引に伴うケア	浜崎
第15回	報告及び記録について	浜崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	各回の授業内容について、次回までの間に復習し、不明な点は辞書等で調べる			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	授業中に実施する小テストについては、分かるまで辞書等で調べる			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	月曜日 10:30～13:00 研究室(西館314号室)
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 医療的ケア』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2600円 (ISBN:978-4-8058-5775-5)
参考文献等	『改定 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト』 一般社団法人全国訪問看護事業協会編集 中央法規 2017年 2000円 (ISBN:978-4-8058-5250-7)
成績評価基準	特に呼吸器のしくみと安全な喀痰吸引の実施につながる手順や留意点を理解すること。
成績評価の方法	期末試験(90%)、途中の小テスト(10%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	医療的ケアに関する科目は、基本的に、「医療的ケア」「経管栄養」「喀痰吸引」を履修し単位を修得した上でなれば、演習科目である「経管栄養演習」及び「喀痰吸引演習」を履修することはできない。

科目名	経管栄養演習	科目ナンバー	S11308
担当者	浜崎 眞美		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[医療的ケア]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得できるようにする。この科目では、医療的ケアの中の経管栄養を中心とし、シミュレーターを用いて効果的な演習を繰り返すことで、一連の支援過程を一人で実施できるようになることを目指し進める。また、救急蘇生法も一人で実施できることを目指し進めていく。演習の評価は、各行為最低5回の実施を評価表に基づいて行うこととし、手順通りにできて合格とする。合格するまで繰り返し行うようにする。
授業の到達目標	1. 胃ろう・腸ろう及び経鼻における経管栄養を一人で実施できる 2. 救急蘇生法を一人で実施できる

授業計画		担当者
第1回	胃ろう・腸ろうにおける経管栄養(一連の支援過程の確認)	浜崎
第2回	胃ろう・腸ろうにおける経管栄養(1/5回目)	浜崎
第3回	胃ろう・腸ろうにおける経管栄養(2/5回目)	浜崎
第4回	胃ろう・腸ろうにおける経管栄養(3/5回目)、手順の確認・振り返り	浜崎
第5回	胃ろう・腸ろうにおける経管栄養(4/5回目)	浜崎
第6回	胃ろう・腸ろうにおける経管栄養(5/5回目)	浜崎
第7回	経鼻からの経管栄養(一連の支援過程の確認)	浜崎
第8回	経鼻からの経管栄養(1/5回目)	浜崎
第9回	経鼻からの経管栄養(2/5回目)	浜崎
第10回	経鼻からの経管栄養(3/5回目)、手順の確認・振り返り	浜崎
第11回	経鼻からの経管栄養(4/5回目)	浜崎
第12回	経鼻からの経管栄養(5/5回目)	浜崎
第13回	救急蘇生法(1回目)	浜崎
第14回	救急蘇生法(2回目)	浜崎
第15回	経管栄養の安全・適切な実施とは(まとめ)	浜崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	「医療的ケア」「喀痰吸引」で学んだ内容を予習しておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	評価表に基づいて手順どおりに実施ができるように繰り返し練習を行う			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	演習(経管栄養)の評価に対して課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	水曜日 12:10～16:20 研究室(西館314号室)
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 医療的ケア』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規 2019年 2600円 (ISBN:978-4-8058-5775-5)
参考文献等	『改定 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト』 一般社団法人全国訪問看護事業協会編集 中央法規 2017年 2000円 (ISBN:978-4-8058-5250-7)
成績評価基準	胃ろう・腸ろう及び経鼻における経管栄養を、評価表に基づき手順どおりに最低5回の実施を達成したものは合格とする。
成績評価の方法	毎回の授業で実施する実技試験の成績(80%)と期末試験(実技)の成績(20%)を総合的に判定する。
GPA基準	
備考	

科目名	喀痰吸引演習	科目ナンバー	S11404
担当者	浜崎 眞美		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目〔医療的ケア〕
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:介護福祉士		

授業の概要	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得できるようにする。この科目では、医療的ケアの中で喀痰吸引を中心とし、シミュレーターを用いて効果的な演習を繰り返すことで、一連の過程を一人で実施できるようになることを目指し進めていく。演習は各行為最低5回の実施を、評価表に基づいて行うこととし、手順どおりに実施できて合格とする。合格するまで繰り返し行うようにする。
授業の到達目標	1. 口腔内及び鼻腔内、気管カニューレ内部の喀痰吸引を一人で実施できる

授業計画		担当者
第1回	口腔内吸引(一連の支援過程を確認、1/5回目)	浜崎
第2回	口腔内吸引(2/5回目)	浜崎
第3回	口腔内吸引(3/5回目)、手順の再確認・ふり返り	浜崎
第4回	口腔内吸引(4/5回目)	浜崎
第5回	口腔内吸引(5/5回目)	浜崎
第6回	鼻腔内吸引(一連の支援過程の確認、1/5回目)	浜崎
第7回	鼻腔内吸引(2/5回目)	浜崎
第8回	鼻腔内吸引(3/5回目)、手順の再確認・ふり返り	浜崎
第9回	鼻腔内吸引(4/5回目)	浜崎
第10回	鼻腔内吸引(5/5回目)、安全・適切な実施について(まとめ)	浜崎
第11回	気管カニューレ内部の吸引(一連の支援過程の確認、1/5回目)	浜崎
第12回	気管カニューレ内部の吸引(2/5回目)	浜崎
第13回	気管カニューレ内部の吸引(3/5回目)、手順の再確認・ふり返り	浜崎
第14回	気管カニューレ内部の吸引(4/5回目)	浜崎
第15回	気管カニューレ内部の吸引(5/5回目)、安全・適切な実施とは(まとめ)	浜崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	「医療的ケア」「喀痰吸引」で学んだ内容を予習しておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	評価表に基づいて手順どおりに実施ができるように繰り返し練習を行う			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	演習(喀痰吸引)の評価に対して課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	月曜日 12:10~16:20 研究室(西館314号室)
テキスト	『最新・介護福祉士養成講座 医療的ケア』 介護福祉士養成講座委員会編集 中央法規 2019年 2600円 (ISBN:978-4-8058-5775-5)
参考文献等	『改定 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト』 一般社団法人全国訪問看護事業協会編集 中央法規 2017年 2000円 (ISBN:978-4-8058-5250-7)
成績評価基準	口腔内及び鼻腔内の喀痰吸引と気管カニューレ内部の喀痰吸引とを、評価表に基づき手順どおりに、最低5回の実施を達成したものは合格とする。
成績評価の方法	毎回の授業で実施する実技試験の成績(80%)と期末試験(実技)の成績(20%)を総合的に判定する。
GPA基準	
備考	

科目名	人類学	科目ナンバー	S11405
担当者	竹中 正巳		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[医療秘書実務士]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:介護福祉士 必修:医療秘書実務士		

授業の概要	人々が健康に生きていくためには、個人と地域社会とのかかわりや、自然環境とのかかわりが重要となる。まず、ヒトの生物学的・生態学的な特徴を理解する。次に、現在の医療、病気、疾病予防や健康状態の保健衛生統計を知る。特に日本人について、日本列島の人類史の中で、さまざまな地域環境に適応し、暮らし、時代ごと、地域ごとにどのような病気が多いかということ知った上で、人の健康を考える。また、現代日本の疾病予防や健康増進の取り組みを理解する。
授業の到達目標	1. ヒトの生物学的・生態学的特徴を知り、社会生活において、疾病予防や健康増進の大切さを 知る。 2. 病気の流行や社会の衛生状態の歴史の変遷の実態を知り、現代日本の健康増進・疾病予防の取り組みを理解する。

授業計画		担当者
第1回	ヒトと人社会の生物学的特徴	竹中
第2回	ヒトの自然環境への適応	竹中
第3回	世界各地の人々の健康、病気と医療	竹中
第4回	現代日本の医療、病気、疾病予防や健康状態の保健衛生統計	竹中
第5回	生物統計の基礎	竹中
第6回	疫学研究の実際(現代)	竹中
第7回	疫学研究の実際(先史時代から近代)	竹中
第8回	先史時代の日本列島の病気や衛生状態の実態	竹中
第9回	中世日本列島の病気や衛生状態の実態	竹中
第10回	近世日本列島の病気や衛生状態の実態	竹中
第11回	感染症(流行の歴史の実態)	竹中
第12回	生活習慣病(出現頻度の歴史の実態)	竹中
第13回	現代日本の健康増進活動(母子・老人保健)	竹中
第14回	現代日本の健康増進活動(地域・学校保健)	竹中
第15回	現代日本の医療・社会保障制度と行政	竹中

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	参考図書や授業で紹介する文献をよく読んで講義に臨む			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	参考図書や授業で紹介する文献をよく読んで理解度を確かめる			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、受講者の求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	木曜日 12:10～12:50 研究室(本館502号室)
テキスト	特になし
参考文献等	国民衛生の動向2018/2019 雑誌 厚生指標 増刊 厚生労働統計協会 2018年 2,315円(税抜き) (ISSN 0452-6104)
成績評価基準	到達目標を踏まえて、解剖生理学の概要が理解できたと確認できた場合、合格とする。
成績評価の方法	レポート(100%)
GPA基準	
備考	

科目名	医療秘書実務実習	科目ナンバー	S12308
担当者	竹中 正巳		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[医療秘書実務士]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:介護福祉士 必修:医療秘書実務士		

授業の概要	病院で医療事務職の実務の実際を経験し、医事部門および病院全体の機能の概要を知る。特に受付や秘書業務の実践力を身につける。また、医療職と患者とのコミュニケーターとしての医療事務職の役割も理解することを目指す。
授業の到達目標	1. 医療秘書および医療事務に関する業務の基本を体得する 2. コミュニケーターとしての役割や行動を深く理解し実践できる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	実習指導者
第2回	受付事務	実習指導者
第3回	診療報酬請求事務・医事業務	実習指導者
第4回	医局・看護部門での秘書業務	実習指導者
第5回	病歴管理	実習指導者
第6回	病棟クラーク	実習指導者
第7回	診療部門での医療サポーター	実習指導者
第8回	患者さんとのコミュニケーション	実習指導者
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○			○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	実習内容について、資料や図書を用いて予習する			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	1日の実習について実習日誌をまとめ、経験できたこと、考えたことを振り返りながら、医療事務の業務への理解を深める			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、受講者の求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	オフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	木曜日 12:10～12:50 研究室(本館502号室)
テキスト	医療秘書実務実習実習記録(鹿児島女子短期大学)を配布する。
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標を踏まえ、現場での医療事務職の実際が理解でき、業務の基本が実践できたと確認された場合、合格とする。
成績評価の方法	実習先からの評価(80%) 実習先訪問の際の評価(20%)
GPA基準	
備考	実習の参加要件:「医療秘書実務実習参加資格審査会」において参加が認められた者に限る。

科目名	介護事務総論	科目ナンバー	S11309
担当者	片平 知博		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[介護保険実務士]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:介護福祉士 必修:介護保険実務士		

授業の概要	介護報酬を行ううえで必要な知識、介護保険制度の概要や医療保険(診療報酬)との関係、報酬請求までの流れを理解する。
授業の到達目標	1. 介護保険制度の報酬請求の仕組みと、請求事務について理解できる。 2. 介護保険と医療保険との関係について理解できる。

授業計画		担当者
第1回	介護保険制度の成立の背景・改革の経緯について	片平
第2回	介護保険制度の概要、運営主体(保険者)、被保険者について	片平
第3回	要介護認定とサービスの利用手続きについて	片平
第4回	介護サービスの種類、支給限度基準額、利用者の自己負担について	片平
第5回	介護保険と医療保険の関係について	片平
第6回	介護保険と公費負担医療の関係について	片平
第7回	給付管理業務の流れ、各種帳簿の作成の仕方について	片平
第8回	介護報酬の原則と特徴について	片平
第9回	居宅(在宅)サービスの算定の考え方、ポイントについて	片平
第10回	施設サービスの算定の考え方、ポイントについて	片平
第11回	介護報酬請求の流れについて	片平
第12回	介護給付費明細書の作成方法(訪問系サービス、通所系サービス、福祉用具貸与)	片平
第13回	介護給付費明細書の作成方法(短期入所、短期療養)	片平
第14回	介護給付費明細書の作成方法(施設サービス)	片平
第15回	教科の総括	片平

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			
担当教員の実務経験と授業の関連	介護保険制度における各サービスでの実務経験を活かして、制度設立の背景や給付管理について教授する。				
事前学習	専門用語について調べ、不明な部分や疑問についてまとめておくこと			学習合計時間(h)	20時間
事後学習	前回振り返り小テスト、期末試験のために復習すること			学習合計時間(h)	40時間

課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業後やオフィスアワーにて対応。
オフィスアワー	木曜日 12:05～12:15 講義室(西館204号室)
テキスト	『介護報酬基本テキスト』 ケアアンドコミュニケーション株式会社 2018年 3000円(税抜き)
参考文献等	特になし
成績評価基準	介護報酬の流れが理解でき、給付管理票が作成できること。 介護保険と医療保険において同じサービスがある場合、どちらが優先となるか理解できること。
成績評価の方法	期末試験(70%) 授業参加態度(30%)
GPA基準	
備考	

科目名	介護事務演習	科目ナンバー	S11406
担当者	片平 知博		
授業形式	演習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[介護保険実務士]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:介護福祉士 必修:介護保険実務士		

授業の概要	居宅介護支援事業所で必要なサービス計画作成・給付管理業務等の事務処理、介護サービス事業所で必要な介護給付費明細書の作成や請求業務等の事務処理を、実際に介護事務ソフトを使用し理解し身に着ける。
授業の到達目標	1. 各種サービスを組み合わせた計画を作成できる。 2. 介護保険制度の報酬請求の仕組みが理解でき、請求処理ができる。

授業計画		担当者
第1回	介護事務ソフトの操作方法について	片平
第2回	サービス事業所の登録方法について	片平
第3回	利用者基本情報の登録の仕方について	片平
第4回	週間計画表の作成・入力について	片平
第5回	サービス利用票・別表の作成・入力について	片平
第6回	訪問系サービス、福祉用具貸与の計画作成	片平
第7回	通所系サービスの計画作成	片平
第8回	短期入所生活介護・短期入所療養介護の計画作成	片平
第9回	訪問系、通所系、短期入所を組み合わせた計画作成	片平
第10回	請求業務の処理フロー	片平
第11回	公費負担、自己負担の異なるケースの計画作成・請求業務について	片平
第12回	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)の計画作成・請求処理	片平
第13回	介護老人保健施設の計画作成・請求処理	片平
第14回	介護療養型施設(診療所型・病院療養型)の計画作成・請求処理	片平
第15回	教科の総括	片平

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
					○
担当教員の実務経験と授業の関連	各サービス毎の実務経験を活かし、介護サービス事業所で即戦力となる実践的な給付管理業務について教授する。				
事前学習	居宅・施設各サービスの違いについて把握しておくこと			学習合計時間(h)	5時間
事後学習	作成した各サービス毎の給付管理票について見直しすること			学習合計時間(h)	10時間

課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業後やオフィスアワーにて対応。
オフィスアワー	木曜日 14:25～14:35 MM教室(南館401号室)
テキスト	『介護報酬基本テキスト』 ケアアンドコミュニケーション株式会社 2018年 3,000円(税抜き) 『介護保険演習問題集』 ケアアンドコミュニケーション株式会社 2018年 3,000円(税抜き)
参考文献等	特になし
成績評価基準	各サービスを組み合わせたサービス計画に沿ったサービス利用票を作成できること。 居宅サービス毎の請求から国保連に請求するまでの過程が理解できること。
成績評価の方法	期末試験(70%) 授業参加態度(30%)
GPA基準	
備考	

科目名	レクリエーションワーク	科目ナンバー	S12601
担当者	中村 礼香、井上 周一郎、松下 茉莉香		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[関連科目]
開講期	通年	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	選択:介護福祉士		

授業の概要	介護福祉士として、利用者の方の豊かな表現を引き出し、楽しく活動するための基本的な技術を多様な音楽活動や製作活動を通して解説する。
授業の到達目標	1. 介護現場で簡単な音楽活動を指導できるようになる技術を習得する。 2. 様々な製作活動を通して介護現場で利用者と共に表現活動を行うための基本的な技能を習得し表現の喜びを味わう。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	中村
第2回	童謡・唱歌について学ぶ	中村
第3回	歌謡曲について学ぶ	中村
第4回	演歌について学ぶ	中村
第5回	郷土の民謡・わらべうた遊び・手遊びについて学ぶ	中村
第6回	簡易楽器を用いたレクリエーション活動について学ぶ	中村
第7回	ハンドベルを用いたレクリエーション活動についてグループワークを通して学ぶ	中村
第8回	スライムによる感触遊びについて学ぶ	井上
第9回	紙粘土による粘土遊びについて学ぶ	井上
第10回	新聞紙でバッグづくりについて学ぶ	井上
第11回	折り紙による多様な製作について学ぶ	井上
第12回	多様な表現技法を体験し、理解する	松下
第13回	水彩画(構図・形を捉える・着色)について学ぶ	松下
第14回	スチレン版画について学ぶ	松下
第15回	色水による染め紙づくりについて学ぶ	松下

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	【中村】介護施設で行われている音楽活動を調べておく。 【井上・松下】介護施設における様々な製作活動について調べておく。			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	【中村】実習施設で実践する。 【井上・松下】実習施設で実践する。			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	実習を通して学んだことを授業内で共有し、解説する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	中村:水曜日 10:35～12:05 研究室(本館601号室) 井上:金曜日 16:25～17:55 研究室(本館609号室) 松下:金曜日 16:25～17:55 研究室(本館602号室)
テキスト	中村:『童謡と唱歌 日本のこころ』野ばら社 2010年 440円(税抜き)(ISBN978-4-88986-373-4) 井上・松下:特に指定せず、適宜資料を配布する
参考文献等	中村:『高齢者のための元気が出る!音楽レクリエーション』オフィスリブスタイル監修 ナツメ社 2014年 1,800円(税抜き)(ISBN978-4-8163-5717-6) 松下:『わくわくレクプログラム集』木下正明 日総研グループ 2012年 2,190円(税抜き)
成績評価基準	中村:介護施設における音楽活動について理解する。井上・松下:現場における製作活動について理解する。
成績評価の方法	中村:受講態度(30%)、レポート(20%)で評価する。井上・松下:受講態度(10%)、作品(40%)で評価する。
GPA基準	
備考	第1回から第7回までの音楽活動は前期開講、第8回から第15回までの製作活動は後期開講

科目名	聴覚障害者の生活支援	科目ナンバー	S13403
担当者	下田代 修子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	専門科目[関連科目]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:介護福祉士		

授業の概要	聴覚障害者のコミュニケーションである手話を学ぶことにより、言語が人間形成にどのような関わりを持つのかを知る。聴覚障害のある介護利用者に合わせたコミュニケーション手段で更に専門的な知識を得て、介護力を充実させる。
授業の到達目標	1. 日常会話及び介護に関わる手話を取得できる 2. 障害程度に伴う援助の手段を理解できる

授業計画		担当者
第1回	講義 聴覚障害について 実技一名前の表現・ものの動き	下田代
第2回	講義一聴力検査について 実技一挨拶・身振り	下田代
第3回	講義一補聴器について 実技一家族の表現	下田代
第4回	講義一聴覚障害者のコミュニケーションの保障 実技一趣味の表現	下田代
第5回	実技一聴覚障害者への支援 実技一数字の表現・伝言トレーニング(視覚的に捉える練習)	下田代
第6回	講義一重複障害 盲ろう者に応じた介護 1 実技一職業の表現	下田代
第7回	講義一重複障害 盲ろう者に応じた介護 2 実技一指文字	下田代
第8回	校外実習 実際の機材や用具施設を見学する(下田代補聴器センター)	下田代
第9回	講義一言語障害について 実技一時刻の表現 1	下田代
第10回	講義 言語障害のある人への配慮について 実技一時刻の表現 2	下田代
第11回	実際、聴覚障害者の方と手話を使い交流をする(自己紹介の実技到達確認)	下田代
第12回	実技一介護現場で使う会話用語の表現練習 1	下田代
第13回	講義一介護における移動技術の展開 実技一模擬演習	下田代
第14回	実技一実技一介護現場で使う会話用語の表現練習 2	下田代
第15回	ロールプレイ サポート支援のあり方について検討	下田代

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連	聴覚に障害のある方が装用する補聴器に日々従事しており、その専門的な知識を教授する。		
事前学習	テレビ等の手話講座の放送を視聴し、実技を体験したり、クラブ活動で学習をする	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	前回習った手話の復習をする	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	授業内での課題に際し、習得レベルに到達していない場合、個別に対応する。
質問・相談方法	授業前後に対応する
オフィスアワー	火曜日 8:50～10:20 講義室(西館203号室)
テキスト	『生活支援技術Ⅲ』 介護福祉養成講座委員会 中央法規 2019 2200円(税抜き) (ISBN:978-4-8058-5768-7) 『障害の理解』 介護福祉養成講座委員会 中央法規 2019 2200円(税抜き) (ISBN:978-4-8058-5774-8) 講師持参資料
参考文献等	特になし
成績評価基準	・授業内の演習レポート、ショートレポートの提出内容が一定の理解を評価できること ・手話取得技術が一定の基準を到達できること。
成績評価の方法	演習レポート(25%) ショートレポート(25%) 技術評価(25%) 受講態度(25%)
GPA基準	
備考	本授業は、受講者数が5名未満の場合、開講されません。

專 門 科 目

食物栄養学専攻

科目名	公衆衛生学Ⅱ	科目ナンバー	S21333
担当者	郡山 千早		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[社会生活と健康]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	公衆衛生学は、人々の健康の保持、増進と疾病や障害を予防し、健康な状態で生活できることに貢献する学問である。そのためには、国民の生活、健康状況の様々な実態把握が必要不可欠である。公衆衛生学Ⅱでは、実態把握に必要な知識やそれに基づく社会保障や医療制度についても理解することを目標に講義を行う。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会生活において健康増進の大切さを理解する 2. 現代社会の実態や問題点を理解する 3. 健康増進への取組みが行われている組織・活動を理解する

授業計画		担当者
第1回	保健統計の概要、人口静態統計、人口動態統計	郡山
第2回	生命表、疾病統計	郡山
第3回	疫学概念、疫学の指標とバイアス	郡山
第4回	疫学 研究デザイン; 記述疫学、分析疫学、介入研究	郡山
第5回	疫学 スクリーニング、根拠に基づく医療	郡山
第6回	疫学研究と倫理	郡山
第7回	社会保障と行政	郡山
第8回	医療制度	郡山
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	配布資料を事前に読んでおくこと			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	授業最後に課題を提示するので調べること			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	授業内で解説する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する
オフィスアワー	金曜日 16:10～16:20 (講義室)

テキスト	テキストは指定しません 必要に応じてプリントを配布します
参考文献等	『国民衛生の動向』 厚生労働統計協会 2019年
成績評価基準	試験及びレポート等で、社会生活における健康増進や現代社会の実態や問題点を6割以上理解できたと確認できた場合を合格とする。
成績評価の方法	定期試験(80%) レポート提出など(20%)
GPA基準	
備考	

科目名	社会福祉概論	科目ナンバー	S21451
担当者	谷川 知士		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[社会生活と健康]
開講期	後期	卒業の選択・必修	必修
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	<p>栄養士は食から健康を支援する大切な役割があり、超高齢社会においては福祉サービスとして重要な位置づけがされている。特に福祉施設における栄養士の重要性は増してきており、就職先としても病院関係だけでなく、保育所や認定こども園、障がい者支援施設での需要も高まっている。栄養士を目指す学生は社会福祉に関する各種の法律や制度を理解して、社会福祉に関する基礎知識を身に付け、福祉施設の役割や連携のあり方を学ぶ必要がある。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の歴史的背景と意義及び法体系について理解する 2. 社会保障制度の目的と原則について理解する 3. 社会福祉援助技術の目的と役割について理解する 4. 福祉施設における栄養士の役割や他職種との連携について理解する

授業計画		担当者
第1回	社会福祉の意義と概念について学ぶ	谷川
第2回	社会福祉の歴史と背景について学ぶ	谷川
第3回	現代社会における社会福祉の制度と法体系について学ぶ	谷川
第4回	貧困問題と生活保護について学ぶ	谷川
第5回	高齢者福祉とサービス体制について学ぶ	谷川
第6回	介護保険制度とサービス体系について学ぶ	谷川
第7回	障がい児・者の福祉サービス体系について学ぶ	谷川
第8回	障害者総合支援法の概要について学ぶ	谷川
第9回	児童家庭福祉と少子化対策について学ぶ	谷川
第10回	年金・医療保険制度について学ぶ	谷川
第11回	精神保健福祉法と発達障害者支援法について学ぶ	谷川
第12回	社会福祉援助技術における対人援助技術について学ぶ	谷川
第13回	個別援助技術と集団援助技術について学ぶ	谷川
第14回	社会福祉施設の職員と栄養士の連携及びチームワークについて学ぶ	谷川
第15回	社会福祉の動向と今後の展望について考察する	谷川

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連	福祉団体での実務経験を活かし、福祉政策等の全般を教授する。				
事前学習	教科書の指定されたページまでを熟読し、分からない用語は辞書等で調べておく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	毎回の小まとめ用紙を半期(7回)終了後に持ち帰らせ、振り返りの時間を持たせ、最終日には全まとめを持ち帰らせて定期試験に臨む			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	授業終了時に毎回提出する授業のまとめ用紙に課題等の回答を促し、次回の授業で回答する。
質問・相談方法	授業中での質問時間を設定する。また気軽に質問し易いように、毎回提出する授業のまとめ用紙に質問事項を自由に記入させ、コメントを添えて次回の授業始めに返却する。
オフィスアワー	第1・第3水曜日 14:40～17:55 谷川研究室(西館316号室)
テキスト	『社会福祉』〔新版〕片山義弘編著 北大路書房 2018年 1,700円(税別) ISBN 978-4-7628-2837-9
参考文献等	特になし
成績評価基準	到達目標に掲げた項目を理解すること。
成績評価の方法	授業への参加態度(30%)と期末試験(70%)で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	解剖生理学実験	科目ナンバー	S21334
担当者	竹中 正巳		
授業形式	実験	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[人体の構造と機能]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	自らの身体機能の計測等を通し、循環器系、感覚器系、骨格系、筋肉系、神経系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系の構造や機能についての理解を深める実験・実習を行う。人体の正常な構造と機能に関する知識を実験を通して体得する。
授業の到達目標	1. 循環器、感覚器、骨格、筋肉、神経、呼吸器の理解 2. 構造と機能の関連に関する理解

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	竹中
第2回	循環に関する実験Ⅰ(血圧とその調節、運動機能検査)	竹中
第3回	循環に関する実験Ⅱ(心電図、運動機能検査)	竹中
第4回	感覚に関する実験Ⅰ(味覚)	竹中
第5回	感覚に関する実験Ⅱ(錯視)	竹中
第6回	骨格に関する実習Ⅰ(人体構造の立体的位置関係の把握)	竹中
第7回	骨格に関する実習Ⅱ(人体構造の立体的位置関係の把握)	竹中
第8回	歯に関する実習Ⅰ(乳歯、永久歯の形態の観察)	竹中
第9回	歯に関する実習Ⅱ(永久歯列と無歯顎)	竹中
第10回	体温に関する実験(身体各部の温度、体温とその調節機構)	竹中
第11回	神経疲労に関する実験(フリッカー試験、疲労とは、視環境)	竹中
第12回	呼吸に関する実験(スパイロメーターを用いた実験、肺機能検査)	竹中
第13回	組織標本の観察	竹中
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	実験の手順を記したプリント、参考書をよく読んで実験に臨む			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	実験後は、得られたデータをもとに考察を深め、レポートを作成する			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、受講者の求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	木曜日 12:10～12:50 研究室(本館502号室)

テキスト	テキストは特になし。実験の手順を記したプリントを配布する。
参考文献等	『系統看護学講座1 解剖生理学』坂井建雄・岡田隆夫 医学書院 2018年 3,800円(税抜き)(ISBN: 978-4-260-03171-4)
成績評価基準	到達目標を踏まえて、解剖生理学の概要が理解できたと確認できた場合、合格とする。
成績評価の方法	実験ごとに提出するレポート(70%)、筆記試験(30%)
GPA基準	
備考	※教育効果向上のため、2コマ(180分)×13回で実施する

科目名	運動生理学	科目ナンバー	S21452
担当者	大村 一光		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[人体の構造と機能]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	<p>身体のさまざまな生命現象のメカニズムを研究する学問に生理学があるが、なかでも運動・スポーツによって、身体の諸器官、機能がどのような働きを示し、それらがどのように変化するのかを明らかにする学問を運動生理学と呼ぶ。本講義では、ウォーキング、ジョギングなど身近な運動を通して運動による人体生理機序の理解をはかる。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体各種機能の理解を深める 2. 運動に伴う機能の変化を理解する 3. 指導現場への応用ができるようにする

授業計画		担当者
第1回	運動と身体組成(体脂肪率、除脂肪体重)	大村
第2回	運動と筋肉(骨格筋)	大村
第3回	運動とエネルギー(無酸素運動の定義と運動効果)	大村
第4回	運動とエネルギー(有酸素運動の定義と運動効果)	大村
第5回	運動と呼吸(最大酸素摂取量と運動による変化)	大村
第6回	運動と循環(運動による循環系への適応 スポーツ心臓と毛細血管)	大村
第7回	運動と神経(運動と技能の上達、神経系の役割)	大村
第8回	運動と骨(骨粗しょう症、運動の効果)	大村
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○			○
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	これまでの様々なボランティア活動等の整理を行う			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	現場での実習として2年間で2回の活動を行い、支援力の認識を行う			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、必要に応じて個別に対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーなどで対応する
オフィスアワー	水曜日～金曜日 12:10～12:55 研究室(体育館101号室)

テキスト	特になし(授業中に自作資料を配布する)
参考文献等	特になし(関連する項目についてWEBなどを利用して学習すること)
成績評価基準	人体各種機能の理解を深め、運動に伴う各機能の変化を理解できること
成績評価の方法	定期試験(70%)、受講態度(30%)
GPA基準	
備考	

科目名	病態生化学	科目ナンバー	S21453
担当者	住澤 知之		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[人体の構造と機能]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択必修(☆1単位):栄養士選択 必修(☆1単位):栄養教諭		

授業の概要	体内での代謝異常、遺伝病、免疫の働きとその破たんによる疾患、種々ホルモンの働きによる恒常性の維持について、具体的な疾患と関連付けながら説明する。栄養士に必要な基礎知識として、疾患の成り立ち、病態、診断、治療の基本的な考え方をよく理解して、栄養士実力認定試験に備えるとともに、管理栄養士への動機づけとなることを望む。
授業の到達目標	1. 疾病の成因・病態等について説明できる 2. 生体における恒常性維持の仕組みについて説明できる

授業計画		担当者
第1回	血糖値の維持と糖尿病	住澤
第2回	脂質の代謝と脂質代謝異常症	住澤
第3回	アミノ酸の代謝とアミノ酸代謝異常症	住澤
第4回	ヌクレオチドの代謝と痛風、内分泌系	住澤
第5回	生活習慣病と遺伝的背景	住澤
第6回	生体防御のしくみと自己免疫疾患	住澤
第7回	血圧の調節と高血圧、腎疾患	住澤
第8回	肝機能の検査、血液検査、尿検査	住澤
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○		
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	関連する1年次に学んだ内容について復習を行っておく			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	栄養士実力認定試験で過去に出題された『人体の構造と機能』の領域の関連問題を見直し、それらが解けるようにしておく			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	各回の授業の途中で行う問題について、その都度、個別ないしはグループごとに指導することにより、フィードバックを行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。
オフィスアワー	火曜日 16:30～18:00 研究室(本館501号室)
テキスト	毎回プリントを配布するため、テキストは使用しない。
参考文献等	『病気が見える』シリーズ 特に、『Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第5版』 森野 勝太郎他多数監修 メディックメディア 2019年 3,400円(税抜き) (ISBN978-4-89632-766-3) 『疾病と病態生理改訂第4版』 市田 公美、辻 勉、秋葉 聡編集 南江堂 2016年 6,200円(税抜き) (ISBN978-4-524-40327-1) 『2020年版 栄養士実力認定試験過去問題集』 全国栄養士養成施設協会 編 建帛社 2020年 1,100円(税抜き) (ISBN978-4-7679-0659-1)
成績評価基準	栄養士、特に病院で働く際に必要とされる基礎知識として、生体における恒常性の維持の仕組み及び疾患の成り立ち、病態等の基本的な考え方を理解し、栄養士実力認定試験への対応が十分にできたものは合格とする。
成績評価の方法	期末試験(100%)のみで評価する。
GPA基準	
備考	学内他学科・他専攻開放科目 受講者が3名に満たない場合には開講しない。 また、栄養士実力認定試験の受験予定者に限る。 生化学等の基礎に基づくより発展的な内容であるため、「栄養生化学Ⅱ」と「生化学実験A」の単位を修得していることが望ましい。

科目名	生化学実験A	科目ナンバー	S21335
担当者	住澤 知之		
授業形式	実験	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[人体の構造と機能]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択必修: 栄養士・栄養教諭		

授業の概要	「生化学実験A」では、「給食管理実習Ⅲ」において病院を希望しているもの、就職先に病院(給食受託会社を含む)を考えているもの、将来管理栄養士資格まで取得したいと考えているもの、4年制の管理栄養士養成課程の大学等への編入を考えているものを対象として考えている。そこで、実験を通して1年次の「栄養生化学Ⅰ」、「栄養生化学Ⅱ」及び「栄養学総論」で学んだことの再確認をさせるとともに、実験結果の臨床的考察を通して1年次の栄養生化学の理解を深めさせ、後期の「病態生化学」への橋渡しをする。
授業の到達目標	1. 1年次に学んだことを、実験を通して確認、理解できる 2. 実験の結果を科学的に解釈し、考察できる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション及び濃度、検量線と次回の実験についての説明	住澤
第2回	糖質に関する実験(1): 血糖(グルコース)の定量とその臨床的意義	住澤
第3回	糖質に関する実験(2): 還元糖の定量とデンプンの検出による糖質の構造の理解	住澤
第4回	タンパク質の検出と定量(1): アミノ酸及びタンパク質の紫外線吸収スペクトル	住澤
第5回	タンパク質の検出と定量(2): Lowry法によるタンパク質の定量	住澤
第6回	透析とは?(1): 透析によるタンパク質溶液からのグルコースの分離	住澤
第7回	透析とは?(2): 透析の臨床的意義と腎機能について	住澤
第8回	酵素に関する実験(1): 消化酵素の基質特異性	住澤
第9回	酵素に関する実験(2): 消化酵素のpH依存性	住澤
第10回	核酸に関する実験(1): コメからのDNAの抽出	住澤
第11回	核酸に関する実験(2): DNAの定量と純度検定及びPCR法による増幅	住澤
第12回	核酸に関する実験(3): DNAの電気泳動	住澤
第13回	核酸に関する実験(4): 犯人は誰だ? 科捜研の女ごっこ(制限酵素とは)	住澤
第14回	脂質に関する実験(1): 飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸の性質	住澤
第15回	脂質に関する実験(2): コレステロールの定量とその臨床的意義	住澤

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	次回の実験の説明を基に、関連する1年次に学んだ内容について復習を行っておく			学習合計時間(h)	5時間
事後学習	毎授業後にはレポートを作成し、提出すること その際に不明な点や理解が不十分な点について調べる			学習合計時間(h)	10時間

課題に対するフィードバックの方法	レポート作成時に、質問があれば個別に指導を行うほか、レポート返却時に、授業内で全体に対して、レポートの講評と要点の解説を行う。
質問・相談方法	実験中や実験終了時に対応するほか、オフィスアワー等に対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。
オフィスアワー	火曜日 16:30～18:00 研究室(本館501号室)
テキスト	毎回プリントを配布するため、テキストは使用しない。
参考文献等	『はじめてみよう生化学実験』 山本 克博 編著 三共出版 2010年 2,200円(税抜き) (ISBN978-4782705551) 『栄養生理学・生化学実験(栄養科学シリーズNEXT)』 加藤秀夫・木戸康博・桑波田雅士／編 講談社サイエンティフィック 2012年 2,800円(税抜き) (ISBN978-4-06-155349-1) 『イラスト 栄養生化学実験』 相原 英孝、竹中 晃子、田村 明、長谷川 昇 著 東京教学社 2019年 1,800円(税抜き) (ISBN978-4808260194) 『管理栄養士のための栄養生化学実験ハンドブック』 岡本光弘 編 帝塚山大学出版会 2013年 1,500円(税抜き) (ISBN978-4925247207)
成績評価基準	各回の実験の目的に沿って結果を解釈し、それが1年次に学んだこととどのように関連していたのかを理解して考察できたものは合格とする。
成績評価の方法	実験レポートの提出状況及び内容(60%) すべての実験終了後に実施する、行った実験内容の理解度を問う期末試験(40%)
GPA基準	
備考	受講者が10名に満たない場合には開講しない。 「栄養生化学Ⅰ」、「栄養生化学Ⅱ」及び「栄養学総論」の単位を修得していることが望ましい。

科目名	生化学実験B	科目ナンバー	S21336
担当者	住澤 知之		
授業形式	実験	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[人体の構造と機能]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択必修: 栄養士・栄養教諭		

授業の概要	「生化学実験B」では、就職先として病院(給食受託会社を含む)を考えていないものを対象として考えている。そこで、実験を通して1年次の「栄養生化学Ⅰ」で学んだ単糖類、デンプン、アミノ酸、脂肪酸の性質や特徴、「栄養学総論」で学んだ三大栄養素の消化についての理解を深めさせ、栄養士として必要な基礎知識を身に付けさせる。
授業の到達目標	1. 1年次に学んだことを、実験を通して確認、理解できる 2. 実験の結果を科学的に解釈し、考察できる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション及び濃度と次回の実験についての説明	住澤
第2回	糖質に関する実験(1): 酵素の基質特異性を用いたグルコースの検出	住澤
第3回	糖質に関する実験(2): 糖の還元性を利用した糖質の検出	住澤
第4回	糖質の消化: ヨウ素反応によるデンプンの検出と唾液アミラーゼによるデンプンの加水分解	住澤
第5回	タンパク質とアミノ酸: アミノ酸及びタンパク質の紫外線吸収による検出	住澤
第6回	タンパク質の消化: トリプシンによるカゼインの加水分解	住澤
第7回	密室の謎を解け!(1): Lowry法によるタンパク質の検出及び透析についての説明と次回の準備	住澤
第8回	密室の謎を解け!(2): 透析後のタンパク質、デンプン、還元糖、アミノ酸の検出	住澤
第9回	タンパク質、デンプンの消化と透析: タンパク質、デンプン、還元糖、アミノ酸の検出	住澤
第10回	脂質に関する実験: 飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸の性質	住澤
第11回	核酸に関する実験(1): バナナからのDNAの抽出とその定量及び純度検定	住澤
第12回	核酸に関する実験(2): DNAのPCR法による増幅と電気泳動	住澤
第13回	核酸に関する実験(3): 犯人は誰だ? 科捜研の女ごっこ(制限酵素とは)	住澤
第14回	消化酵素の基質特異性: トリプシンと唾液アミラーゼによるタンパク質の消化	住澤
第15回	消化酵素のpH依存性: トリプシンとペプシンによるタンパク質の消化	住澤

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	

担当教員の実務経験と授業の関連					
-----------------	--	--	--	--	--

事前学習	次回の実験の説明を基に、関連する1年次に学んだ内容について復習を行っておく	学習合計時間(h)	5時間
------	---------------------------------------	-----------	-----

事後学習	毎授業後にはレポートを作成し、提出すること その際に不明な点や理解が不十分な点について調べる	学習合計時間(h)	10時間
------	---	-----------	------

課題に対するフィードバックの方法	レポート作成時に、質問があれば個別に指導を行うほか、レポート返却時に、授業内で全体に対して、レポートの講評と要点の解説を行う。
質問・相談方法	実験中や実験終了時に対応するほか、オフィスアワー等に対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。
オフィスアワー	火曜日 16:30～18:00 研究室(本館501号室)
テキスト	毎回プリントを配布するため、テキストは使用しない。
参考文献等	『はじめてみよう生化学実験』 山本 克博 編著 三共出版 2010年 2,200円(税抜き) (ISBN978-4782705551) 『栄養生理学・生化学実験(栄養科学シリーズNEXT)』 加藤秀夫・木戸康博・桑波田雅士／編 講談社サイエンティフィック 2012年 2,800円(税抜き) (ISBN978-4-06-155349-1) 『イラスト 栄養生化学実験』 相原 英孝、竹中 晃子、田村 明、長谷川 昇 著 東京教学社 2019年 1,800円(税抜き) (ISBN978-4808260194)
成績評価基準	各回の実験の目的に沿って結果を解釈し、それが1年次に学んだこととどのように関連していたのかを理解して考察できたものは合格とする。
成績評価の方法	実験レポートの提出状況及び内容(60%) すべての実験終了後に実施する、行った実験内容の理解度を問う期末試験(40%)
GPA基準	
備考	受講者が10名に満たない場合には開講しない。 「栄養生化学Ⅰ」と「栄養学総論」の単位を修得し、「栄養生化学Ⅱ」を履修していることが望ましい。

科目名	臨床栄養学各論	科目ナンバー	S21338
担当者	寺師 睦美		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[栄養と健康]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	傷病者の病態や栄養状態について、その特徴と関連、適切な栄養管理や疾病発症予防の考え方を講義する。チーム医療における治療の基本的知識や手法、疾病の再発や重症化予防に繋がる栄養管理の方法を説明する。
授業の到達目標	1. 各疾患の定義、病因や症状、治療、栄養食事療法の考え方を理解する。 2. 臨床の基本的な専門用語や治療の実際を学び、理解できるようになる。

授業計画		担当者
第1回	臨床栄養学の基礎	寺師
第2回	傷病者の栄養アセスメント、栄養補給法	寺師
第3回	生活習慣病概説(肥満、メタボリックシンドローム)	寺師
第4回	代謝性疾患の栄養療法Ⅰ(糖尿病、脂質異常症)	寺師
第5回	代謝性疾患の栄養療法Ⅱ(高尿酸血症、痛風、内分泌疾患)	寺師
第6回	消化器疾患の栄養療法Ⅰ(食道逆流症、消化性潰瘍)	寺師
第7回	消化器疾患の栄養療法Ⅱ(炎症性腸疾患、下痢、便秘)、小テスト	寺師
第8回	腎・尿路疾患の栄養療法Ⅰ(糸球体腎炎、ネフローゼ症候群)	寺師
第9回	腎・尿路疾患の栄養療法Ⅱ(慢性腎臓病、腎不全、人工透析)	寺師
第10回	循環器疾患の栄養療法(高血圧症、動脈硬化、脳卒中)	寺師
第11回	血液系疾患、歯・筋骨格疾患の栄養療法	寺師
第12回	がん、呼吸器疾患の栄養療法	寺師
第13回	術前・術後の栄養管理、クリティカルケアの栄養療法	寺師
第14回	栄養障害、摂食障害の栄養療法	寺師
第15回	総括、課題発表	寺師

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○		○		
担当教員の実務経験と授業の関連	管理栄養士として病院や福祉施設等での実務経験を活かし、傷病者の栄養管理と疾病発症予防の考え方について教授する。				
事前学習	解剖生理学や関連科目を復習する			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	臨床栄養学実習と関連付けてまとめる			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	講義内で課題のポイントを説明する。個別に対応する。
質問・相談方法	講義・実習の後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	金曜日 14:40～16:10 研究室(西館313号室)

テキスト	『Visual栄養学テキストシリーズ 臨床栄養学Ⅱ各論』津田謹輔、伏木 亨、本田佳子 監修 中山書店 2016年 2700円(税抜き) (ISBN:978-4-521-74283-0)
参考文献等	『エッセンシャル臨床栄養学第8版』佐藤和人・本間健・小松龍史編 医歯薬出版株式会社 2016年 3700円(税抜き) (ISBN 978-4-263-70671-8) 『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病協会編著 文光堂 2013年 900円(税抜き) (ISBN 978-4-8306-6046-7)
成績評価基準	各疾患の病態の特徴や治療方法、基本的な栄養管理の考え方、臨床の専門用語を理解できる。治療に応じた栄養管理や生活習慣との関連について、説明できる。
成績評価の方法	課題レポート(10%)、小テスト(10%)、定期試験60分(80%)で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	臨床栄養学実習	科目ナンバー	S22340
担当者	寺師 睦美		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[栄養と健康]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	各疾患の病態や栄養状態に対応する治療食を提供するために必要な食事計画を立て、献立作成と調理方法の実践的な知識と技術を習得することを目的とする。実習前に実習方法を説明し、結果の検討・考察・評価、レポート作成など栄養管理を行う方法を講義する。
授業の到達目標	1. 各疾患の治療食の基本的な考え方、献立作成と調理方法を理解する。 2. 各疾患に応じた治療食を調理し、比較・評価することができるようになる。

授業計画		担当者
第1回	臨床栄養学実習の基礎(食事計画の作成:常食)	寺師
第2回	常食(食事計画作成)	寺師
第3回	易消化食(栄養管理の基本、食事計画作成)	寺師
第4回	易消化食(実習:適切な食品選択と調理法の理解)	寺師
第5回	エネルギーコントロール食(栄養管理の基本、糖尿病食品交換表の理解)	寺師
第6回	エネルギーコントロール食(糖尿病食品交換表を用いた食事計画作成)	寺師
第7回	エネルギーコントロール食(実習:適切な食品の選択と調理法の理解)	寺師
第8回	食塩制限食(栄養管理の基本、食事計画作成)	寺師
第9回	食塩制限食(実習:適切な食品の選択と調理法の理解)	寺師
第10回	たんぱく質コントロール食(栄養管理の基本、腎臓病食品交換表)	寺師
第11回	たんぱく質コントロール食(実習:適切な食品の選択と調理法の理解)	寺師
第12回	脂質コントロール食(栄養管理の基本、食事計画作成)	寺師
第13回	脂質コントロール食(実習:適切な食品の選択と調理法の理解)	寺師
第14回	口腔障害・摂食・嚥下障害食(栄養管理の基本)	寺師
第15回	総括	寺師

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連	管理栄養士として病院や福祉施設等での実務経験を活かし、実践的な傷病者の栄養管理の方法について教授する。				
事前学習	授業範囲を予習する。グループで課題に取り組む			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	実習内容をまとめて、レポートを作成する			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	講義内で課題のポイントを説明する。 個別に対応する。
質問・相談方法	講義・実習の後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	金曜日 14:40～16:10 研究室(西館313号室)

テキスト	『臨床栄養学実習書』 玉川和子他編著 医歯薬出版株式会社 2015年 2700円(税抜き) (ISBN 978-4-263-70640-4) 『糖尿病食事療法のための食品交換表』 日本糖尿病協会 文光堂 2013年 900円(税抜き) (ISBN 978-4-8306-6046-7) 『腎臓病食品交換表』 黒川清監修 医歯薬出版株式会社 2016年 1500円(税抜き) (ISBN 978-4-263-70674-9)
参考文献等	『一品料理500選治療食への展開』 宗像伸子編著 医歯薬出版株式会社 2016年 5800円(税抜き) (ISBN 978-4-263-70650-3) 『食品成分表』 香川芳子監修 女子栄養大学出版部 2019年 1400円(税抜き) (ISBN 978-4-7895-1019-6)
成績評価基準	各疾患に応じた基本的な栄養管理の考え方と、献立作成や調理方法を理解できること。 課題やレポート作成から、学外実習に関連した実践的な手法を習得できること。
成績評価の方法	レポート作成(40%)、献立作成(10%)、定期試験60分(50%)で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	栄養指導実習 I	科目ナンバー	S22341
担当者	改元 香		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[栄養の指導]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	栄養指導論 I・II で得られた知識や技術を土台にして、健康・栄養状態、食行動、食習慣の評価・判定に基づき、栄養教育および栄養指導の指導案を作成し、教育することを実習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 個人の栄養状態、健康状態を把握することができる 2. 栄養アセスメントを実施できる 3. 指導案を作成し、栄養教育・指導を実施できる

授業計画		担当者
第1回	栄養教育・栄養指導の基礎知識(食事摂取基準)	改元
第2回	栄養教育・栄養指導の基礎知識(食品構成表の作成)	改元
第3回	栄養教育・栄養指導の基礎知識(献立作成の基本)	改元
第4回	栄養教育・栄養指導の基礎知識(献立作成ソフトの使い方)	改元
第5回	実態把握の方法(栄養・食事調査、生活調査)	改元
第6回	実態把握の方法(嗜好調査・残食調査、統計処理)	改元
第7回	実態把握の方法(身体活動状況調査)	改元
第8回	栄養教育指導案および指導媒体の作成	改元
第9回	医学的検査法(SOAPの書き方)	改元
第10回	食品交換表を利用した栄養指導、献立作成	改元
第11回	献立作成ソフトを利用した献立作成と展開	改元
第12回	個人および集団を対象とした栄養教育、カウンセリング	改元
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
			○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連	病院管理栄養士の実務経験を活かして、栄養指導について教授する。		
事前学習	栄養指導論 I・II で習得した関連項目をテキストなどで確認し、実習に備える	学習合計時間(h)	10時間
事後学習	実習で返却、演習したプリントを確実に理解する	学習合計時間(h)	5時間

課題に対するフィードバックの方法	課題(定期試験を含む)を課した場合は、評価に対する改善点を個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後、およびオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	金曜日 13:00～14:00 研究室(本館 504号室)
テキスト	『イラスト栄養教育・栄養指導論 第5版』城田 知子他 東京教学社 2019年 2,200円(税抜) (ISBN978-4-8082-6063-7) 『日本人の食事摂取基準(2015年版)』菱田明・佐々木敏監修 第一出版株式会社 2014年 2,700円(税抜) (ISBN978-4-8041-1312-8) 『糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版』一般社団法人日本糖尿病学会編著 株式会社文光堂 2013年 900円(税抜) (ISBN978-4-8306-6046-7) 『腎臓病食品交換表 第9版-治療食の基準-』黒川清監修 医歯薬出版株式会社 2016年 1,500円(税抜) (ISBN978-4-263-70674-9)
参考文献等	特になし
成績評価基準	対象者の実態把握から問題点を抽出し、栄養指導の指導案を作成し、それに沿った栄養指導を実施できたものは合格とする。
成績評価の方法	定期試験の成績(50%)、実習取組状況(50%)で成績を評価する。
GPA基準	
備考	※教育効果向上のため、2コマ(180分)×12回で実施する

科目名	栄養指導実習Ⅱ	科目ナンバー	S22459
担当者	改元 香		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[栄養の指導]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	栄養指導論Ⅰ・Ⅱおよび栄養指導実習Ⅰで得た知識や技術を土台にして、具体的な対象者に対する栄養アセスメントを実施し、指導する方法を学ぶ。また、食行動の変容に導く理論と技術について実習する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者に対して計画的に問題を解決することができる 2. 対象者に応じた栄養教育を媒体を使用して実施することができる 3. 行動変容の評価ができ、改善点を見出すことができる

授業計画		担当者
第1回	栄養教育法(プレゼンテーションのための指導案作成)	改元
第2回	栄養教育法(プレゼンテーションのための媒体作成)	改元
第3回	栄養教育法(プレゼンテーションの実施)	改元
第4回	個人を対象とした栄養教育(肥満)	改元
第5回	個人を対象とした栄養教育(糖尿病)	改元
第6回	個人を対象とした栄養教育(腎臓病)	改元
第7回	集団を対象とした栄養教育(指導案作成)	改元
第8回	集団を対象とした栄養教育(指導媒体作成)	改元
第9回	カウンセリングの栄養教育への応用	改元
第10回	ロールプレイによるカウンセリング実習	改元
第11回	症例別栄養指導(症例に基づいた評価)	改元
第12回	症例別栄養指導(症例に基づいた判定)	改元
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連	病院管理栄養士の実務経験を活かして、栄養指導について教授する。				
事前学習	栄養指導論Ⅰ・Ⅱで習得した関連項目をテキストなどで確認し、実習に備える			学習合計時間(h)	10時間
事後学習	実習で返却、演習したプリントを確実に理解する			学習合計時間(h)	5時間

課題に対するフィードバックの方法	課題(定期試験を含む)を課した場合は、評価に対する改善点を個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後、およびオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	金曜日 13:00~14:00 研究室(本館 504号室)
テキスト	『イラスト栄養教育・栄養指導論 第5版』城田 知子他 東京教学社 2019年 2,200円(税抜) (ISBN978-4-8082-6063-7) 『日本人の食事摂取基準(2015年版)』菱田明・佐々木敏監修 第一出版株式会社 2014年 2,700円(税抜) (ISBN978-4-8041-1312-8) 『糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版』一般社団法人日本糖尿病学会編著 株式会社文光堂 2013年 900円(税抜) (ISBN978-4-8306-6046-7) 『腎臓病食品交換表 第9版-治療食の基準-』黒川清監修 医歯薬出版株式会社 2016年 1,500円(税抜) (ISBN978-4-263-70674-9)
参考文献等	特になし
成績評価基準	栄養カウンセリングの技法を取り入れた個人指導、および指導媒体を使用した集団指導を実施することができたものを合格とする。
成績評価の方法	定期試験(レポート)の評価(50%)、実習取組状況(50%)で成績を評価する。
GPA基準	
備考	※教育効果向上のため、2コマ(180分)×12回で実施する

科目名	給食実務演習 I	科目ナンバー	S22342
担当者	児玉 むつみ		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[給食の運営]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	給食運営の計画から実施に至るまでをPDCAサイクルを辿りながら、研究的、積極的かつ円滑に評価出来るよう指導する。また衛生管理報告会を通し衛生管理の重要性を認識し実践に生かせるよう実施する。
授業の到達目標	1. 給食管理における運営に関するPDCAサイクルを理解し、適切な評価・改善ができる 2. 衛生管理の重要性を認識し実践できる 3. 給食運営における栄養教育の計画ができる

授業計画		担当者
第1回	献立計画	児玉
第2回	試作計画・準備	児玉
第3回	実施献立表の評価 衛生管理報告会	児玉
第4回	衛生管理計画 衛生管理報告会	児玉
第5回	衛生管理計画の評価 衛生管理報告会	児玉
第6回	食材料管理	児玉
第7回	食材料管理の評価	児玉
第8回	生産管理計画	児玉
第9回	生産管理計画の評価 衛生管理報告会	児玉
第10回	会計・労務計画の評価	児玉
第11回	帳票等事務管理	児玉
第12回	栄養教育(食教育パネル作成・一言アドバイス作成) 衛生管理報告会	児玉
第13回	栄養教育(献立説明原稿作成) 衛生管理報告会	児玉
第14回	実習後報告会の運営計画	児玉
第15回	実施後報告会の実施・評価	児玉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連	栄養教諭の実務経験を活かして、給食実務について教授する。		
事前学習	事前に課題に取り組む(施策計画、衛生管理計画等)	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	給食管理実習 I の記録の記入	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合求めに応じ個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	木曜日 10:00～12:00 研究室(南館104号室)

テキスト	『大量調理～品質管理と調理の実際～』 殿塚婦美子 学建書院 2016年 2700円(税抜き)(ISBN:978-4-7624-1872-3)
参考文献等	特になし
成績評価基準	給食管理における運営に関するPDCAサイクルおよび衛生管理の重要性を認識し実践できること。給食運営における栄養教育の計画ができること。
成績評価の方法	定期試験(100%)
GPA基準	
備考	

科目名	給食実務演習Ⅱ	科目ナンバー	S22460
担当者	児玉 むつみ		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[給食の運営]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	複数
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	給食運営の計画から実施に至るまでをPDCAサイクルを辿りながら、研究的、積極的かつ円滑に評価出来るよう指導する。また衛生管理報告会を通し衛生管理の重要性を認識し実践に生かせるよう実施する。
授業の到達目標	1. 各特定給食施設の給食管理における運営に関するPDCAサイクルを理解し、適切な評価・改善ができる。 2. 衛生管理の重要性を認識し実践でできる。 3. 各特定給食施設の給食運営における栄養教育の計画・改善・評価ができる。

授業計画		担当者
第1回	献立計画	児玉
第2回	試作計画・準備	児玉
第3回	実施献立表の評価	児玉
第4回	衛生管理計画	児玉
第5回	衛生管理計画の評価	児玉
第6回	食材料管理	児玉
第7回	食材料管理の評価	児玉
第8回	生産管理計画	児玉
第9回	生産管理計画の評価	児玉
第10回	会計・労務計画の評価	児玉
第11回	帳票等事務管理	児玉
第12回	栄養教育(食教育パネル作成・一言アドバイス作成)	児玉
第13回	栄養教育(献立説明原稿作成)	児玉
第14回	実習後報告会の運営計画	児玉
第15回	実施後報告会の実施・評価	児玉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連	栄養教諭の実務経験を活かして、給食実務について教授する。				
事前学習	事前に課題に取り組む(施策計画、衛生管理計画等)			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	実習記録の記入・作成の実施			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合求めに応じ個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	木曜日 10:00～12:00 研究室(南館104号室)

テキスト	『大量調理～品質管理と調理の実際～』 殿塚婦美子 学建書院 2016年 2700円(税抜き)(ISBN:978-4-7624-1872-3)
参考文献等	特になし
成績評価基準	各特定給食施設の給食管理における運営に関するPDCAサイクルおよび衛生管理の重要性を認識し実践できること。各特定給食施設の給食運営における栄養教育の計画・実践ができること。
成績評価の方法	定期試験(100%)
GPA基準	
備考	

科目名	給食管理実習 I	科目ナンバー	S22343
担当者	児玉 むつみ		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[給食の運営]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	学生を対象とした給食の提供(大量調理)を行い、給食運営の計画策定・実践・評価方法・大量調理技術を習得し、特定給食施設の栄養士業務を習得させることを目的とする。18～29歳の女性、身体活動レベルⅡを対象とした献立作成、試作、食材料管理、作業管理、衛生管理、大量調理実習、評価活動などを班活動で実施させる。
授業の到達目標	1. 給食の栄養計画・献立作成・調理計画・衛生管理計画を作成できる 2. 大量調理の方法、衛生管理の実際等について理解し食事サービスや喫食時の栄養教育を実践し評価ができる。 3. 食材料管理、労務管理、会計管理の給食管理の実際について理解できる。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(実習の概要・衛生管理等)	児玉
第2回	献立作成	児玉
第3回	試作・検討	児玉
第4回	食材料管理、作業管理	児玉
第5回	衛生管理実習	児玉
第6回	実習ミーティング(工程・衛生管理等)	児玉
第7回	大量調理実習	児玉
第8回	実習反省会・帳票整理	児玉
第9回	献立作成	児玉
第10回	試作・検討	児玉
第11回	食材料管理、作業管理	児玉
第12回	衛生管理実習	児玉
第13回	実習ミーティング(工程・衛生管理等)	児玉
第14回	大量調理実習	児玉
第15回	実習反省会・帳票整理	児玉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	

担当教員の実務経験と授業の関連	栄養教諭の実務経験を活かして、給食管理実習について教授する。		
事前学習	事前に課題(献立作成・作業役割表等作成)に取り組む	学習合計時間(h)	15時間
事後学習	実習記録の記入・作成	学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合は求めに応じ個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	木曜日 10:00～12:00 研究室(南館104号室)

テキスト	『大量調理～品質管理と調理の実際～』 殿塚婦美子 学建書院 2016年 2700円(税抜き)(ISBN:978-4-7624-1872-3)
参考文献等	特になし
成績評価基準	2回の本番実習とそれに伴うミーティング・反省会は必ず出席する必要あり。給食の栄養計画・献立作成・調理計画・衛生管理計画を作成でき、大量調理の方法、衛生管理の実際等について理解し食事サービスや喫食時の栄養教育を実践し評価ができること、また食材料管理、労務管理、会計管理の給食管理の実際について理解できること。
成績評価の方法	受講態度(50%)提出物(50%)
GPA基準	
備考	

科目名	給食管理実習Ⅱ・Ⅲ指導	科目ナンバー	S22344
担当者	寺師 睦美、改元 香、児玉 むつみ		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[給食の運営]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	オムニバス
免許・資格情報	必修: 栄養士・栄養教諭		

授業の概要	6月・8月に実施される給食管理実習Ⅱ・Ⅲを履修するに当たって、必要な知識・技能・態度を養う。何を学びたいか具体的な目的・目標を持ち、実習に当たっての抱負と課題を明確にする。また、実習施設での実習内容を予め把握し、予習や予備練習を行う場とする。具体的には、実習施設から提示された課題(献立作成、試作、食育指導案、教材作成等)について取り組む。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習の意義・目的を理解し、相応しい態度で実習に臨む。 2. 献立作成能力、調理技術等基礎的な技能を身に付ける。 3. 実習の成果を今後の進路に生かすことができる。

授業計画		担当者
第1回	給食管理実習Ⅱ 事前オリエンテーション(事前訪問等)	児玉
第2回	実習の目的と内容(保育所)「抱負と課題」の作成	児玉
第3回	実習の目的と内容(高齢者施設等)「抱負と課題」の作成	児玉
第4回	実習の目的と内容(学校給食施設)「抱負と課題」の作成	児玉
第5回	卒業生による各給食施設の栄養士の業務及び実習心得	児玉
第6回	給食管理実習心得及び実習先の課題	児玉
第7回	給食管理実習Ⅱ 体験発表	児玉
第8回	給食管理実習Ⅲの意義と目的、心得と注意点の説明	寺師
第9回	実習関係書類の内容説明、「抱負と課題」作成指導	寺師
第10回	実習先(病院)の特徴と栄養士業務の理解Ⅰ(献立作成)	寺師
第11回	実習先(病院)の特徴と栄養士業務の理解Ⅱ(栄養指導)	改元
第12回	施設別課題演習Ⅰ(献立作成)	寺師
第13回	施設別課題演習Ⅱ(栄養指導作成)	改元
第14回	施設別課題演習Ⅲ(資料作成)	改元
第15回	総括	児玉・寺師・改元

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
				○	
担当教員の実務経験と授業の関連	管理栄養士として、各施設での実務経験を活かし、実践的な給食管理と栄養管理の考え方や方法について教授する				
事前学習	実習施設の概要や特徴を調べる。実習施設の課題に取り組む			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	実習内容をまとめて、学外実習交流会にて1年生を指導する			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	ユニバを活用する。 課題の質問事項や改善点は、個別に対応する。
質問・相談方法	講義の後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	寺師:月曜日 17:00~18:00 研究室(西館313号室) 改元:金曜日 13:00~15:00 研究室(本館504号室) 児玉:木曜日 10:00~12:00 研究室(南館104号室)
テキスト	給食管理実習(学外)記録
参考文献等	『大量調理～品質管理と調理の実際～』殿塚婦美子 学建書院 2016年 2700円(税抜き)(ISBN:978-4-7624-1872-3) 『給食マネジメント実習』齋藤貴美子 学建書院 2018年 2300円(税抜き)(ISBN:978-4-7624-3-858-5) 『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病協会編著 文光堂 2013年 900円(税抜き)(ISBN:978-4-8306-6046-7) 『腎臓病食品交換表』黒川清監修 医歯薬出版株式会社 2016年 1500円(税抜き)(ISBN:978-4-263-70674-9)
成績評価基準	実習施設の概要を把握し、目的を理解し課題に取り組む。 実習内容をまとめて自己評価し、伝えることができる。
成績評価の方法	課題提出状況(70%)、発表等(20%)、受講態度(10%)による総合評価
GPA基準	
備考	

科目名	給食管理実習Ⅱ	科目ナンバー	S22345
担当者	児玉 むつみ		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[給食の運営]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択必修: 栄養士・栄養教諭		

授業の概要	学外実習先で給食運営に必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供の基本的業務を現職の栄養士のもと経験させ、栄養士として具備すべき知識・技能・態度および考え方を習得させる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各特定給食施設の給食の運営について理解できる。 2. 各特定給食施設の栄養士の役割について理解できる。 3. 給食サービス提供に関する専門的スキルを身に付ける。

授業計画		担当者
第1回	施設・業務の概要と特徴	実習先担当者
第2回	給与栄養目標量の算定・食品構成表の作成	実習先担当者
第3回	献立作成	実習先担当者
第4回	残食調査の実施、喫食アンケート作成	実習先担当者
第5回	残食調査報告・喫食アンケートの実施及び報告	実習先担当者
第6回	施設設備管理	実習先担当者
第7回	調理機器類の種類と保守管理、食器の選定	実習先担当者
第8回	食材料管理	実習先担当者
第9回	作業管理(食数管理・人員配置)	実習先担当者
第10回	作業管理(料理業務)	実習先担当者
第11回	作業管理(配膳・供与)	実習先担当者
第12回	作業管理(食器洗浄等)	実習先担当者
第13回	衛生管理・危機管理	実習先担当者
第14回	事務管理	実習先担当者
第15回	食に関する指導	実習先担当者

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
				○	
担当教員の実務経験と授業の関連	栄養教諭の実務経験を活かして、学外実習における給食管理実習について教授する。				
事前学習	実習先に提出する「実習にあたっての抱負と課題」を作成する			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	実習先の給食運営に関する情報を収集する。 実習先から課された課題に取り組む。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題等への個別の質問について対応する。
質問・相談方法	オフィスアワーで対応する。
オフィスアワー	木曜日 12:00～15:00 研究室(南館104号室)

テキスト	給食管理実習(学外)記録
参考文献等	『大量調理～品質管理と調理の実際～』 殿塚婦美子 学建書院 2016年 2700円(税抜き)(978-4-7624-1872-3)
成績評価基準	各特定給食施設の給食、各特定給食施設の栄養士の役割、給食サービス提供に関する専門的スキルを身に付けること。
成績評価の方法	学外実習先の評価(70%)実習記録(30%)
GPA基準	
備考	COC関連 科目

科目名	給食管理実習Ⅲ	科目ナンバー	S22346
担当者	寺師 睦美・改元 香		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[給食の運営]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	選択必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	学外実習先で給食運営に必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービス提供の基本的な業務を現職の栄養士のもとで経験し、栄養士として具備すべき知識、技能、態度および考え方を給食管理実習Ⅱを踏まえて、より実践的なスキルを学ぶために実習する。
授業の到達目標	1. 各給食施設の給食について理解できる。 2. 各給食施設の栄養士の役割について理解できる。 3. 給食サービス提供に関する専門的スキルを身につける。

授業計画		担当者
第1回	施設、業務の概要と特徴	実務先担当者
第2回	給与栄養目標量の算定、食品構成表の作成	実務先担当者
第3回	献立作成	実務先担当者
第4回	残食調査の実施、喫食アンケート作成	実務先担当者
第5回	残食調査の実施、喫食アンケート実施および報告	実務先担当者
第6回	残食調査の実施、喫食アンケート実施および報告	実務先担当者
第7回	調理機器類の種類と保守管理、食器の選定	実務先担当者
第8回	食材料管理(発注、検収、保管)	実務先担当者
第9回	作業管理(食数管理、人数配置、事務管理)	実務先担当者
第10回	作業管理(調理業務)	実務先担当者
第11回	作業管理(配膳、供与)	実務先担当者
第12回	作業管理(食器洗浄)	実務先担当者
第13回	衛生管理、危機管理	実務先担当者
第14回	病態や栄養状態に対応する栄養管理	実務先担当者
第15回	食に関する指導	実務先担当者

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
				○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	実習先施設の概要や特徴を調べ、課題に取り組む「実習にあたっての抱負と課題」について考えをまとめる			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	実習内容を実習記録にまとめて提出する			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	Moodleを活用する。個別に対応する。
質問・相談方法	実習前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	寺師:金曜日 13:00~14:30 研究室(西館313号室) 改元:金曜日 13:00~15:00 研究室(本館504号室)
テキスト	給食管理実習(学外)記録
参考文献等	『Visual栄養学テキストシリーズ 臨床栄養学Ⅱ各論』津田謹輔、伏木 亨、本田佳子 監修 中山書店 2016年 2700円(税抜き) ISBN:978-4-521-74283-0 『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病協会編著 文光堂 2013年 900円(税抜き) (ISBN 978-4-8306-6046-7) 『腎臓病食品交換表』黒川清監修 医歯薬出版株式会社 2016年 1500円(税抜き) (ISBN 978-4-263-70674-9)
成績評価基準	実習施設の概要を把握し、目的を理解し課題に取り組み、実習に臨むことができる。栄養士業務について、実践的且つ専門的スキルを身につける。
成績評価の方法	学外実習先の評価(60%)および実習記録等(40%)による総合評価
GPA基準	
備考	COC関連 科目

科目名	給食管理実習Ⅳ	科目ナンバー	S22461
担当者	児玉 むつみ		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[給食の運営]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	学生を対象とした給食の提供(大量調理)の実施で給食運営の計画策定・実践・評価方法・大量調理技術を習得させ特定給食施設の栄養士業務を身に付けさせる事を目的とする。各特定給食施設での給食を想定した献立作成、試作、食材料管理、作業管理、衛生管理、大量調理実習、評価活動などを班活動で実施させる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各特定給食施設の給食の栄養計画・献立作成・調理計画・衛生管理計画を作成できる。 2. 食材料管理、労務管理、会計管理の給食管理の実際について理解できる。 3. 各特定給食施設の給食運営における栄養教育について実践できる。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(実習の概要・衛生管理等)	児玉
第2回	献立作成	児玉
第3回	試作・検討	児玉
第4回	食材料管理、作業管理	児玉
第5回	衛生管理実習	児玉
第6回	実習ミーティング(工程・衛生管理等)	児玉
第7回	大量調理実習	児玉
第8回	実習反省会・帳票整理	児玉
第9回	献立作成	児玉
第10回	試作・検討	児玉
第11回	食材料管理、作業管理	児玉
第12回	衛生管理実習	児玉
第13回	実習ミーティング(工程・衛生管理等)	児玉
第14回	大量調理実習	児玉
第15回	実習反省会・帳票整理	児玉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連	栄養教諭の実務経験を活かして、給食管理実習について教授する。				
事前学習	事前に課題(献立作成・作業役割表等作成)に取り組む			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	実習記録の記入・作成			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合は求めに応じ個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	木曜日 10:00～12:00 研究室(南館104号室)

テキスト	『大量調理～品質管理と調理の実際～』 殿塚婦美子 学建書院 2016年 2700円(税抜き)(978-4-7624-1872-3)
参考文献等	特になし
成績評価基準	2回の本番実習とそれに伴うミーティング・反省会は必ず出席する必要あり。各特定給食施設の給食の栄養計画・献立作成・調理計画・衛生管理計画を作成でき、大量調理の方法、衛生管理の実際等について理解し食事サービスや喫食時の栄養教育を実践し評価ができること、また食材料管理、労務管理、会計管理の給食管理の実際について理解できること。
成績評価の方法	受講態度(50%)提出物(50%)
GPA基準	
備考	

科目名	調理学実習Ⅱ	科目ナンバー	S22347
担当者	山崎 歌織		
授業形式	実習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目〔給食の運営〕
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修：栄養士・栄養教諭・フードスペシャリスト		

授業の概要	健康増進を根底におき食材の栄養特性を知り、それをいかす調理技術を基礎から応用へ進めながら、合理的かつ安心安全で栄養学的に望ましい食事作りができる力を養うようにする。同時に、旬の食材や地域の特性をいかし、食文化について理解を深め、郷土料理や行事食を体験し日本の食文化を継承する意義について学ばせる。内容は、日本料理、西洋料理、中国料理を中心にそれぞれの料理様式の特徴を学ぶことで、様々な料理を組み合わせた献立作成の参考にさせる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食材に関する基礎的知識を身につけ食品を扱うことができる 2. 調理学実習の心得を意識し、段取りを考えた調理ができる 3. 地域や旬の食材を活用した食事作りができる

授業計画		担当者
第1回	調理学実習の心得 基本的な調理操作理論の確認	山崎
第2回	日本料理の特徴と調理①(春の献立:鰹の炊き込み飯他)	山崎
第3回	日本料理の特徴と調理②(郷土料理:酒寿司他)	山崎
第4回	西洋料理の特徴と調理①(ポタージュ、衣揚げ他)	山崎
第5回	西洋料理の特徴と調理②(ハンバーグステーキ他)	山崎
第6回	日本料理の特徴と調理③(郷土料理:豚骨煮他)	山崎
第7回	中間まとめ(これまでの復習・確認)	山崎
第8回	中国料理の特徴と調理①(酸辣湯、ピーマン他)	山崎
第9回	中国料理の特徴と調理②(八宝菜、鶏粥他)	山崎
第10回	日本料理の特徴と調理④(行楽弁当)	山崎
第11回	日本料理の特徴と調理⑤(夏の献立:冷やし素麺他)	山崎
第12回	冷凍食品について 講演および講習会	山崎
第13回	実技試験	山崎
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	毎時間の事前資料を基に、料理レシピをフローチャート化する			学習合計時間(h)	5時間
事後学習	毎時間ごとに学習した内容をレポートにまとめ提出する 日々調理に携わり、技術の向上に努める			学習合計時間(h)	10時間

課題に対するフィードバックの方法	提出された課題やレポートに対し、評価基準に従い評価し早めに学生に返却する。質問事項がある場合は、個別に回答する。
質問・相談方法	実習終了時やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	水曜日 15:00～17:00 研究室(西館308号室)
テキスト	『NEW調理と理論』山崎清子ほか 同文書院 2011年 2,600円(税抜き) (ISBN:978-4-8103-1395-6) 『食品成分表』香川明夫監修 女子栄養大学出版部 2019年 1,400円(税抜き) (ISBN:978-4-7895-1018-9) その他、実習レシピは毎時間配布する。
参考文献等	『調理学の基本』中嶋加代子編著 同文書院 2020年 2,400円(税抜き) (ISBN:978-4-8103-1482-3) 『原色食品図鑑』菅原、井上編集 建帛社 1974年 2,900円(税抜き) (ISBN:978-4-7679-6120-0)
成績評価基準	実習・課題レポートを全て提出し、調理学の知識や調理の段取りや要点を習得したと認められた者を合格とする。
成績評価の方法	実習・課題レポート(65%) 受講態度(20%) 実技・定期試験(15%) 以上により到達目標を達成しているか総合的に評価する。
GPA基準	
備考	※教育効果向上のため、2コマ(180分)×12回で実施する

科目名	調理学実習Ⅲ	科目ナンバー	S23464
担当者	今給黎 菊代		
授業形式	実習	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	専門科目[給食の運営]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養士・栄養教諭		

授業の概要	食はいのちに繋がるものである考えを基本とし、調理を科学的、文化的に捉える。また、楽しい食卓作りのために伝統的な日本料理、郷土料理の価値を再認識し、異なる国の食文化の様式、マナー等を理解して総合的に調理を行う。そして、最終的には現場において、栄養士が行う調理の専門性を発揮し幅広い料理の提供ができる栄養士として、社会で充分通用するスキルを身に着けることを目的とする。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食材に関する基礎的知識を身につけ食品を扱うことができる 2. 調理の基本動作と技術、実習の心得を身につける 3. 日本料理を中心に異なる国の食文化や調理法を理解し調理する

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(実習の心得)	今給黎
第2回	日本料理(お盆料理:かいのこ汁、がね 他)	今給黎
第3回	西洋料理(鯖の洋風煮、グリーンサラダ、ヴィシソワーズ 他)	今給黎
第4回	日本料理(秋の献立:銀杏入り菊飯、鮭の香り焼き、吹き寄せ煮 他)	今給黎
第5回	中国料理(?嗜肉、炸春捲、涼拌蕃子 他)	今給黎
第6回	日本料理(行楽弁当:秋刀魚の柚子庵焼、秋野菜の炊き合わせ 他)	今給黎
第7回	西洋料理(豚肉とトマトの重ね焼き、南瓜のクリーム煮、ジュリアンスープ 他)	今給黎
第8回	西洋料理(クリスマスメニュー:鶏肉のココナッツミルク煮、ロワイヤルスープ 他)	今給黎
第9回	日本料理(正月献立:鶏肉の鯉焼、錦玉子、菊花蕪、雑煮 他)	今給黎
第10回	西洋料理(白身魚のマヨネーズグラタン、パンプキンサラダ 他)	今給黎
第11回	中国料理(中華ちまき、棒棒鶏、炸釀茄子 他)	今給黎
第12回	日本料理(桃の節句:押しずし、鯛の道明寺蒸し 他)	今給黎
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	事前にレシピをフローチャート化し手順、器具、食器等を想定する			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	各料理について考察しレポートにまとめ提出する・日々調理に携わり、技術の向上に努める			学習合計時間(h)	24時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合は求めに応じ個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	木曜日 8:30~8:50 実習室(南202号室) 金曜日 8:30~8:50 実習室(南202号室)

テキスト	『NEW調理と理論』 山崎・島田・渋川ほか 同文書院 2600円 (ISBN-13: 978-4810313956) 調理学実習レシピ(毎時間配布)
参考文献等	『食品成分表』 香川芳子監修 女子栄養大学出版部 『調理のためのベーシックデータ』 松本仲子監修 女子栄養大学出版部
成績評価基準	食材に関する基礎的な知識及び調理の基本動作と技術を習得し、評価において6割以上の得点を合格とする。
成績評価の方法	受講態度(40%) 実習・課題レポート(30%) 実技試験(30%)
GPA基準	
備考	※教育効果向上のため、2コマ(180分)×12回で実施する

科目名	食品評価・鑑別実験	科目ナンバー	S21454
担当者	高本 亜希子		
授業形式	実験	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[関連科目]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択: 栄養士 必修: フードスペシャリスト		

授業の概要	現在、社会には多種多様な食品が溢れているが、品質や安全性を理解するためには、科学的、物理的、生物的に評価、鑑別する技術を持って対応することが必要である。本講では、食品学各論等で学んだ知識を、実験を通して体験させると共に、比較的簡易な鑑別法や高度な分析法によって、身近な食品の品質を評価する技術を実験によって習得させることを目的とする。
授業の到達目標	1. 食品の品質評価技術について理解する 2. 食品成分と評価の関係について理解する

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション	高本
第2回	食品中の有機酸の定量	高本
第3回	食塩の定量	高本
第4回	カルシウムの定量	高本
第5回	液体試料中のビタミンCの定量	高本
第6回	個体試料中のビタミンCの定量	高本
第7回	灰分中のミネラル分離	高本
第8回	鉄分の定量	高本
第9回	還元糖の定量	高本
第10回	グルテンの分離, マンニットの抽出	高本
第11回	アミノカルボニル反応, 香気成分の合成	高本
第12回	フラボノイド系色素, アントシアニン系色素の呈色反応	高本
第13回	ポリフェノールの測定	高本
第14回	新米・古米の判定	高本
第15回	総括・まとめ	高本

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○			
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	実験書に目を通し、実験内容を理解し、必要な準備を行う。			学習合計時間(h)	5時間
事後学習	実験に関連する課題と実験レポートを翌週の実験開始までに提出する。			学習合計時間(h)	10時間

課題に対するフィードバックの方法	レポートや課題に対して、必要に応じて個別に対応を行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。
オフィスアワー	月曜日、水曜日 13:00～14:30 研究室(本館503号室)
テキスト	授業で配布する資料
参考文献等	『食品学総論実験』 江角彰彦著 同文書院 2007年 2592円(税込み) (ISBN-10: 481031345X)
成績評価基準	授業毎の実験を行い、その結果を適切にまとめることができたものは合格とする。
成績評価の方法	受講態度(60%)、レポートの提出状況・内容(40%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	* 教育効果を向上させるため、1回の授業を2コマ(180分)で実施する。

科目名	食品加工学実習	科目ナンバー	S21337
担当者	木戸 めぐみ		
授業形式	実習	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[関連科目]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択必修(☆1単位):栄養士 選択必修(☆1単位):栄養教諭 必修:フードスペシャリスト		

授業の概要	食生活における加工食品の占める比率は、近年著しく増加している。また、食品の加工により、消費の拡大を促すことが期待されることから、地域活性化や商品開発の分野においても着目されている。本実習では食品学各論等の講義をふまえて、食品成分とその変化、食材の物性や栄養価、食品の保蔵性や安全性などを理解しながら加工技術を習得させ、広く食糧資源の確保と有効利用に役立てることを目標としている。
授業の到達目標	加工品を実習毎に1~2種類製造する。

授業計画		担当者
第1回	概要説明、ふくれ菓子、キャベツのレモン漬け	木戸
第2回	南瓜饅頭、大福	木戸
第3回	味噌、木綿豆腐	木戸
第4回	大学いも、いきなり団子	木戸
第5回	あくまき、いこもち	木戸
第6回	ミルクフレンチ、ピーナッツクリーム	木戸
第7回	梅漬け、ラッキョウの甘酢漬け、黒糖羊羹	木戸
第8回	昆布の佃煮、ところてん、しそ漬け込み	木戸
第9回	手打ちうどん、豚味噌、石けん	木戸
第10回	ソフトビスケット、ヨーグルト、マーマレード	木戸
第11回	加工食品の試作・検討	木戸
第12回	加工食品の作成・発表	木戸
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	加工食品の開発に関する情報収集を行う。			学習合計時間(h)	5時間
事後学習	実習に関連する課題と実習レポートを翌週の实習開始までに提出する。			学習合計時間(h)	10時間

課題に対するフィードバックの方法	レポートや課題に対して、必要に応じて個別に対応を行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。
オフィスアワー	火曜日 14:00～18:00 研究室(本館505号室)

テキスト	授業で配布する資料
参考文献等	特になし
成績評価基準	授業毎の加工品を製造し、課題レポートを提出したものは合格とする。
成績評価の方法	受講態度(10%) レポート(60%) グループワーク(30%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・教育効果を向上させるため、1回の授業を2コマ(180分)で実施する。 ・加工原料は収穫時期が変動するものがあるため、予定表は実習開始日に配布する ・COC関連 科目

科目名	食料経済	科目ナンバー	S21455
担当者	田代 正一		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[関連科目]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択必修(☆1単位):栄養士 選択必修(☆1単位):栄養教諭 必修:フードスペシャリスト		

授業の概要	戦後わが国では国民の食生活に大きな変化が起こった。なかでも主食である米の消費量の減少、畜産物や油脂類の消費の増加が目立っている。ところが畜産物生産に不可欠な家畜飼料や食用油の原料となる油糧種子のほとんどは海外からの輸入に頼っている。そのため、わが国ではカロリーベースの食料自給率が急速に低下してきた。また、国民の食生活では外食や中食が普及し、食の外部化が進んでいる。その結果、それを支える外食産業や中食産業、食品の加工業や流通業の経済規模が拡大する反面、食品の素材を生産する農業の経済規模が縮小している。このような食料の生産と消費をめぐる経済関係について概説する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食生活の変化と食料自給率の低下要因について理解する 2. 日本の食料貿易の現状と特徴について理解する 3. 日本の食料生産の現状と農業政策の展開について理解する

授業計画		担当者
第1回	食生活の変化と食料自給率の低下	田代
第2回	マクロ経済から見た農業・食料関連産業	田代
第3回	食の外部化の進展、生産と消費の乖離	田代
第4回	食料貿易の現状	田代
第5回	農家と農業法人	田代
第6回	アメリカにおける食料生産事情	田代
第7回	遺伝子組み換え食品について	田代
第8回	有機農業と有機食品	田代
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	テキストによる事前予習			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	配布プリントによる事後復習			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	火曜日 12:05～12:35 講義室(本館404号室)
テキスト	授業中に配布するプリント
参考文献等	『フードシステムの経済学 第6版』 時子山ひろみ他 医歯薬出版 2019年 2700円 (ISBN:978-4-263-70740-1)
成績評価基準	①食生活の変化と食料自給率の低下要因について理解できたか ②日本の食料貿易の現状と特徴について理解できたか ③日本の食料生産の現状と農業政策の展開について理解できたか 以上を判断して評価する。
成績評価の方法	ミニレポート(20%) 期末レポート(80%)
GPA基準	
備考	

科目名	消費経済論	科目ナンバー	S21456
担当者	田代 正一		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[関連科目]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:栄養士 必修:フードスペシャリスト		

授業の概要	国民の食生活パターンの変化は、わが国の経済発展によってもたらされたものであるが、同時に家庭の食生活行動様式の変化によるものでもある。加えて、食材供給における輸入の増大、食品流通における加工段階の拡大および外食産業の急展開が後押ししたものである。そのような食生活の変化を促すとともに支えてきた食品加工業、食品流通業、外食産業などの現状と課題について概説する。とりわけ、食品のマーケティング、卸売・小売の仕組み、食品流通におけるスーパーマーケットやコンビニエンス・ストアの役割などに注目する。食品消費をめぐる安全性確保や環境問題についても言及する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本における食生活の変化とその要因について理解する 2. 食料品の卸売および小売の流過程について理解する 3. 食の外部化を支えるフードビジネスの現状と課題を理解する

授業計画		担当者
第1回	食市場の変化(1)	田代
第2回	食市場の変化(2)	田代
第3回	食品の流通(1)	田代
第4回	食品の流通(2)	田代
第5回	外食・中食産業のマーチャンダイジング	田代
第6回	主要食品の流通	田代
第7回	フードマーケティング	田代
第8回	食料消費の課題	田代
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	テキストによる事前予習			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	配布プリントによる事後復習			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合、求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	火曜日 12:05～12:35 講義室(本館404号室)
テキスト	『三訂 食品の消費と流通』 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 2016年 1900円 (ISBN: 4767905389)
参考文献等	特になし
成績評価基準	1.日本における食生活の変化とその要因について理解できたか。 2.食料品の卸売および小売の流通過程について理解できたか。 3.食の外部化を支えるフードビジネスの現状と課題を理解できたか。 以上を評価の基準とする。
成績評価の方法	ミニレポート(20%) 期末レポート(80%)
GPA基準	
備考	

科目名	フードスペシャリスト論	科目ナンバー	S23465
担当者	木戸 めぐみ		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	専門科目[関連科目]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:栄養士 必修:フードスペシャリスト		

授業の概要	<p>フードスペシャリストとは、食品の開発、流通、小売り、外食の分野において、食品の品質判定、広報、食品知識の普及、販売促進、コーディネート、食育活動を目的とする消費者サイドに立った食の専門職である。この講義では、フードスペシャリストの意義とその概要、その役割を理解することを目的とする。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. フードスペシャリストの意義、概要、役割を理解する 2. フードスペシャリストの業務に必要な知識を習得する

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(フードスペシャリスト試験の説明)	木戸
第2回	フードスペシャリストとは(概念、業務、活躍、責務等)	木戸
第3回	現代日本の食生活(戦後から現代までの食生活の変化)	木戸
第4回	現代日本の食生活(食料自給率、環境と食関係を学ぶ)	木戸
第5回	食品産業の役割(製造業、小売業、外食産業)	木戸
第6回	食情報と消費者保護(食情報の実態、消費者保護制度)	木戸
第7回	食品表示(品質規格を学ぶ)	木戸
第8回	食品表示(食品表示法による表示)	木戸
第9回	食品表示(健康や栄養に関する表示)	木戸
第10回	人類と食物(食に関する歴史と技術史を学ぶ)	木戸
第11回	世界の食(食作法や禁忌、世界各地の食事情を知る)	木戸
第12回	日本の食(日本食物史を学ぶ)	木戸
第13回	食品の鑑別検査法(官能評価、化学的・物理的評価法)	木戸
第14回	食品の鑑別検査法(個別食品の鑑別法を学ぶ)	木戸
第15回	フードスペシャリスト資格認定試験対策	木戸

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	前もってテキストに目を通す。			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	資格認定試験に備えて過去問題を調べ、不明な点は質問する。			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	単元ごとに出す問題については、授業中解説を行う。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。また、必要に応じてメール等による質問・相談も受け付ける。
オフィスアワー	火曜日 14:00～18:00 研究室(本館505号室)

テキスト	『四訂フードスペシャリスト論第4版』(公社)フードスペシャリスト協会編、建帛社、2018、2,000円(税別) (ISBN978-4-7679-0604-1)
参考文献等	『フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集』1,200円(税別)、『三訂食品の官能評価・鑑別演習』2,200円(税別)、『三訂食品の安全性第2版』2,100円(税別)、『食品表示』1,500円(税別)、いずれも(公社)フードスペシャリスト協会編、建帛社
成績評価基準	フードスペシャリストの意義、概要、役割を理解し、業務に必要な知識を習得すること。
成績評価の方法	期末試験(100%)
GPA基準	
備考	学内他学科・他専攻科目

科目名	フードコーディネータ論	科目ナンバー	S22462
担当者	芝 香織		
授業形式	講義	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[関連科目]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:栄養士 必修:フードスペシャリスト		

授業の概要	「フードコーディネータ」とは、食に関する様々な場において要求する相手が満足できる状態を演出することである。その各食シーンで必要とされるフードコーディネータの基本的理念を把握し、食企画やテーブルコーディネータの演習を通し実践力を身につける。又、近年は「食の命」への感謝の念が喪失しつつある為、食の知識や技術に加えて、人の心に内在する食に対する充足感を満たすための心理的、文化的側面についての教養や感性の必要性を学習する。
授業の到達目標	1. フードコーディネータの基本理念の習得 2. 食に対する心理的・文化的側面についての教養・感性を磨く 3. 食企画の手法、実践とテーブルコーディネータの基礎知識を習得

授業計画		担当者
第1回	フードコーディネータの基本理念	芝
第2回	おいしさの本質	芝
第3回	食事の文化とその課題①(日本食の歴史)	芝
第4回	食事の文化とその課題②(行事食、郷土料理)	芝
第5回	食事の文化とその課題③(外国の食事)	芝
第6回	テーブルウェアと食卓の演出	芝
第7回	食卓のサービスとマナー	芝
第8回	食空間のコーディネータ	芝
第9回	フードサービスマネジメント①(マネジメントの基本)	芝
第10回	フードサービスマネジメント②(店舗経営について)	芝
第11回	メニュープランニング	芝
第12回	食企画のコーディネータ①(食企画の流れ)	芝
第13回	食企画のコーディネータ②(食企画に必要な基礎スキル)	芝
第14回	食企画のコーディネータ③(食企画の実践現場)	芝
第15回	総括	芝

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
			○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連	フードコーディネータや飲食店経営の実務経験を活かして、フードコーディネータとしての仕事、役割等について教授する。				
事前学習	教科書に目を通し、内容の把握を行う			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	理解できなかった内容を質問や文献、辞書等で調べる			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業前後、オフィスアワーに対応する。
オフィスアワー	水曜日 14:00～14:35 非常勤講師室(本館104号室)

テキスト	『フードコーディネート論』 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社 1,900円 (ISBN:978-4-7679-0440-5) 『たのしい!おいしい! テーブル・カラー・コーディネート』 日本色研事業株式会社 440円 (ISBN-13: 978-4901355254)
参考文献等	『日本食物史』 江原絢子著 吉川弘文館 4000円(税抜き) (ISBN:9784642080231) 『私の鹿児島料理』 今村知子著 柴田書店 (ISBN-13: 978-4388058167)
成績評価基準	フードコーディネーターの基礎的知識を習得できたと確認でき、評価において6割以上の得点を合格とする。
成績評価の方法	受講態度(60%) 定期試験(40%)
GPA基準	
備考	

科目名	フードコーディネーター演習	科目ナンバー	S22463
担当者	寺地 貴子		
授業形式	演習	関連するDPの番号	②
配当年次	2	科目群	専門科目[関連科目]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	選択:栄養士 必修:フードスペシャリスト		

授業の概要	フードコーディネーター論の基礎知識を基に、実践現場における食企画の基本的な流れと、企画を実践するために必要不可欠な基礎スキルの習得を目指す。
授業の到達目標	1. 食企画の実践 2. テーブルコーディネーターの実践

授業計画		担当者
第1回	フランス料理の初歩的な郷土料理の調理実習	寺地
第2回	西洋の食材の扱い方・栄養学・盛り付けなどの演出・コーディネーター	寺地
第3回	パーティスタイルのおもてなし・演出・コーディネーター	寺地
第4回	フィンガーフードと大皿盛りの料理の調理実習と盛り付け	寺地
第5回	フランス料理を取り入れたカフェメニューの調理実習	寺地
第6回	カフェメニューの盛り付け・演出などのコーディネーター	寺地
第7回	フランス料理のコース料理の調理実習(前菜・メイン料理・デザート)	寺地
第8回	真空調理などの特別な調理技術・フレンチの調理法・マナーの知識の習得	寺地
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○		○	
担当教員の実務経験と授業の関連	調理師とフードコーディネーターとしての実務経験を活かして、フードコーディネーター論について教授する。				
事前学習	授業前に教科書に目を通し、内容把握を行う			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	授業後は、理解できなかった内容を質問や文献、辞書等で調べ、過去問題を解く			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業後、または指導教員を通じて個別に対応する。
オフィスアワー	水曜日 14:30～14:40 講義室(南館201・本館309号室)

テキスト	特になし
参考文献等	フードコーディネータ論 日本フードスペシャリスト協会編 建帛社
成績評価基準	実習態度を基準に、レポートを提出してもらい、フードコーディネータについて理解し、評価において6割以上の得点を合格とする。
成績評価の方法	受講態度(25%) 定期試験(75%)
GPA基準	
備考	

科目名	くらしとお茶B	科目ナンバー	S23350
担当者	山崎歌織、田中敏弘、中禮雅治、松崎康弘、住澤知之、木戸めぐみ、有馬恵子		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	専門科目[関連科目]
開講期	前期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	複数
免許・資格情報	選択: 栄養士 選択必修: 日本茶アドバイザー		

授業の概要	茶は2千年以上にわたり、人類に好まれてきた歴史のある飲み物である。多くの研究により、茶の効能・効果が明らかになり、健康飲料として認知される一方、茶の淹れ方や文化を知らない人も増えている。この授業では、茶の歴史や栽培法、機能性、性質や利用法に関する講義や、品質検査・鑑定法、お茶の淹れ方等の実習を行う。これらの学びを通して日本茶アドバイザーとして必要な知識を身につけ、茶文化の発展と普及に寄与する人材の育成を育成する。
授業の到達目標	1. 日本茶アドバイザーの意義、概要、役割を理解できるようになる 2. 茶に関する知識と理解を深める

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(日本茶アドバイザーの説明)	山崎
第2回	歴史(日本茶、鹿児島茶の歴史を学ぶ)	松崎
第3回	茶の利用(茶を使った料理や活用法について学ぶ)	山崎
第4回	茶業のあらまし(茶の生産、消費、流通等を学ぶ)	田中
第5回	茶の栽培(種類別栽培・方法を学ぶ)	田中
第6回	茶の製造(製造方法を学ぶ)	田中
第7回	茶の化学(化学成分、品質等を学ぶ)	木戸
第8回	茶の健康科学(効能、効果等を学ぶ)	住澤
第9回	茶の品質検査と鑑定(官能検査法を学ぶ)	中禮
第10回	茶の品質検査と鑑定(鑑定技術を学ぶ)	中禮
第11回	インストラクション技術(服装、話し方、接客)	有馬
第12回	インストラクション技術(日本茶アドバイザーとして必要な項目)	中禮
第13回	インストラクション技術(日本茶アドバイザーとしての実技)	中禮
第14回	インストラクション技術(茶の淹れ方)	中禮
第15回	インストラクション技術(茶の鑑定の実際)	中禮

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	授業前にテキストを読んでおく			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	日常生活の中で、お茶の葉の種類、色や香り、味等を確認する			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題が課された場合は、担当者が個別に指導を行う。
質問・相談方法	基本的には、授業の前後で質問・相談に対応する。その他、オフィスアワーに対応する場合もある。
オフィスアワー	集中講義開講期間 8:40～16:20（各講義室）

テキスト	『日本茶アドバイザー講座Ⅰ、Ⅱ』NPO法人日本茶インストラクター協会（協会による実習費に含まれるため、テキスト代として単独販売は行わない）
参考文献等	『シリーズ《食品の科学》茶の科学』村松敬一郎編、朝倉書店
成績評価基準	日本茶アドバイザーの意義、概要、役割を理解し、茶に関する知識と理解が深められた者を合格とする。
成績評価の方法	定期試験60分(70%)と実技テスト(30%)で総合的に評価する。
GPA基準	
備考	夏季休暇集中講義

科目名	教育相談	科目ナンバー	S21458
担当者	宮里 新之介		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	専門科目[関連科目]
開講期	後期	卒業の選択・必修	選択
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	選択: 栄養士 必修: 栄養教諭・ピアヘルパー		

授業の概要	<p>カウンセリングと教育相談の理解を深め、様々な問題を抱えた児童・生徒や保護者への支援、多職種(スクールカウンセラーなど)との連携について説明する。また、学習の理解を深められるよう、仮想事例を用いて具体的な支援の方向性を見出すグループワークを実施し、その解説を行う。</p>
授業の到達目標	<p>1. 学校現場での児童・生徒の適応上の問題について理解する 2. カウンセリングの基本的知識と技能を習得し、児童生徒及び保護者への対応について考えることができる</p>

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション／教育相談とは	宮里
第2回	カウンセリングと教育相談	宮里
第3回	スクールカウンセラーの役割	宮里
第4回	学級経営と教育相談①(小学校)	宮里
第5回	学級経営と教育相談②(中学校)	宮里
第6回	児童生徒の逸脱・問題行動と教育相談	宮里
第7回	不登校と教育相談	宮里
第8回	いじめ問題と教育相談	宮里
第9回	非行と教育相談	宮里
第10回	特別支援教育と教育相談	宮里
第11回	保護者への援助	宮里
第12回	学校における教育相談システム	宮里
第13回	地域諸機関との連携	宮里
第14回	教育相談と教師の研修	宮里
第15回	総括	宮里

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
		○	○		
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	意味のわからない用語は辞書等で調べておくこと			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	前授業の理解度を測るためのミニテストを実施する場合がありますので、復習をして授業に臨む			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー、また毎授業で実施する質問・感想記入シートへの回答で対応する。
オフィスアワー	木曜日 10:35~12:05 研究室(本館312号室)
テキスト	特になし
参考文献等	『教師教育テキストシリーズ⑭ 教育相談』 広木克行(編著) 学文社 2008年 1800円(税抜別) (ISBN978-4-7620-1664-6)
成績評価基準	児童・生徒の適応上の問題についての理解、及びカウンセリングの基本的知識と技能を習得し、児童生徒及び保護者への対応について考えることができること。
成績評価の方法	学期末の定期試験(80%)、講義時の受講態度及びミニテスト(20%)で総合的に判定する。
GPA基準	
備考	他学科開放科目

科目名	教育課程	科目ナンバー	S21339
担当者	横峯 孝昭		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	栄養教諭関連科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	—
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養教諭		

授業の概要	学習指導要領の総則を読み解き、体験していた小学校の教育課程が学習指導要領、法令に従って作られていることを学ぶ。さらに、例外的な教育課程等についても理解を深め幅広い教育課程について学ぶ。
授業の到達目標	1. 学習指導要領の総則を読み解くことにより、小学校の教育課程について理解する。 2. その基本的な考え方について理解する。

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション(教育課程とは)	横峯
第2回	教育課程と学習指導要領(学習指導要領の歴史)	横峯
第3回	教育課程の基準と法令	横峯
第4回	小学校教育の基本と教育課程の役割	横峯
第5回	教育課程編成における共通的事項	横峯
第6回	授業時数及び指導計画の作成	横峯
第7回	教育課程の実施と学習評価	横峯
第8回	学校運営上の両異事項(総則第5:カリキュラムマネジメント)と本講義の総括	横峯
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				○
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	学習指導要領の全文、解説書を一字一句読み解くことはしないため、一度は目を通しておく			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	講義を行ったところが、学習指導要領のどの部分の内容であったかの確認とそれに基づく解説書の内容の確認			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	課題を課した場合(定期試験を含む)求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	講義の前後、オフィスアワーに対応する。
オフィスアワー	月曜日 16:30~18:00 研究室(西館401号)

テキスト	小学校学習指導要領(平成29年3月公示 文部科学省) 小学校学習指導要領解説 総則編(平成29年6月 文部科学省)
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する。
成績評価基準	教育課程の基準となる法令について理解し、学習指導要領総則に書かれているの内容について理解すること。
成績評価の方法	定期試験(100%)
GPA基準	
備考	

科目名	道徳教育の指導法	科目ナンバー	S23467
担当者	村若 修		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	栄養教諭関連科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	—
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養教諭		

授業の概要	<p>栄養教諭として小学校・中学校で行われる道徳教育や「特別の教科道徳」の理論と実際についてについて学習する。なお、本授業では受講者にグループでの協働的な学びを求める。自分の考えを他者に伝え、他者の考えを受容的に受け止め、思考を深めてほしい。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「道徳とは何か」について説明することができる。 2. 道徳教育および道徳科の目標と内容を理解している。 3. 道徳科の授業を構想することができる。

授業計画		担当者
第1回	道徳教育に関する自分自身の体験の振り返りと本授業への動機づけ	村若
第2回	道徳とは何か？	村若
第3回	学校における道徳教育のしくみ	村若
第4回	道徳科の授業を構想する①—授業方法—	村若
第5回	道徳科の授業を構想する②—教材—	村若
第6回	道徳科の授業を構想する③—評価—	村若
第7回	構想した授業案を発表する	村若
第8回	まとめとレポート作成	村若
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○		○		○
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	道徳科の授業を構想するにあたっての事前準備を求める			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	道徳科の授業を構想するにあたっての事後の振り返りを求める			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	ミニツツペーパーや課題については、提出した次の授業で要点に触れ、フィードバックする。個別にコメントすることもある。
質問・相談方法	次のいずれかの方法による。(1)授業時のミニツツペーパーに質問事項を記入する。(2)授業後に質問をする。(3)オフィスアワーを利用する。
オフィスアワー	火曜日15:00～17:00 研究室(西館410号室)

テキスト	小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 (平成29年6月 文部科学省)
参考文献等	授業中に適宜資料を配布する
成績評価基準	到達目標が十分に達成されること
成績評価の方法	定期試験(80%)、小レポート(20%)
GPA基準	
備考	

科目名	総合的な学習の時間の指導法	科目ナンバー	S21457
担当者	松崎 康弘		
授業形式	講義	関連するDPの番号	①
配当年次	2	科目群	栄養教諭関連科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	—
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養教諭		

授業の概要	前半は学習指導要領の読み込みや実践事例の分析を通して、総合的な学習の時間の目標・内容・評価等について理解を深める。後半は指導計画の作成・討論・振り返りをおとして、総合的な学習の時間の単元を構成する力を高める。
授業の到達目標	総合的な学習の時間において、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。

授業計画		担当者
第1回	イントロダクション(本授業の目的についての説明、小学校等の実践の振り返り)	松崎
第2回	総合的な学習の時間の目標と意義	松崎
第3回	総合的な学習の時間を踏まえたカリキュラム・マネジメント	松崎
第4回	総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例(1)(横断的・総合的な課題)	松崎
第5回	総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例(2)(地域や学校の特色に応じた課題)	松崎
第6回	総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例(3)(児童の興味・関心に基づく課題)	松崎
第7回	総合的な学習の時間における体験活動の意義	松崎
第8回	総合的な学習の時間におけるICTの活用	松崎
第9回	総合的な学習の時間における施設等の活用	松崎
第10回	探究的な学習の過程	松崎
第11回	総合的な学習の時間の評価	松崎
第12回	総合的な学習の時間の年間指導計画の事例	松崎
第13回	総合的な学習の時間の単元計画の作成	松崎
第14回	単元計画の発表と討論	松崎
第15回	これからの総合的な学習の時間の在り方	松崎

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○		○
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	・指導要領解説の指定部分を読んでおく ・食育等に関する文献を図書館で探す			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	・定期試験に向けて総復習を行う			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	求めに応じて個別に対応する。
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	月曜日 14:30～16:20 研究室(西館411号室)

テキスト	小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 (平成29年6月 文部科学省)
参考文献等	特になし
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の目標や内容を理解している。 ・指導計画作成、実践のための基礎的な能力を有している。
成績評価の方法	定期試験(100%)
GPA基準	
備考	

科目名	特別活動の指導法	科目ナンバー	S23468
担当者	山元 有一		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	栄養教諭関連科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	—
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養教諭		

授業の概要	何より小学校における特別活動の内容、その目的を概略し、特に学級活動について具体的な授業実践について考えていく。
授業の到達目標	特別活動は「なすことによって学ぶ」を前提としており、学級や学校の生活作りの共同作業を通して、より個性的でより社会的な成長を促進するものである。特に求められているのは、コミュニケーションの力、社会への積極的な関与の意思、生涯にわたる子どもの自己実現の意欲である。そのためには学生自身がそうした者にあらかじめなっていないといけない。本講義では以上のことを、指導の在り方や方法を含めた特別活動の具体的な内容に沿って進めていく。

授業計画		担当者
第1回	特別活動の意義、目的—学校における生活作りとしての特活	山元
第2回	特別活動の内容—小中の学習指導要領を用いて	山元
第3回	学級活動(話し合い活動、係活動)	山元
第4回	学級活動(図書館、食育)—教員のチーム化も踏まえて	山元
第5回	児童会活動、クラブ活動、学校行事	山元
第6回	特別活動と他の教科との関連性—特別教科道徳との関連性を踏まえて	山元
第7回	特別活動の具体的な指導法(学級活動)—合意形成はいかにして可能か?	山元
第8回	特別活動の具体的な指導法—食育との関係で	山元
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○				
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	2年前期に栄養教育実習を済ませているので、実習での当別活動に係る経験や知識を振り返っておく 各講義の終わりに次回の内容についての事前学習について触れる			学習合計時間(h)	10時間
事後学習	講義中に参考図書等の紹介で示すほか、オフィスパワー等で関連事項や発展的内容について伝える			学習合計時間(h)	20時間

課題に対するフィードバックの方法	各講義や定期試験の事後学習支援の一環として、オフィスアワーを利用して個別に対応する。
質問・相談方法	講義の終了後に来談学生に対してオフィスアワーの対応時間を調整する。
オフィスアワー	水曜日、木曜日を除く15:00～17:00(西館4階406号室)。要事前連絡(連絡方法は初回の講義で伝える)。

テキスト	小学校学習指導要領解説 特別活動編 (平成29年6月 文部科学省)
参考文献等	講義中、参考資料としてプリントを配布する。
成績評価基準	提出されたレポートが「授業の到達目標」を満たしていること。
成績評価の方法	最終レポート(100%) 講義期間中に小学校での栄養教育実習があるので、それを踏まえること
GPA基準	
備考	

科目名	栄養教育実習指導	科目ナンバー	S23348
担当者	山崎 歌織		
授業形式	講義	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	栄養教諭関連科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	—
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養教諭		

授業の概要	<p>栄養教育実習の意義・目的を理解し、教育実習生としての心得を確認させる。そして、栄養教育実習の目標を達成し得るための準備を行うよう指導する。また、栄養教諭としての自覚や心構えを養い、児童生徒の実態について理解を深め、食に関する適切な指導ができる実践的能力を培うことを目的とする。同時に栄養教諭としての資質能力を高めることを目標とする。栄養教育実習後には、実習で得たことや反省を記録としてまとめ、教諭になるための目標や課題を明確にさせる。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養教育実習の意義・目的を理解する 2. 食に関する学習指導案および関係資料を作成する 3. 児童生徒に対し食教育を実践する能力を身につける

授業計画		担当者
第1回	栄養教育実習事前オリエンテーション	山崎
第2回	学校教育における栄養教育実習の位置づけ・実習の流れ	山崎
第3回	実習記録等の記録方法および提出について	山崎
第4回	栄養教育実習の心得	山崎
第5回	学習指導案の作成(実態把握・計画)	山崎
第6回	学習指導案の作成(展開・評価)	山崎
第7回	「食に関する指導」(個別・集団指導、教材作成)	山崎
第8回	栄養教育実習を振り返り課題や反省をまとめ、今後にいかすために共有する	山崎
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○		
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	事前準備を十分に行い提出物の期限を守るようにする			学習合計時間(h)	15時間
事後学習	事後には資料の整理や記録のまとめを行う			学習合計時間(h)	15時間

課題に対するフィードバックの方法	提出された課題やレポートに対し、評価後は返却する。質問事項や相談等がある場合は、個別に対応する。
質問・相談方法	授業終了時やオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	水曜日 15:00～17:00 研究室(西館308号室)

テキスト	特になし、適宜資料を配布する。
参考文献等	『食に関する指導の手引』文部科学省 東山書房 2008年 1,200円 (ISBN978-4-8278-1453-8) 『かんたんCD-ROMですぐできるあなたの学習指導案!』鹿児島県学校栄養士協議会 鹿児島県『栄養教諭論 理論と実際』金田雅代 建帛社
成績評価基準	実習参加に必要な課題や提出物は全て提出し、授業への積極的な参加等により、合格点以上の者を合格とする。
成績評価の方法	課題等提出物(70%) 受講態度(30%) 教諭になる為の資質が備わっているかも含め総合的に評価する。
GPA基準	
備考	

科目名	栄養教育実習	科目ナンバー	S23349
担当者	山崎 歌織		
授業形式	実習	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	栄養教諭関連科目
開講期	前期	卒業の選択・必修	—
単位数	1	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養教諭		

授業の概要	栄養教育実習の意義・目的を理解し、栄養教諭の職務や学校での役割等について主に鹿児島県内の小・中学校において理解を深めさせる。また、児童生徒の実態について理解した上で、栄養教諭としての児童生徒への指導方法を学ばせる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 栄養教諭の職務を理解し体験する 2. 児童生徒に対する指導の実際を学び実践する 3. 学校教諭として責任ある教育活動を営む実践力を養う

授業計画		担当者
第1回	教師としての心構え、教員の服務規律等の指導講話	実習先担当者
第2回	学校経営・学校校務分掌・教育計画	実習先担当者
第3回	学級担任と学級経営、学級指導	実習先担当者
第4回	「食に関する指導」の年間計画の説明	実習先担当者
第5回	給食時間における放送 配膳 後片付け指導の参観補助	実習先担当者
第6回	食に関する指導等 各教科の参観	実習先担当者
第7回	食に関する指導等 学級活動等の参観	実習先担当者
第8回	児童生徒への個別的な相談に対する指導の参観補助	実習先担当者
第9回	食に関する指導の家庭・地域との連携・調整の参観補助	実習先担当者
第10回	食に関する指導 等 教科・学級活動等の教材研究	実習先担当者
第11回	学習指導案の作成(実態把握・計画)の実際	実習先担当者
第12回	学習指導案の作成(展開・評価)の実際	実習先担当者
第13回	食に関する指導(教科)の実施	実習先担当者
第14回	食に関する指導(学級活動)の実施	実習先担当者
第15回	食に関する指導に対する指導・評価	実習先担当者

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
				○	○
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	課題を行い実習校で十分に学習できるように事前準備を怠らない			学習合計時間(h)	5時間
事後学習	資料の整理やまとめを行い実習記録等の提出をする			学習合計時間(h)	10時間

課題に対するフィードバックの方法	提出された課題やレポートを確認し、不備がある場合は再提出を行い、実習校での学習が充実したものになるよう進める。
質問・相談方法	メールやオフィスアワー等に対応する。
オフィスアワー	水曜日 15:00～17:00 研究室(西館308号室)

テキスト	『食に関する指導の手引』 文部科学省 東山書房 2008年 1,200円 (ISBN978-4-8278-1453-8)
参考文献等	かんたんCD-ROM ですぐできる あなたの学習指導案！ 鹿児島県学校栄養士協議会
成績評価基準	実習校の評価を基に、到達目標が達成できたと判断された者を合格とする。
成績評価の方法	実習校の評価を基に「栄養教育実習事前事後指導」の成果を含めて総合的(100%)に行う
GPA基準	
備考	COC関連科目

科目名	教職実践演習(栄養教諭)	科目ナンバー	S23466
担当者	山崎 歌織、児玉 むつみ		
授業形式	演習	関連するDPの番号	③
配当年次	2	科目群	栄養教諭関連科目
開講期	後期	卒業の選択・必修	—
単位数	2	担当形態	単独
免許・資格情報	必修:栄養教諭		

授業の概要	これまでに履修した授業、学外研修及び給食管理実習、栄養教育実習等を有機的に関連付けて学び栄養教諭として必要な資質能力を高めることを目的とする。そのために食農教育についての知識を深め、農業などの生産に関わることで苦労や喜びを体験し、栄養教諭としての専門性を高めさせる。鹿児島市内の栄養教諭ほか現場教諭、管理職経験者から指導を受け社会性や対人関係能力など教育者としての人間性を身につけさせる。さらに、模擬授業や活動発表を通して教育指導力を向上させる。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 履修カルテを基に自らの課題と目標を明確にする 2. 教諭の使命感や責任感を自覚し栄養教諭の資質向上を目指す 3. 社会性や対人関係能力を身につけ、教育指導力を向上させる

授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション及び「履修カルテ」を用いた学修の振り返り	山崎・児玉
第2回	地域に根差した食育活動についての講義、第1回食育教室の計画・準備	山崎・児玉
第3回	第1回食育教室の開催「食育絵本読み聞かせ」「農作物を用いた調理実習①」	山崎・児玉
第4回	第2回および第3回食育教室の計画・準備	山崎・児玉
第5回	第2回食育教室の開催「農作物を用いた調理実習②」	山崎・児玉
第6回	味噌を使用した菓子レシピの開発	山崎・児玉
第7回	紫苑祭「味噌を使用した菓子の試食提供」および「食育絵本読み聞かせ」	山崎・児玉
第8回	第3回食育教室の開催「農作物を用いた調理実習③」	山崎・児玉
第9回	「霧島・食の文化祭」における第4回食育教室の計画・準備	山崎・児玉
第10回	「霧島・食の文化祭」における第4回食育教室の開催「食育ワークショップ」「食育絵本読み聞かせ」「活動発表」「味噌料理の展示・試食(霧島市)」	山崎・児玉
第11回	「霧島・食の文化祭」の運営参画(霧島市)	山崎・児玉
第12回	現職栄養教諭の授業参観及び講話	栄養教諭の外部講師
第13回	教師の魅力や教科の指導力についての講義	松崎
第14回	使命・責任・教育的愛情等に関する管理職経験者の講話	外部講師
第15回	2年間の学習により得た事や社会で発揮すべき栄養士・栄養教諭の仕事についての個人発表	山崎・児玉

授業に含まれる活動	ディスカッション・討議	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習(実験・実技)・フィールドワーク	その他の活動 ※ICT教育等を含む
	○	○	○	○	
担当教員の実務経験と授業の関連					
事前学習	調査や準備を行った上で演習に参加する			学習合計時間(h)	30時間
事後学習	演習の振り返りやまとめを行い、レポートを提出する			学習合計時間(h)	30時間

課題に対するフィードバックの方法	オフィスアワーの時間に個別に対応する
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーの時間に対応する
オフィスアワー	山崎:水曜日 15:00~17:00 研究室(西館308号室) 児玉:水曜日 15:00~18:00 研究室(南館104号室)
テキスト	『食に関する指導の手引』 文部科学省 東山書房 2008年 1,200円 (ISBN978-4-8278-1453-8)
参考文献等	かんたんCD-ROM ですぐできる あなたの学習指導案！ 鹿児島県学校栄養士協議会 鹿児島県
成績評価基準	栄養教諭としての資質向上や社会性、対人関係能力を身につけ、教育指導力が向上されたかを判断し、合格点以上の者を合格とする。
成績評価の方法	受講態度(40%)、提出物(40%)、討論等への参加状況(20%)により、総合的に評価する。
GPA基準	
備考	COC関連科目